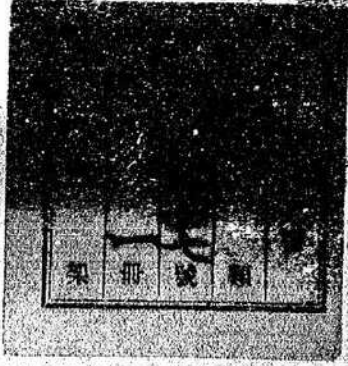


12-10

朝鮮總督府救療機關



朝鮮總督府

朝鮮總督府救療機關正誤

一六頁 各道總督醫院定員

忠清南道ノ次

金羅北道

醫員

書記

助手又ハ

江原道ノ次

通譯生

平安北道

醫員

書記

助手又ハ

平安南道助手又ハ

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

通譯生

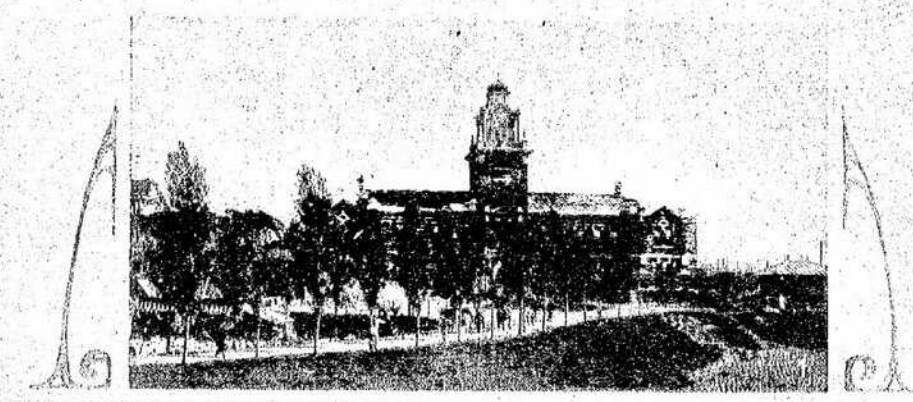
通譯生

通譯生

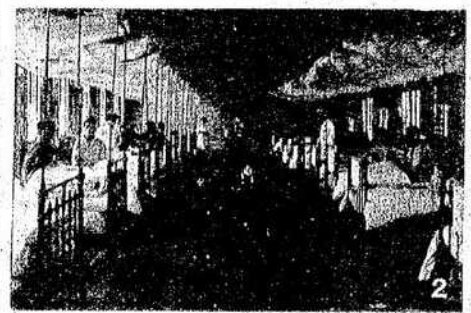
通譯生

498.19
147

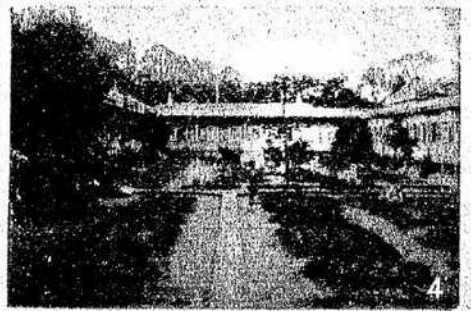
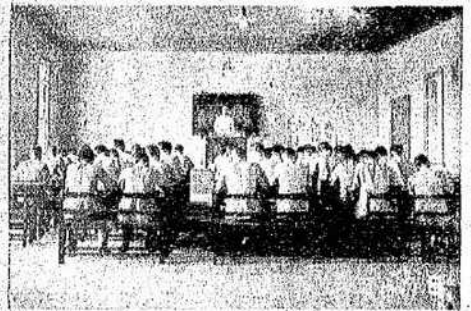
(1) 朝鮮總督府醫院



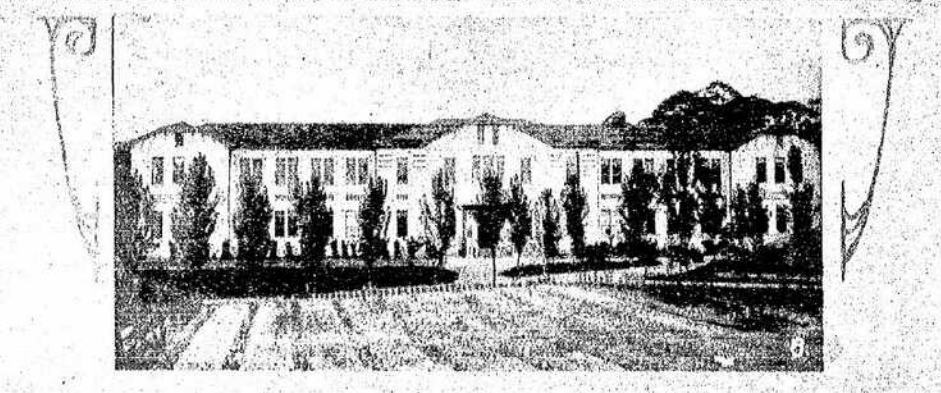
(2) 朝鮮總督府醫院普通病室
(3) 朝鮮總督府醫院施療病室

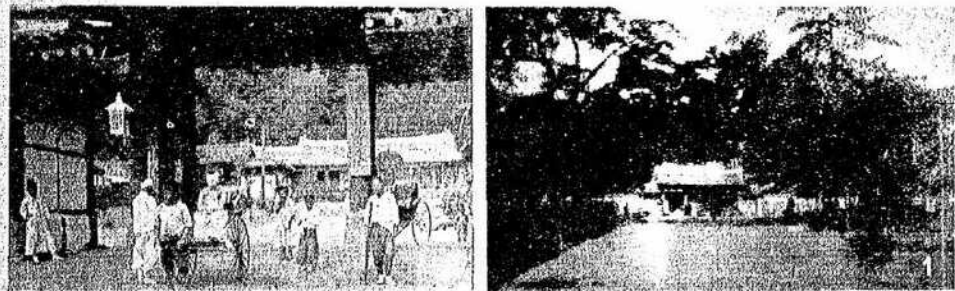


(4) 朝鮮總督府醫院內庭
(5) 朝鮮總督府醫院附屬醫學講習所教室



(6) 朝鮮總督府醫院醫學講習所



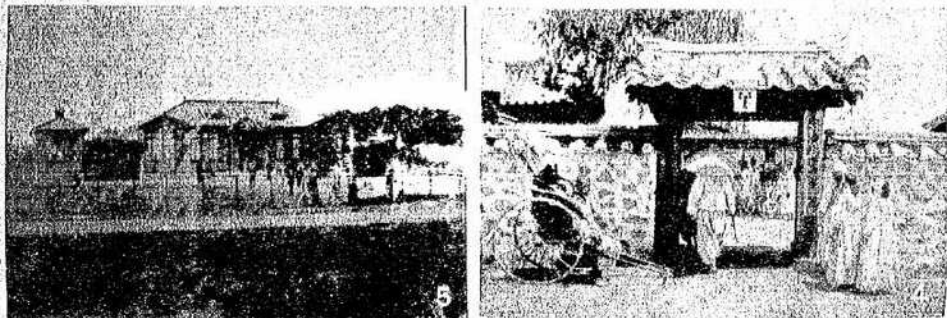


(1) 京畿道慈惠醫院(水原)

京畿道慈惠醫院患者引入ノ状況



(8) 京畿道慈惠醫院調劑室及投薬口



(4) 忠清北道慈惠醫院(清州)舊建物

忠清北道慈惠醫院(清州)新築院舎



(6) 忠清北道慈惠醫院(清州)舊建物
外科手術室ノ外景

(1) 忠清南道慈惠醫院(公州)



(2) 忠清南道慈惠醫院(公州)投藥口ノ狀況



(3) 忠清南道慈惠醫院朝鮮人看護婦患者搬送ノ狀況



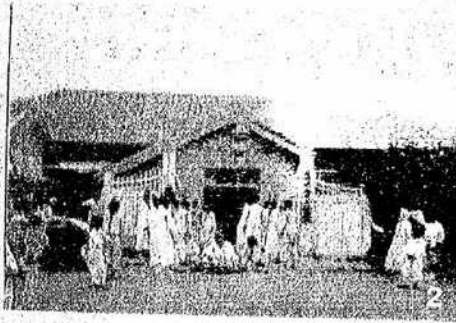
(4) 全羅北道慈惠醫院(全州)



(5) 全羅北道慈惠醫院(全州)朝鮮人病室



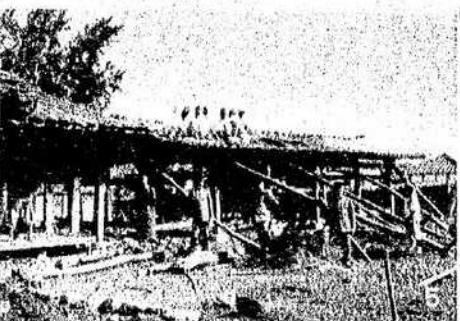
(1) 全羅南道慈惠醫院ニ充用シテ
レ建物修繕ノ狀況(光州)
慶尙北道慈惠醫院(大邱)



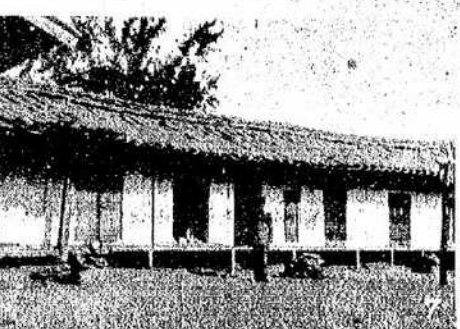
(3) 全羅南道慈惠醫院修繕後落成ノ狀況
(4) 慶尙北道慈惠醫院患者待合ノ狀況

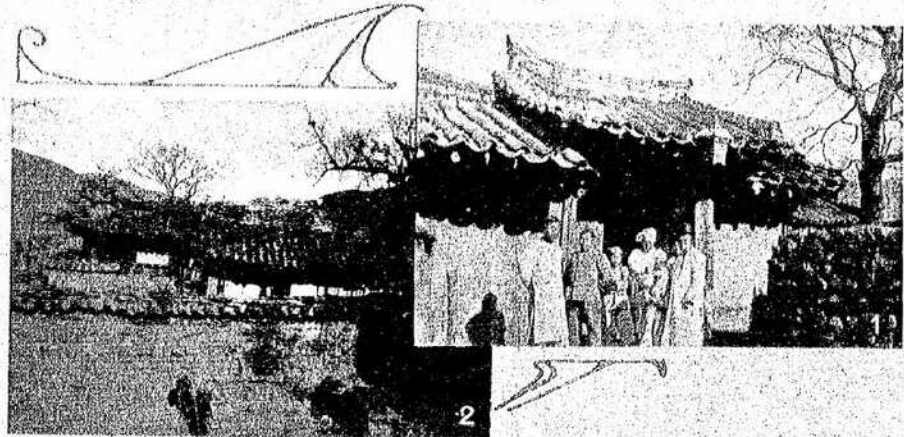


(5) 全羅南道慈惠醫院病室建物修繕ニ
著手ノ狀況
慶尙北道慈惠醫院患者診察ノ狀況



(8)(7) 全羅南道慈惠醫院修繕後落成ノ狀況
於テ入院患者慰安ノ爲メ落音機演奏





(1) 慶尚南道慈惠醫院(晋州)

(6) 江原道慈惠醫院(春州)



(4) 黃海道慈惠醫院患者診察ノ狀況(海州)

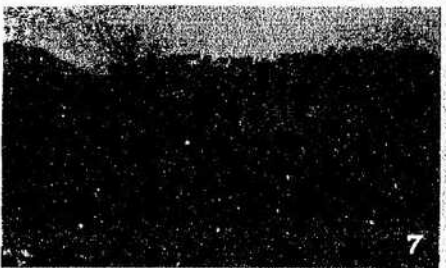
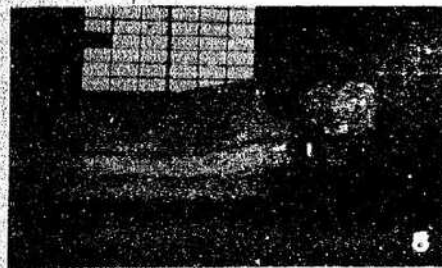


(3) 黃海道慈惠醫院(海州)



(6) 慶尚南道慈惠醫院病室
看護婦 左方ハ同院ニ於テ養成シタル朝鮮人看護婦





(1) 平安南道慈惠醫院(平壤)

(2) 平安南道慈惠醫院患者來集之狀況

(3) 平安南道慈惠醫院患者診察之狀況

(4) 成鏡北道慈惠醫院入院患者看護之狀況

(5) 平安北道慈惠醫院患者診察之狀況

(6) 成鏡南道慈惠醫院(成興)看護之狀況

(7) 成鏡北道慈惠醫院(鏡城)患者待合所前之狀況

(8) 成鏡南道慈惠醫院患者看護之狀況

498
4947
147

凡例

- 一 本書ハ朝鮮總督府醫院及朝鮮總督府道慈惠醫院設置ノ由來並各醫院院務ノ狀況、診療成績等ヲ明治四十四年六月末日ノ現況ニ依リ調査蒐輯シタルモノナリ
- 一 各醫院診療患者ハ漸次増加ノ趨勢ヲ示シ且一面ニハ院舎ノ設備亦次第ニ整頓シツ、アルヲ以テ今日ニ於テハ各院ノ狀況多少其ノ趣ヲ異ニスルモノアリト雖本書ハ單ニ調査當時ノ現況ニ依リ記述セリ
- 一 沿革ヲ明ニスル爲必要アリト認ムル限り現ニ效力ナキ法令類ヲモ挿入セリ

明治四十五年一月

朝鮮總督府

朝鮮總督府救療機關

(明治四十四年七月二十日勅)

目次

第一章 救療機關設置ノ由來	一頁
第一節 既往ニ於ケル一般衛生狀態及醫術ノ程度	一
第二節 朝鮮總督府醫院及慈惠醫院ノ設置	三
第三節 慈惠醫院ノ増設	一三
第二章 醫院ノ現況	二〇
第一節 診療ノ狀況	二〇
第二節 往診及出張診療	二七
第三節 職員勤務ノ狀況	二八
第四節 救療ニ對スル一般ノ感想	三〇
第三章 醫院ニ於ケル診療患者	四〇
第四章 醫院ノ經理	四三
第一節 院會	四三
第二節 經費	四七
第五章 醫院ニ於ケル醫育事業	五四
第一節 醫師ノ養成	五四

第二節 看護婦及助産婦ノ養成.....

附 録

種痘及痘苗製造.....

朝鮮總督府救療機關

朝鮮總督府ニ於ケル救療機關ハ朝鮮總督府醫院及慈惠醫院ニシテ朝鮮總督府醫院ハ京城ニ慈惠醫院ハ各道ニ之ヲ設置セリ其ノ創立以來ノ成績ニ徴スルニ從來醫療機關ノ缺乏ニ苦ミタル地方人民ニ療病ノ便ヲ與ヘ殊ニ窮民患者ニ對スル施藥救療ハ一般民心ノ融和ニ裨益スル所尠キニ非サルヲ認ム今其ノ設置ノ由來及診療成績等ヲ敘述スルコト左ノ如シ

第一章 救療機關設置ノ由來

第一節 既往ニ於ケル一般衛生狀態及醫術ノ程度

朝鮮ニ在リテハ諸種ノ制度昔時ヨリ萎靡廢頽ニ歸シ衛生上ノ施設ノ如キモ近時ニ至ル迄何等見ルヘキモノナク加フルニ迷信ヲ尙ヒ不潔ヲ厭ハサル等ノ陋習久シクシテ拔クヘカラサルモノアルヲ以テ醫術ハ毫モ進歩セス人民一般ノ衛生思想ハ極メテ幼稚ニシテ其ノ生活狀態未タ全ク未開ノ域ヲ脱セサルモノ多シ例ヘハ普通ノ朝鮮人ハ衣食住並身體ニ關シテ清潔ノ觀念甚乏シク其ノ住家ニ便所ノ備アルモノ稀ニシテ且塵芥ノ如キモ隨處ニ之ヲ投棄シテ敢テ異マサルカ如キ陋習アリ又下水溝汚水溜ノ設備完カラサルカ故ニ汚水ハ自然地層ニ滲透シ土壤ハ爲ニ汚濁セラレ隨テ市街地ニ於ケル井水ハアンモニア亞硝酸及多量ノ格魯兒等ヲ包含セサルハナク殆ト飲料ニ適スルモノナキニモ拘ラス人民ハ其ノ良否ヲ鑑別スル智識ナキヲ以テ之ヲ飲用ニ供シ敢テ意ニ介スルコトナシ故ニ消化器系ノ疾患ニ罹ル者頗ル多ク之ヲ爲到ル處消化器病ノ患者ヲ見サルコトナク殊ニ赤痢腸窒扶私ノ如キ傳染病ハ年々各地ニ多少ノ流行ヲ繼續シ容易ニ熄滅ニ至ラス又往々虎列刺ノ侵襲ヲ被リ近クハ一昨年千七百七十五人昨年四百八十

六人ノ患者ヲ發生セリ口碑ノ傳ル所ニ依レハ今ヲ距ル二十五年前虎列刺ノ流行頗ル慘劇ヲ極メ一日ノ死者千五百ノ上ニ達シタルコトアリタリト謂フ然ルニ民間普通ニ虎列刺ヲ惟疾ト唱ヘ人力ヲ以テ濟フヘカヲサル災厄ナリトシ進テ豫防消毒ノ方法ヲ講スル者ナシ又人民ハ痘瘡ヲ以テ人生必ス經過セサルヘカヲサルモノトシ之ニ對シテ毫モ豫防ノ方法ヲ講セサルノミナラス同病ニ罹ルヲ以テ寧ロ自然ノ數ナリト思惟スル者多シ況ンヤ種痘ノ效力ヲ解スル者ノ如キハ極メテ鮮少ニシテ官ヨリ種痘施行ノ命ヲ受クルヤ徒ニ疑懼ノ念ヲ懷キ之ヲ忌避スル者多ク其ノ甚シキハ往々故ヲニ隱遁奔竄ヲ企ツル如キ狀況ナリ故ニ痘瘡ハ殆トト地方病ノ觀ヲ呈シ年々各地ニ多少ノ流行ヲ見サルナク其ノ患者數ハ各種傳染病ノ首位ヲ占メ爲ニ小兒ノ死亡スル者尠カラス而モ民間ニ於テ痘瘡ニ對スル一種ノ迷信行ハレ患者ノ屍體ヲ樹枝ニ懸垂スルカ如キ以テ衛生思想ノ幼稚ナルニ斑ヲ知ルニ足ラム其ノ他下層社會ニ於テハ一般ニ居住ノ不潔ナルト沐浴ヲ取ルコト稀ナルカ爲身體ノ不潔ニ因スル皮膚病頗ル多シ又花柳病ハ比較的多ク又阿片煙吸用及モルヒネ注射ノ習癖到ル所其ノ跡ヲ絶タサルカ如キ衛生上最憂フヘキ狀態ナリ

醫師ノ數ハ總テ二千五百五十五人内地人二百六十三朝鮮人千八百九十二ニシテ即チ人口一萬人ニ付醫師一人六八醫師一人ニ對シ人口六千二人ノ割合ナリ之ヲ内地ノ人口一萬人ニ付醫師七人三七醫師一人ニ對スル人口千三百五十七人ナルニ比シ醫師分布ノ粗密到底同日ノ論ニ非ス抑朝鮮ニ於ケル醫術ハ早ク支那ヨリ傳來シタルモノニシテ中古ニ於テハ醫業ニ從事スルモノヲ内醫房外ト稱セリ内醫ハ現今ノ典醫ニ相當シ一定ノ試驗ヲ經テ任用セラレ宮中藥房ニ勤務スル者ヲ謂ヒ房外ハ内醫ニ對スル民間醫師ノ名稱ニシテ内醫ノ診術ニ據ルモノト内醫房外ノ子弟ニシテ其ノ師ノ所見ニ依リ認許セララルヘモノトアリタリ前掲朝鮮人醫師ノ内政府ニ於テ公然醫師タルコトヲ認メタル者九十七人ヲ除キ約千八百人ハ皆内醫房外ノ餘流ヲ汲ミ醫業ニ從事スル者ニシテ固ヨリ醫學ノ素養アルニ非ス其ノ多クハ藥種若ハ賣

藥營業ヲ爲スノ傍ヲ僅ニ患者ノ脈搏又ハ肌温ヲ檢シ又ハ患者ノ訴フル症候ニ依リ之ニ適應セリト認ムル藥劑(漢藥)ヲ投與スルノ類ニ過キスシテ到底司命ノ任ヲ全フスルニ足ラス此ノ缺欠ニ乘シ古來種々ノ迷信行ハレ巫呪加持祈禱等神佛ノ加護ヲ以テ醫藥ニ優レルモノトシ又ハ往々民間ニ流行スル不合理ナル治療法ヲ信シテ疾病平癒ノ目的ヲ達セムトスル者アリ偶醫藥ニ頼ラムト欲スル者アルモ醫師ノ分布極メテ稀薄ナルヲ以テ容易ニ之ヲ求ムルコトヲ得ス況ンヤ多數ノ窮民ニ至リテハ藥餌ノ料ヲ支フヘキ資力ナキヲ以テ空シク苦惱ヲ忍ンテ轉歸ヲ自然ノ經過ニ委シ恢復シ得ルヘキ患者モ不幸ニシテ天命ヲ全フスル能ハサルカ如キコト現時ニ於テモ尙普通ニ見ル所ナリ

第二節 朝鮮總督府醫院及慈惠醫院ノ設置

一 朝鮮總督府醫院

朝鮮人一般ノ衛生狀態カ容易ニ未開ノ域ヲ脱セサルハ其ノ醫術頗ル幼稚ニシテ近世醫術ノ眞價ヲ知ラサルモノ確カニ其ノ一因タラスシハアラス而モ其ノ醫師スラ分布極メテ稀薄ナルカ故ニ救療機關ヲ設置シテ醫師ノ缺乏ヲ補ヒ日新ノ醫術ヲ應用シ人民ヲシテ文明ノ恩惠ニ賴ラシムルト同時ニ衛生ノ何タルヲ理解セシメ以テ仁政ノ惠澤ニ浴セシムルハ衛生行政上緊要ナルノミナラス人民ヲ啓發シテ福利ヲ増進セシムルニ就テ直接間接ニ至大ノ效果アルヘキハ言フ俟タズ由テ先ツ中央救療機關トシテ明治四十年(光武十一年)京城ニ大韓醫院ヲ設ク即チ今ノ朝鮮總督府醫院ノ前身タリ抑京城ニ於ケル醫事機關トシテハ明治三十二年(光武三年)廣濟院ナルモノヲ設ケタルヲ以テ創始トス其ノ目的タル廣ク民衆ノ疾苦ヲ濟ヒ兼テ種痘ヲ普及スルニ在リタリト雖其ノ效果ニ至リテハ全ク記スヘキモノナシ當時又別ニ官立京城醫學校ヲ設ケ附屬病院ヲ置キ明治三十七年(光武八年)貧民施療ヲ目的トシテ赤十字病院創設セラレタルモ共ニ其ノ功程ノ記スヘキモノナシ要スルニ以上ノ施設其ノ規模何レモ狭小ニシテ經營方法亦宜

シキヲ得ス國家機關トシテ見ルニ足ルモノナキヲ以テ軍口此三者ヲ合同シテ完全ナル一大機關ヲ構成シ時世ノ要求ニ應スルニ如カスト爲シ茲ニ醫院新築ノ計畫ヲ樹テ明治四十年(光武十一年)大韓醫院官制ノ發布ヲ見タリ當時陸軍々醫總監醫學博士佐藤進韓國衛生顧問トシテ專ラ其ノ設計監督ノ任ニ當リ一而親シク院務ヲ統督シ馬鞍山高燥ノ地三萬餘坪ヲ相シ同年十月ヲ以テ起工式ヲ舉ケ翌年十一月其ノ工ヲ竣ヘタリ建物ハ本館、病室及附屬舍等二千九百坪ニシテ之カ工費並設備費ニ要セシ所ノ金額實ニ五十三萬七千七百餘圓ナリ茲ニ於テカ宏壯ナル厦屋ハ巍然トシテ丘上綠樹ノ間ニ聳ヘ城東ニ一偉觀ヲ呈スルニ至レリ茲ニ官制發布ト同時ニ廣濟院ノ舊建造物ヲ利用シテ事務ヲ開始シタルカ新築醫院ノ竣工ト共ニ之ニ移轉シ茲ニ初メテ合同ノ實ヲ舉クルニ至レリ

大韓醫院官制ハ發令後二回ノ改正ヲ經タリ初メ同醫院ハ議政府ニ直隸シ總裁ヲ置キ總裁ニハ皇族ヲ仰キ院長ハ内部大臣之ヲ兼攝セリ而シテ醫院ノ事務ハ之ヲ治療部、教育部、衛生部ノ三部ニ分チ治療部ニ於テハ患者ノ診療、教育部ニ於テハ醫師ノ養成ヲ掌リ衛生部ニ於テハ醫師、藥劑師及產婆ノ業務並藥品、賣藥取締ニ關スル事項、傳染病及地方病ノ豫防、種痘其ノ他公衆衛生ニ關スル事項、檢査、檢疫及停船ニ關スル事項、衛生會及地方病院ニ關スル事項等ヲ掌レリ即チ當時ニ在テハ大韓醫院ハ衛生行政ノ中樞機關ニシテ一般衛生行政ノ事務ヲ統轄シ且衛生警察事務ヲモ管掌シタリシナリ然レトモ其ノ間僅々十閱月ニテシテ成績トシテハ何等記スヘキモノナク明治四十一年(隆熙二年)一月ノ官制改正ニ依リ大韓醫院ハ内部大臣ノ管理ニ屬シ治病、醫育及衛生試驗ニ關スル事項ヲ掌ルコト、ナリ其ノ事務ヲ治療部、醫育部、衛生試驗部ニ分チ茲ニ全ク衛生行政事務ト分離セリ明治四十二年(隆熙三年)二月更ニ官制ヲ改正シ衛生試驗部ヲ廢止シテ内部衛生局試驗課ヲ置キ同年十一月大韓醫院分課規程ヲ設ケ內科、外科、眼科、產科、婦人科、耳鼻咽喉科、小兒科、皮膚科、齒科、藥劑科、庶務課ノ十一科課ニ區分シ各科課ニ長ヲ置クコト、セリ而シテ明治四十三

年九月三十日ニ至リ大韓醫院ヲ朝鮮總督府醫院ト改メ其ノ官制ヲ發布セラレタリ朝鮮總督府醫院官制及同事務分掌規程左ノ如シ

勅令第三百六十八號 明治四十三年九月三十日

朝鮮總督府醫院官制

- 第一條 朝鮮總督府醫院ハ朝鮮總督ノ管理ニ屬シ疾病ノ診療ニ關スル事ヲ掌ル
- 第二條 醫院ニ附屬醫學講習所ヲ置キ醫師、產婆及看護婦ノ養成ニ關スル事ヲ掌ル
- 第三條 醫院ニ左ノ職員ヲ置ク
 - 院長 勅任
 - 醫官 專任 九人 奏任(內二人ヲ勅任ト)
 - 教官 專任 一人 奏任
 - 事務官 專任 一人 奏任
 - 藥劑官 專任 一人 奏任
 - 醫員 專任 十人 奏任又ハ列任
 - 書部 專任
 - 教員 專任
 - 調劑手 專任 二十四人 列任
 - 助手 專任
 - 通譯生 專任

第四條 院長ハ朝鮮總督ノ指揮監督ヲ承ケ院務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ監督ス

第五條 醫官ハ院長ノ命ヲ承ケ診療ニ關スル事項ヲ掌ル

第一章 救護機關設置ノ由來

- 第六條 教官ハ院長ノ命ヲ承ケ醫師、產婆及看護婦ノ養成ニ關スル事項ヲ掌ル
 - 第七條 事務官ハ院長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌ル
 - 第八條 藥劑官ハ院長ノ命ヲ承ケ藥品、醫療器械及治療材料ニ關スル事項ヲ掌ル
 - 第九條 醫員ハ上官ノ命ヲ承ケ診療ニ從事ス
 - 第十條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
 - 第十一條 教員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ醫師、產婆及看護婦ノ養成ニ從事ス
 - 第十二條 調劑手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ藥品、醫療器械及治療材料ニ關スル事項ニ從事ス
 - 第十三條 助手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ診療及調劑ノ事務ヲ助ク
 - 第十四條 通譯生ハ上官ノ指揮ヲ承ケ通譯ニ從事ス
- 附則
本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮總督府勅令第十六號 明治四十三年十月一日

朝鮮總督府醫院事務分掌規程

第一條 總督府醫院ニ內科、外科(齒科ヲ含ム)、眼科、產科、婦人科、小兒科、耳鼻咽喉科、皮膚科、藥劑課、醫育課及庶務課ヲ置ク

第一章 救護機關設置ノ由來

- 各科課ニ長ヲ置キ必要ノ場合ハ副長ヲ置ク
- 第二條 内科、外科、眼科、産科、婦人科、小兒科、耳鼻咽喉科、皮膚科ニ於テハ患者ノ診療ニ關スル事項ヲ掌ル
- 第三條 藥劑課ニ於テハ調劑製劑及衛生材料ノ保管、修理ニ關スル事項ヲ掌ル
- 第四條 醫務課ニ於テハ醫務ニ關スル事項ヲ掌ル
- 第五條 庶務課ニ於テハ人事會計及庶務ニ關スル事項ヲ掌ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

又同醫院ニ於テハ明治四十四年五月左ノ通院內處務規程ヲ定メ施行セリ

朝鮮總督府醫院處務規程

第一章 事務擔當

- 第一條 藥劑課ニ調劑主任、材料主任及試驗主任ヲ置ク
- 一、調劑主任ハ左ノ事務ニ從事ス
 - 一、調劑製劑及處方箋保存ニ關スル事項
 - 二、材料主任ハ左ノ事務ニ從事ス
 - 一、衛生材料ノ保管出納及修理ニ關スル事項
 - 二、試驗主任ハ左ノ事務ニ從事ス
 - 三、試驗主任ハ左ノ事務ニ從事ス
- 第二條 庶務課ニ庶務主任、會計主任及用度主任ヲ置ク
- 一、庶務主任ハ左ノ事務ニ從事ス

- 官印及圖印ノ管守ニ關スル事項
- 儀式典禮ニ關スル事項
- 職員ノ進退及機密ニ關スル事項
- 公文書ノ接受發送ニ關スル事項
- 外來患者及患者ノ入院退院ニ關スル事項
- 統計ニ關スル事項
- 院內取締ニ關スル事項
- 他ノ主管ニ屬セサル事項
- 二、會計主任ハ左ノ事務ニ從事ス
 - 一、歲入歲出ノ豫算決算ニ關スル事項
 - 給與ニ關スル事項
 - 衛生材料ノ購入ニ關スル事項
 - 金銭出納ニ關スル事項
 - 收入支出證書ノ調査ニ關スル事項
 - 三、用度主任ハ左ノ事務ニ從事ス
 - 一、物品ノ修理購入及保管出納ニ關スル事項
 - 敷地建物ニ關スル事項
 - 雜役人夫及舟車馬使用ニ關スル事項
 - 領置物品保管出納ニ關スル事項
 - 物品取扱ニ關スル事項
- 第二章 文書取扱
- 第三條 公文書類ハ庶務主任ニ於テ之ヲ接受シ件名、接受年月日及番號等ヲ簿冊ニ記入シ同一ノ要項ヲ本書ニ附記シ課長ノ指示ヲ受クヘシ
- 電報ニハ譯文ヲ付スヘシ但シ暗號電報ニ任リテ

ハ其ノ譯文ヲミテ配付スヘシ
職員ニ宛テタル親展文書ハ封緘ノ儘之ヲ名宛人ニ送付スヘシ

- 親展書收受簿ハ別ニ之ヲ作ルヘシ
- 第四條 發送スヘキ文書ハ簿冊ニ件名、發送ノ年月日及番號ヲ記入シ同一ノ要項ヲ成案及本書ニ記入シ課長ノ檢印ヲ受ケ之ヲ發送スヘシ
- 第五條 秘密文書ハ前二條ノ取扱ニ準シ別ニ簿冊ヲ設ク處理スヘシ
- 第六條 完結文書ハ完結ノ記號ヲ附シ左ノ種別ニ依リ保存スヘシ
 - 一、永久保存ノ要アリト認ムルモノ
 - 二、二十年間保存ノ要アリト認ムルモノ
 - 三、三年間保存ノ要アリト認ムルモノ
 - 四、保存ノ要ナシト認ムルモノ
- 保存年限ハ文書完結ノ翌年ヨリ起算ス
- 第七條 文書編纂ノ方法ハ各科課長之ヲ定ム
- 第八條 文書ハ曆年毎ニ之ヲ編冊シ卷首ニ索引ヲ付スヘシ但シ曆年ニ從ヒ難キモノハ此ノ限ニ在ラズ
- 第九條 完結後尙秘密ヲ要スル書類ハ別ニ編纂シ表紙ニ「秘」字ヲ記シ鎖鑰アル書籍ニ保存スヘシ
- 第十條 文書ノ保存期限ヲ經過シタルトキハ各科課長ハ院長ノ承認ヲ經テ其ノ廢棄ヲ決定スヘシ
- 保存ノ必要ナシト認メタル書類ハ各科課長ニ於テ毎年十二月末之ヲ取廻メ廢棄ノ手續ヲ爲スヘシ

第一章 救護機關設置ノ由來

- 第十一條 文書ハ各其ノ關係科課ニ於テ之ヲ保存スヘシ
- 第十二條 公文書ハ院長ノ許可ヲ得シテ之ヲ他人ニ示シ又ハ其ノ謄本ヲ與フルコトヲ得ス
- 第三章 患者取扱
- 第十三條 外來患者ニ對シテハ庶務課受付ニ於テ其ノ原籍、住所、氏名、年齢、職業及月日ヲ記シタル診察券及番號札ヲ交付シ之ヲ診察所ニ差出サシムヘシ
- 第十四條 各科ニ於テ診察券ヲ受ケタルトキハ其ノ番號順ニ診察又ハ治療ヲ施シ處方箋ヲ交付シ之ヲ料金收納口ニ差出サシムヘシ
- 會計主任藥價又ハ料金ヲ收納シタルトキハ處方箋ニ收納濟證印ヲ捺シ之ヲ調劑主任ニ送付スヘシ
- 第十五條 調劑主任ニ於テ處方箋ヲ受ケタルトキハ收入濟證印アルモノニ限リ藥劑又ハ治療材料ヲ交付スヘシ
- 第十六條 各科ニ於テ入院シ要スヘキ患者ト診斷シタルトキハ入院通知書ヲ交付シ庶務課受付ニ差出サシムヘシ
- 庶務主任ハ前項ノ通知ニ依リ入院ノ手續ヲ爲シ之ヲ會計主任ニ通知スヘシ
- 會計主任前項ノ通知ニ接シ保證金ヲ納付セシムルノ必要アリト認メタルトキハ收納ノ手續ヲ爲スヘシ
- 患者ヲ收容シタル病室ノ看護婦長ハ主任醫官若ハ

第一章 救護機關設置ノ由來

職員ノ指揮ニ依リ賄供給者ニ向テ食糧傳票ヲ發ス

第十七條 各科ニ於テ入院患者ニ手術ヲ施シタルトキハ手術通知簿ヲ以テ手術ノ等級若ハ其ノ料金ヲ會計主任ニ通知スヘシ

第十八條 各科ニ於テ退院セシムヘキ者アルトキハ前日申ニ退院通知書ニ退院月日及轉歸ヲ記入證印シ之テ庶務主任ニ送付スヘシ庶務主任ハ簿冊ニ記入ノ上之ヲ會計主任ニ通知シ會計主任ハ入院料徴收及保證金還付ノ手續ヲ爲スヘシ

第十九條 各科ニ於テ診療シタル患者數ハ毎日之ヲ庶務課ニ通知スヘシ

第二十條 診斷書檢案書傷寒策定書傳染病報告書等ハ主任醫官若ハ醫員立案ノ上科長ノ認印ヲ得成案ヲ庶務課主任ニ送付スヘシ料金ヲ徴收スヘキモノハ其ノ通知書ヲ添付スヘシ

第二十一條 圖書ハ庶務課長之ヲ管理ス

第二十二條 圖書ヲ借覽セムトスル者ハ圖書室ニ備フル簿冊ニ定式ノ記入ヲ爲シ各科課長ノ檢印ヲ受

申込ムヘシ但シ借覽期間ハ二週日以内トシ之ヲ他人ニ轉貸スルコトヲ許サス

第二十三條 借覽期間中ト雖醫院ニ於テ必要アリト認メタルトキハ返納セシムルコトアルヘシ

第二十四條 圖書ヲ閱覽セムトスル者ハ圖書室ニ於テ閱覽スヘシ

第二十五條 機密圖書ノ借覽又ハ閱覽ハ院長ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第二十六條 法令全書及診療上日常必要ノ圖書ハ科課長ノ請求ニ依リ當該科課ノ備付ト爲スコトヲ得

第二十七條 圖書ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ其ノ損害ヲ賠償セシムルコトアルヘシ

第二十八條 宿直員ハ左ノ如シ

第二十九條 宿直ハ平日ト休日トヲ區別シ藥劑課庶務課ニ在リテハ平日ハ退院時限ニ休日ハ昇廳時限ニ始リ翌日昇廳時限ニ終リ科ニ在リテハ平日ト休日トノ別ナク昇廳時限ニ始リ翌日昇廳時限ニ終ル

第三十條 宿直中取扱タル事項ハ其ノ要領ヲ日誌ニ記載シ翌朝之ヲ所屬科課長ニ提出スヘシ

第三十一條 宿直順番ハ庶務課長之ヲ定ム但シ新任者ハ任命ノ當日ヨリ一巡ノ後ニ至リ宿直トキハ左ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十二條 庶務宿直員ハ院內一切ノ取締ニ注意シ宿直中ノ雇員備入ヲ指揮監督ス

第三十三條 庶務宿直員公文書及電報ヲ接受シタルトキハ左ノ手續ヲ爲スヘシ

一 院長宛親展書及親展電報ハ直ニ院長ニ送付スヘシ

二 職員ニ宛テタル至急親展書及親展電報ハ直ニ名宛人ニ送付スヘシ

三 前二號以外ノ電報ハ宿直員之ヲ開封シ要急ノモノト認メタルトキハ譯文ヲ付シ之ヲ庶務課長又ハ名宛人ニ送付スヘシ

第三十四條 宿直員ニ於テ公文書又ハ電報ノ發送ヲ命セラレタルトキハ直ニ之ヲ發送スヘシ

第三十五條 庶務宿直員ハ夜間二回以上總會及病室ヲ巡察スヘシ

第三十六條 宿直職員ハ一回以上各病室ノ狀況ヲ巡視シ重症患者ノ回診ヲ爲スヘシ

第三十七條 庶務宿直員ハ入院患者ニシテ病症増進、

第一章 救護機關設置ノ由來

危篤又ハ死亡ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ院長及庶務課長ニ報告シ同時ニ保證人ニ通知スヘシ

第三十八條 宿直職員ハ入院患者ノ食餌ヲ檢査スヘシ

第三十九條 退院時間後又ハ休日ニ於テ診察若ハ投藥ヲ受ケムトスル者アルトキハ各宿直員ハ第三章各條ニ據リ分擔處理スヘシ其ノ入院ヲ要スル者ニ於テ亦同シ

第四十條 前條ノ場合ニ於テ藥價又ハ其ノ他ノ料金ヲ徴收シタルトキハ假收入ヲ爲シ翌朝會計主任ニ引繼クヘシ

第四十一條 宿直員疾病ノ爲勤務ニ堪ヘサルトキハ次番者ニ引繼クヘシ

朝鮮總督府醫院職員左ノ如シ(六月三十日現在)

院長	陸軍少將 藤田 嗣章
院 官	內科長 醫學博士 森安 連吉
	外科長 陸軍三等軍醫正 室谷 信太郎
	婦人科長 陸軍一等軍醫 藤井 虎彦
	內科副長 陸軍一等軍醫 神岡 一孝
	小兒科長 陸軍一等軍醫 河野 衛
	皮膚科長 陸軍一等軍醫 荒井 元
	眼科長 陸軍一等軍醫 宇野 功一
	內科副長 陸軍一等軍醫 宮永 忠司
藥劑官	藥劑課長 宮永 忠司
	藥劑課長 宮永 忠司

事務囑託	松林鎮次郎	同	森川滋賀彦
醫員	山口梁平	同	岡 忍
同	坂川清造	同	廣川藤吉
同	小林千壽	同	康 乘 結
同	渡邊 亮	同	姜 元 永
同	賀來倉太	同	池 成 沈
同	土橋 末雄	同	康 大 植
同	古城 貞	同	尹 泰 夏
同	松下宇太郎	道 生	瀧口亮造
同	嶺 峻	外	
同	長谷川太郎	雇 員	
同	高萩春吉	看護婦	
同	木島 茂	看護婦見習	
同	吉川彌五右衛門	專攻助手見習	
同	外賀勝五郎	附屬醫學講習所	
事務囑託	皮 秉 俊	教 官	佐藤剛藏
醫務補助囑託	林 熊 五 郎	教 員	酒井露治郎
同	神田豐三郎	庶務教員囑託	西川明松
同	佐藤常吉	助 手	吳 一 相
同	小島 勝 三	朝鮮總督府醫院長ハ附屬醫學講習所長、醫官、藥劑官、	
同	安部修三	醫員調劑手ハ同教授ヲ兼務セリ	

醫院創設以來未タ年所ヲ閱セスト雖幾多ノ改革ヲ經テ今日ニ於テハ院舎ノ設備、醫療器械、藥品其ノ他ノ材料職員ノ配屬等略ホ完備ノ域ニ達シ患者診療上些ノ不便ヲ感スルコトナク中央醫療機關トシテ殆ト遺憾ナキニ至レリ

二 慈惠醫院

京城及其ノ附近ノ地ニ於ケル窮民患者ハ總督府醫院ノ設立ニ依リ施藥救療ノ恩惠ニ浴スルヲ得ルニ至リタリト雖其ノ他ノ地方ニ在リテハ全然是等ノ機關ヲ缺如セルヲ以テ之ヲ實地ノ狀況ニ鑑ミ慈惠的救療機關ヲ特設シテ之ヲ各道ニ普ネカラシムル必要アリ會明治四十三年八月陸軍大臣ハ朝鮮ニ於ケル慈惠救療ノ用ニ供スル爲韓國駐劄陸軍倉庫ニ收藏セル醫療器械藥品等價額約五萬圓ニ相當スル衛生材料ヲ割キ之ヲ統監府ニ移シ統監府ハ更ニ之ヲ韓國政府ニ交付シタルヲ以テ同政府ハ茲ニ初メテ地方慈惠醫院設立ノ計畫ヲ樹テ慈惠醫院官制及同特別會計法等ヲ發布シ先ツ全羅南道全州忠清北道清州及咸鏡南道咸興ノ三箇所ニ之ヲ設置シ清州全州ハ明治四十二年(隆熙三年)十二月十日咸興ハ四十三年一月二十五日各其ノ院務ヲ開始セリ是ニ於テ附近ノ人民ハ恰モ暗夜ニ光明ヲ認メタルカ如ク多大ノ歡喜ヲ以テ之ヲ迎ヘ未タ正式ノ開院ヲ告ケサルニ早クモ來テ診療ヲ請フ者續々踵ヲ接スルニ至レリ開院ノ當初ニ在リテハ朝鮮人ニシテ未タ曾テ醫治ヲ受ケタル經驗ナキ者殊ニ内地人醫師ニ接シタルコトナキ者多キヲ以テ多少其ノ治術ニ就テ疑懼ノ念ヲ懷ク者アルヘキヲ慮リ其ノ診察及療法ニ就テハ治療上著シキ支障ナキ限リ成ルヘク從來ノ慣習ニ逆ハス患者ノ嫌惡ヲ避ケ安心ヲ與フルコトニ努メタリ殊ニ婦人ハ肌膚ヲ曝露シ又ハ之ニ接觸スルヲ厭忌スルカ故ニ最初ハ望診問診檢脈等ニ依テ對症療法ヲ施シ漸次診療方法ヲ進メタルニ遂ニハ文明醫術ノ信賴スヘキヲ覺リ自ヲ進テ秩序的檢診ノ下ニ治療ヲ受クルニ至レリ故ニ婦人患者ノ如キモ日々増加シテ男女ノ比例漸次接近シ來リ就中難産ノ手術ヲ求ムル者又ハ生殖器系ノ疾患ニ依リ來院スル者尠カラス又開院當初ニ在リテハ來テ診療ヲ請フ者概ネ醫院所在地若ハ其ノ附近ノ居住者ノミナリシガ醫院救療ノ趣旨一般ニ周知セラレ治術ノ效驗喧傳スルニ及ンテ遠ク十數里以外ヨリ興シテ來ルモノアルニ至レリ

慈惠醫院創立當時ニ於ケル官制及同特別會計法左ノ如シ

- 第一條 慈惠醫院官制(元韓勅令第七十五號) 附則 一 成興慈惠醫院 成鏡南道成興
病ノ診療ニ關スル事務ヲ掌ル 本令ハ頒布ノ日ヨリ施行ス
慈惠醫院ハ必要アル時ハ貧窮者ニ非サル病者ノ診
療ヲ爲スコトヲ得
- 第二條 慈惠醫院ノ診療ハ無料トス
第三條 慈惠醫院ニ左ノ職員ヲ置ク
院長 奏任
助手 奏任又ハ判任
書記 判任
通譯 判任
第四條 院長ハ職員ノ内一人ヲ以テ之ニ充テ内部大
臣ノ指揮監督ヲ承ク院務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ監
督ス
第五條 職員ハ院長ノ指揮ヲ承ク職務ヲ掌ル
第六條 助手ハ上官ノ指揮ヲ承ク職務並調劑ニ關ス
ル事務ニ從事ス
第七條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承ク庶務ニ從事ス
第八條 通譯ハ上官ノ指揮ヲ承ク通譯事務ニ從事ス
第九條 慈惠醫院ノ名稱及位置ハ左ノ如シ
- | | |
|----------|--------|
| 一 全州慈惠醫院 | 全羅北道全州 |
| 一 清州慈惠醫院 | 忠清北道清州 |
- 法律第二十五號 隆熙三年八月三十日
慈惠醫院特別會計法
第一條 慈惠醫院ノ會計ハ特別トシ其ノ歳入及政府
ノ支出金ヲ以テ其ノ歳出ニ充ツ
第二條 政府ノ支出金ハ壹箇年ノ額ヲ四萬五千圓ト
シ毎年度一般會計ヨリ編入ス
第三條 慈惠醫院特別會計ノ歳出額ハ豫算定額内ニ
於テ實際ノ歳入及政府支出金ノ合計額ヲ超過スル
コトヲ許サス
第四條 慈惠醫院ノ歳入歳出豫算ハ決定ノ後所管大
臣ハ各慈惠醫院院長ニ命シテ之ヲ執行セシム
第五條 所管大臣ハ毎年度慈惠醫院ノ歳出豫算計
書ヲ編製シ前年度八月三十一日マテニ度支部大臣
ニ送付スヘシ
第六條 所管大臣ハ毎年度慈惠醫院歳入歳出決算報
告書ヲ編製シテ翌年度九月三十日マテニ度支部大
臣ニ送付スヘシ
第七條 慈惠醫院毎年度歳入ノ殘額ハ遞次翌年度ニ
繰越使用スルコトヲ得
附則
本法ハ頒布ノ日ヨリ施行ス

第三節 慈惠醫院ノ増設

忠清北道全羅北道咸鏡南道ニ於テハ慈惠醫院ノ設置ニ依リ附近人民ハ施藥救療ノ恩惠ニ浴シ何レモ近
世醫術ノ巧妙ナル治驗ニ感歎セサルハナク衆庶舉テ仁政ヲ謳歌スルニ至レリ此ノ成績ニ徵シ他各道ニ
於ケル窮民患者ニシテ頼ルニ醫ナク求ムルニ藥ナキ者ニ對スル同情ハ又一層深カラサルヲ得ス是ニ於
テ明治四十三年六月統監ハ特ニ韓國政府ヲ促シ慈惠醫院増設ノ計畫ヲ樹テシメ即チ同政府ハ七月二十
一日ヲ以テ慈惠醫院官制第九條ニ追加シテ新ニ水原公州光州大邱晉州海州春川平壤義州及鏡城ニ之ヲ
設置スルコト、シ直ニ準備ニ著手シ尋テ日韓併合ヲ經テ九月ニ至リテ各醫院ヲ開始シ茲ニ各道一院ノ
配置ヲ見ルニ至レリ

統監府告示第二百八號 明治四十三年九月十五日	統監府告示第二百二十四號 明治四十三年九月二十一日
水原公州平壤大邱ニ於テ左記ノ通慈惠醫院ヲ開始セ	春川晉州鏡城義州海州光州ニ於テ左記ノ通慈惠醫院
左記	左記
官立水原慈惠醫院	官立春川慈惠醫院
官立公州慈惠醫院	官立晉州慈惠醫院
官立平壤慈惠醫院	官立鏡城慈惠醫院
官立大邱慈惠醫院	官立義州慈惠醫院
	官立海州慈惠醫院
	官立光州慈惠醫院
九月五日ヨリ開始	九月九日ヨリ開始
九月五日ヨリ開始	九月十二日ヨリ開始
九月六日ヨリ開始	九月十三日ヨリ開始
九月七日ヨリ開始	九月十四日ヨリ開始
	九月十九日ヨリ開始
	九月二十五日ヨリ開始

以上各醫院ノ開始ヲ告クルヤ從來醫師ノ治療ヲ受クル能ハサリシ附近一般患者殊ニ窮民患者ハ汎ク施
藥救療ノ恩澤ニ均霑スルヲ得ルニ至リ各地方人民ハ舉テ仁慈博愛ナル新政ニ對シ深ク感謝ノ意ヲ表シ

競テ醫院ノ門ニ膺集セリ尙各道長官ニ於テハ管内ニ論達ヲ發シ慈惠醫院長ハ郡守面長會議若ハ警察署長會議等ノ好機ヲ利用シテ慈惠醫院設立ノ趣旨目的ヲ一般ニ周知セシムルノ法ヲ講シタル結果其ノ趣旨漸次遠近ニ傳ハリ加フルニ醫藥ノ效驗著々事實ノ上ニ現ハルハニ及ンテ信賴ノ度愈厚ク爲ニ一般精神上ニ及ホシタル感化ハ實ニ鮮少ナラサルカ如シ

大韓醫院及各道慈惠醫院ニ關シ明治四十三年八月二十九日韓國併合ノ際ニ發セラレタル統監ノ諭告左ノ如シ抄録

凡ソ人生ノ憂患ハ疾病ヨリ酷シキハ莫シ從來朝鮮ノ醫術ハ未メ幼稚ノ域ヲ脱セスシテ以テ病苦ヲ救ヒ天壽ヲ金フセシムルニ足ラス是れ最モ痛嘆スヘキ所ナリ

醫院ヲ設ケテ以來樂康ノ恩被テ蒙ル者極メテ多シト雖未タ全土ニ普及セサルヲ遺憾トシ既ニ令ヲ發シテ更ニ各道ニ慈惠醫院ヲ増設セシメ名醫ヲ置キ良藥ヲ備ヘ汎ク起死回生ノ仁術ヲ施サシメムトス

慈惠醫院設立ノ趣旨ヲ管内ニ周知セシムル爲道廳ヨリ發シタル諭告第一號

慈惠醫院設立ノ趣旨ヲ管内ニ周知セシムル爲道廳ヨリ發シタル諭告第二號

人生斯世ニ於テ最モ憂重スル所ノモノハ身體生命ニ過ケルモノハナシ願フニ我朝鮮ハ醫術藥法俱ニ極メテ幼稚ナル故ヲ以テ茲ニ更始ノ秋ニ際シ民衆ノ繁榮ヲ圖ル爲醫院ヲ増設シ以テ全土ヲ普濟スヘキ旨ノ統監ノ諭告ハ既ニ一般周知セシ所ナリト信ス茲ニ本道下水原郡舊華寧殿内ニ官立慈惠醫院ヲ設置セラレ本月五日ヨリ開院治療手術ニ從事シ藥價並手術料ヲ半減又ハ免除シ或ハ病症ニ依リ入院治療ヲ許シテ博施濟衆シ以テ慈惠ノ目的ヲ貫徹セムコトニ努ム惟我民衆ノ貧窮ニシテ疾苦アルモノハ初メ路程ノ隔絶ナルト藥價ノ自辨シ難キヲ顧慮慈念スル事ナク深ク此意

人若シ疾苦其身ニ在ラシ各各自其ノ業ニ努メ其ノ務ヲ勤ミ以テ圓滿ナル幸福ヲ享有シ能ハサルノミナラズ苟モ醫藥其ノ機ヲ失ヒハ終ニ不歸ノ客トナリ其ノ結果ハ即チ幼ニシテ父ヲ喪ヒ老ニシテ子ヲ喪ヒ流離四肢酸軟孤獨ノ悲境ニ沈淪スル者アルニ至ル人生ノ悲酸何物カ之ニ加ヘン然ルニ由來朝鮮ノ醫術ハ幼稚

平安南道告諭第一號

平安南道觀察使

ノ域ヲ脱セス爲ニ當初治療シ易キ疾病モ投藥施術宜ク得ス終ニ不具廢疾者ト爲リ又ハ不起ノ難症ニ陥リ或ハ窮困ノ餘醫藥ヲ求ムルノ道ナク空シク手ヲ拱シテ唯死ヲ待ツモノアルカ如キハ定ニ痛恨措ク能ハサルトコロナリ誠ニ韓國併合ニ際シ 陛下至仁ノ聖德ヲ奉體シ統監閣下ハ此人生ノ最不幸トスルトコロノ疾苦ヲ救治スルヲ以テ邊民撫育ノ要義トシ施政綱領ノ一ニ加ヘラレ候設ノ慈惠醫院ノ外更ニ各道ニ慈惠醫院ヲ新設セリ即チ茲ニ官立公州慈惠醫院ヲ開設セラレ置クニ實醫名藥ヲ以テシ汎ク施藥治療ノ事ヲ管セシメテ博愛慈善ノ道至レリト謂フヘシ自今苟モ疾苦アル者ハ直ニ馳セテ診療ヲ受クシ以テ其ノ不幸ナル憂患ヲ免ルルト同時ニ其ノ身ノ健康ヲ維持シ各自其ノ本能ニ從ヒテ其ノ幸福ヲ増進シ天壽ヲ完フヘムコトヲ期スヘシ

醫ハ仁術ニシテ亦濟世ノ要道ナリ人生斯世ニ於テ最尊重スヘキモノハ身體生命ニ過ケルモノアルヘカリス朝鮮ノ醫術ニ於ケル未タ頗ル幼稚ノ域ニ在リ方今文明ノ惠澤ヲ主トシテ指チ醫術ノ進歩發達ニ思ヒルヘカラス是レ他ナシ醫術ハ高尚深遠ナル學理ヲ應用シテ始メテ之ヲ人體治療ニ從事スルモノナレハ相モ公認醫師タル者ハ大學若ハ高等專門學校ノ科程ヲ卒業スル歟然ラサレハ一定ノ試驗法ニ依リテ免許セラレタル者ニ非サレハ以テ此重任ヲ託スルニ足ラス醫術ノ難キ以テ知ルヘキナリ茲ニ本道平壤官立慈惠醫院ヲ舊同仁醫院跡ニ設置セラレ本月五日ヨリ開院治療ニ從事シ博施濟衆以テ慈惠ノ恩典ヲ施行セラル統監閣下ノ諭告ハ既ニ一般周知スル所ナレハ此際各自病ノ最初ニ於テ投藥施術ヲ請ヒ以テ病根ヲ杜絶シ仁道ノ餘惠ニ浴シテ以テ其ノ天壽ヲ全セヨ

朝鮮總督府地方官官制抄録

平安南道觀察使

朝鮮總督府地方官官制抄録

慈惠醫院ハ疾病ノ診療ニ關スル事ヲ掌リ兼テ總督

第一節 救濟機關設置ノ由來

第一章 救療機關設置ノ由來

各醫院ヲ通シテ醫員ハ專任二十八人、得罷助手及通譯生ノ定員ハ朝鮮總督之ヲ定ム
第二十七條 院長ハ醫員ヲ以テ之ニ充ツ道長官ノ指揮監督ヲ承ク院務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ監督ス
第二十八條 醫員ハ院長ノ指揮ヲ承ク醫務及醫育ヲ掌ル
書記、助手及通譯生ハ上官ノ指揮ヲ承ク庶務及通譯ニ従事ス

朝鮮總督府訓令第一號 明治四十三年十月一日
各道慈惠醫院
朝鮮總督府地方官官制第二十六條ニ依リ各道慈惠醫院職員定員左ノ通定ム

道	書記	醫員	助手又ハ通譯生
京畿道	二	二	二
忠清北道	二	二	二
忠清南道	二	二	二
全羅南道	二	二	二
全羅北道	二	二	二
慶尙北道	二	二	二
慶尙南道	二	二	二
江原道	二	二	二
平安南道	二	二	二
咸鏡南道	二	二	二
咸鏡北道	二	二	二

道	書記	醫員	助手又ハ通譯生
朝鮮總督府	一	一	一
第一條 慈惠醫院ニ醫務課、藥劑課及庶務課ヲ置ク	二	二	二
第二條 醫務課ニ於テハ患者ノ診療及醫育ニ關スル事項ヲ掌ル	二	二	二
第三條 藥劑課ニ於テハ調劑、製劑及衛生材料ノ保管修理ニ關スル事項ヲ掌ル	二	二	二
第四條 庶務課ニ於テハ庶務會計ニ關スル事項ヲ掌ル	二	二	二

各醫院處務規程ハ本年四月左記標準ニ依リ道長官ヲシテ制定セシメタリ

慈惠醫院處務規程標準

第一章 總則

第一條 朝鮮總督府地方官官制及朝鮮總督府慈惠醫院事務分掌規程ニ據ルノ外院內ニ於ケル處務ハ本規程ニ據ルヘシ

第二章 患者取扱

第二條 患者ヲ分テテ左ノ二種トス
一 施療患者
朝鮮人 資力ナキ者
内地人 府郡廳憲兵隊警察署居留民團又ハ學校組合等ニ於テ貧困者タルコトヲ證明シタル者

二 收價患者

第三條 收價規程ニ據リ藥價入院料、手術料ヲ納ムル者
第四條 診察費ハ之ヲ施療券ト收價診察券トニ區別シ用紙ハ施療券ハ赤色收價診察券ハ白色トシ各番號ヲ付スヘシ
第五條 外來患者ハ施療患者ト收價患者トニ區別シ受診番號順ニ依リ診察スヘシ
第六條 醫務課ニ於テ診察了リタルトキハ診療簿

第一章 救療機關設置ノ由來

ニ必要ノ事項ヲ記入シ患者ニ處分箋ヲ交付シ施療患者ニ在リテハ之ヲ藥劑課投藥口ニ差出サシメ收價患者ニ在リテハ之ヲ庶務課料金徴收口ニ差出サシムヘシ

第七條 庶務課ニ於テ患者ヨリ料金ヲ徴收シタル後投藥ヲ要スルモノハ處方箋ニ料金徴收済ノ證明ヲ捺シ之ヲ藥劑課投藥口ニ差出サシムヘシ
第八條 藥劑課ニ於テ處方箋ヲ受ケタルトキハ收價患者ニ在リテハ料金徴收ノ證明ヲ檢シ投藥ノ手續ヲ爲スヘシ

第九條 往診ヲ請フ者アルトキハ院內ノ事務ニ差支ナキ範圍ニ於テ其ノ請ニ應スヘシ
第十條 入院治療ノ必要アリト認メタル者ハ之ヲ施療患者ト收價患者トニ區別シ(收價患者ニ在リテハ患者ノ希望ニ依リ病室等級ヲ定メ)病床日誌ニ必要ノ事項ヲ記入シ之ヲ庶務課ニ通報スヘシ

第十一條 庶務課ニ於テ前條ノ通報ヲ受ケタルトキハ直ニ入院ノ手續ヲ爲スヘシ但シ成ルヘク二人以上連署シタル保證書ヲ徴シ且ツ收價患者ニ在リテハ入院料五日分ニ相當スル金額ヲ保證金トシテ納メシムヘシ
第十二條 入院患者危篤ニ陥リ又ハ死亡シタルトキ

第一章 救護機關設置ノ由來

ハ直ニ保護人又ハ其ノ家族ニ通報スヘシ
第十三條 退院患者ハ醫務課ニ於テ病床日誌ニ之ヲ
記入シ豫メ庶務課ニ通報スヘシ
第十四條 庶務課ニ於テ前條ノ通知ヲ受ケタルトキ
ハ直ニ保護人又ハ其ノ家族ニ通報スヘシ
第十五條 外來患者診療時間往診時間入院患者回診
時間及入院患者心得ハ院長之ヲ定メ院內適當ノ場
所ニ揭示スヘシ

第三章 文書取扱

第十六條 文書ハ庶務課ニ於テ之ヲ接受シ其ノ件名
又ハ要旨ヲ收發件名簿ニ記載シ之ニ收受月日番號
ヲ記入シタル上院長ニ提出シ其ノ指揮ニ依リ處理
ヲ爲スヘシ
第十七條 處分案ハ庶務課ニ於テ之ヲ起草シ院長ノ
決裁ヲ經テ施行スヘシ
第十八條 診斷書死亡診斷書死體檢案書等ハ主任醫
員ニ於テ之ヲ調製シ院長ノ決裁ヲ經テ庶務課ニ回
付スヘシ
第十九條 發送文書ハ庶務課ニ於テ收發件名簿ニ必
要ノ事項ヲ記入シ且ツ曆年ヲ通シ發送番號ヲ付ス
ヘシ

第四章 宿直

第二十條 退院後ニ於ケル院務ヲ處理スル爲左ノ通
宿直ヲ置クヘシ
一 一名(但シ宅直ト爲)
書記、助手、通譯生又ハ雇 二 名

若手小使 若干名

第二十一條 宿直員ハ院長退院後ニ於テ取扱タル事
項ヲ宿直日誌ニ記載シ翌朝院長ニ提出スヘシ但シ
異常ノ事故ハ其ノ都度院長ニ急報シ又ハ其ノ指揮
ヲ待テテ處理スヘシ
第二十二條 宿直員ハ時時病室ヲ巡視シ入院患者
ノ病狀ニ注意シ必要ノ事項ヲ病床日誌ニ記入シ置
クヘシ
第二十三條 宿直書記、助手、通譯生又ハ雇員ハ院內ノ
取締ニ任シ火災、盜難ノ警戒及出入者ニ注意スヘシ
第二十四條 藥價入院料其ノ他ノ收入金ノ取扱ニ付
テハ明治四十三年十月朝鮮總督府訓令第五十三號
朝鮮總督府所屬官廳會計事務章程ニ據ルヘシ
第二十五條 供用物品中藥品、調劑器械、治療用消耗品
ハ藥劑課醫科器械ハ醫務課其ノ他ノ備品、消耗品ハ
庶務課ニ於テ各出納簿ヲ設ケ之ヲ整理スヘシ
第二十六條 物品ノ請求、修理等ヲ要スルトキハ院長
ノ決裁ヲ受テ物品會計官吏ニ之ヲ請求スヘシ

慈惠醫院職員(雇員)以下ノ如シ(六月三十日現在)

院長 陸軍三等軍醫正 村井靜夫
書記 陸軍二等軍醫 吉野麟至
助手 岩田恒四郎 權泰東

忠清北道慈惠醫院

院長 陸軍一等軍醫 關 免藏
書記 陸軍三等軍醫 反町 周司
通譯 丁 仁 變
書記 一家新吉

忠清南道慈惠醫院

院長 陸軍三等軍醫正 田中德次郎
書記 陸軍二等軍醫 福原 澤次
通譯 佐々木謙一
書記 服部 宣元
助手 郎 潤 海

全羅北道慈惠醫院

院長 陸軍一等軍醫 石塚鏡三郎
書記 陸軍三等軍醫 北村 良康
通譯 麻生 寛
書記 李 寛 鎬

全羅南道慈惠醫院

院長 陸軍三等軍醫正 秋山所次郎
書記 陸軍二等軍醫 香川 謙作
通譯 松崎 殿
書記 透 謙 奇
助手 高橋 元吉

慶尚北道慈惠醫院

院長 陸軍三等軍醫正 松本繁正
書記 陸軍二等軍醫 淺川 源一

第一章 救護機關設置ノ由來

慶尚南道慈惠醫院

書記 陸軍二等軍醫 中島木次郎
通譯 山下 勇次郎
書記 及川 邦治
通譯 倉田順次郎
書記 神代 良助

慶尚南道慈惠醫院

院長 陸軍一等軍醫 甲斐 四郎
書記 陸軍二等軍醫 盛合 毅之
通譯 木原 市次
書記 柳町 茂家
助手 申 泰 永

黃海道慈惠醫院

院長 陸軍一等軍醫 平田 熊彦
書記 陸軍二等軍醫 井崎 樹一
通譯 沖野 來藏
書記 李 承 鼎
助手 齊藤 保太郎

江原道慈惠醫院

院長 陸軍一等軍醫 水野 悅藏
書記 陸軍步兵中尉 木村 織之助
通譯 大澤 儀三郎
書記 韓 應 贊
助手 奥山 正雄

平安南道慈惠醫院

院長 陸軍三等軍醫正 佐分利 真氏

キサルモ癩ニ至リテハ朝鮮人ニ在リテハ〇六四ナルニ内地人ハ〇〇一ナルノミ而シテ總患者ニ對スル比例ハ〇五三ナリ又外科的疾患ハ患者百分中一七五ニシテ著シク朝鮮人ニ多ク即チ患者百ニ對シ一九三ニ當リ内地人ハ九二トナル而シテ朝鮮人ノ外科的疾患中最多キモノハ皮膚病ナリ又急性傳染病ノ朝鮮人ニ極テ少ナキハ奇異トスル所ナリ朝鮮人ノ外科手術ニ對シ信賴最深キ所以ハ蓋シ開腹術植皮術切開術切斷術切除術摘出術整形術人工の婉産及白内障ノ手術等著々效ヲ奏シ其ノ治驗夙ニ遠近ニ噴傳シタルニ因ル故ニ朝鮮人患者ニ對シ外科手術ヲ行ヒタル數ハ各院共ニ極メテ多シト雖中ニハ外科手術ハ生命ヲ危クスルモノナリトノ杞憂ヲ懷キ又ハ麻酔藥ノ效用ヲ解セサルカ故ニ甚シキ疼痛ヲ感セムコトヲ恐レ之ヲ嫌忌シテ單ニ外用藥ノミヲ要求スルカ如キ者アリ又全ク不治ノ症ニ屬シ施スヘキ術ナキ者ニシテ醫術ヲ信賴スルノ餘リ強テ手術ヲ求メテ止マサル者亦尠カラス

施術ノ重ナルモノハ四肢切斷膿胸見唇上顎蓋膿症下顎骨切除術頸腺剔出膀胱結石橫痃包莖陰莖癌乳癌脫肛骨折脫臼痔疾肋骨切除喉咽白内障筋炎眼珠剔出尿道切開陰囊水腫顔面一部缺損整形手術植皮術腫瘍剔出子宮脫子宮癌異常妊娠子宮正復術等ナリトス

朝鮮人ノ内科治療ニ對スル信賴ハ今尙薄クシテ慢性疾患ノ如キ豫メ其ノ經過ノ永カルヘキヲ論シ服藥ノ持長ヲ促カスニ拘ラス自覺的苦痛少シク緩快スルカ又ハ數日ニシテ特效ヲ自覺セザルトキハ漫ニ服藥ヲ廢シ終ニ治癒ニ至ラサル者尠カラサルハ畢竟衛生思想ノ幼稚ナルニ因ルモノニシテ治療上遺憾トスル所ナリ

朝鮮總督府醫院ニ於テハ從來普通患者ト施療患者トヲ同一ニ各分科ニ於テ診療シ來リシモ患者増加スルニ隨ヒ非常ニ混雜ヲ極メ診療上支障アリシヲ以テ明治四十三年八月以來各分科ニ於テハ專ラ普通患者ノ診療ヲ掌リ別ニ施療部ヲ設ケテ朝鮮語ニ精通スル醫官ヲシテ之ニ專從セシメ其ノ難症ニシテ特ニ

専門的診療ヲ要スト認ムル者ハ之ヲ分科ニ移シテ診療ヲ行フコトト爲シ病室モ亦普通患者ト施療患者トニ區劃シタルヲ以テ秩序備ハリ診療上大ニ便益ヲ得ルニ至レリ

慈惠醫院ニ於テハ職員僅少ニシテ未タ分科的ニ組織スルヲ得サルモノ多キヲ以テ特ニ施療部ヲ設ケテ殊ニ内地人ヲ先ニシ朝鮮人ヲ後ニスルカ如キハ相互隔意ノ基タルヘキヲ慮リ總テ患者ノ著院順ニ依リ診療ヲ行フヲ常トス

朝鮮人患者ハ痼疾又ハ慢性ニ陥レル患者極メテ多ク隨テ入院ヲ要スヘキ者比較的多數ナルヲ以テ之カ收容ニ付テハ各院共ニ病室ノ狹隘ヲ告ケ殊ニ慈惠醫院ノ如キハ院舎ノ規模狭小ニシテ多數患者ヲ收容シ得ルノ設備ナキカ爲ニ已ムヲ得ス附近民家ニ託シテ之ヲ收容シ居ルモノ尠カラス

朝鮮總督府醫院ニ診療ヲ乞フ者ハ殆ト京城及其ノ附近ニ限ラレシカ近來内地人ニ在リテハ京釜及京義兩鐵道ノ沿線地及仁川浦群山等ノ地方ヨリ船車ノ便ニ依リ來リテ入院治療ヲ求ムル者漸次増加ノ狀況ヲ呈シ目下入院患者ハ京龍以外ノ者殆ト其ノ三分ノ一ニ垂トシ又安東縣方面ヨリモ來リテ入院スル者アルニ至レリ朝鮮人ニ在リテモ略ホ同一ノ趨向ヲ示シ近キハ京畿黃海江原ノ各道ヨリ遠キハ忠清慶尙等ノ諸道ヨリ來ル者亦尠カラス

朝鮮總督府醫院普通診療部ニ於ケル最近ノ分科的治療狀況ノ概要ヲ左ニ掲クヘシ

内科 明治四十四年一月以來六月迄ノ外來患者數二千七百五十人ニシテ内朝鮮人ハ四百五十人ナリ而シテ冬季ニ於テハ一般ニ其ノ數鮮ク春季ヨリ夏季ニ至リテ漸次其ノ數ヲ増加ス即チ一日ノ平均ハ冬季ニ在テハ三十人内外夏季ニ在テハ多キハ百人ヲ超ヘ少キモ六十人ヲ下ラサルノ狀況ナリ疾病ノ種類ハ内地人ニ在テハ神經衰弱症ヲ最多トシ次ヲ肺結核トス朝鮮人ニ在テハ慢性消化器系疾患大部分ヲ占メ肺結核亦尠カラス又稀ニ神經衰弱症ノ爲ニ來ルモノアリ然レトモ急性疾患殊ニ傳染病ニ至テハ殆

ト見サル所ナリ

入院患者ハ約三百人ニシテ傳染病殊ニ腸窒扶私赤痢ヲ主トシ肺炎肋膜炎等之ニ次ク而シテ其ノ多クハ内地人ニシテ朝鮮人ノ永ク止マリテ治療ヲ受クルハ甚タ稀ナリ

外科 明治四十四年一月ヨリ六月迄ノ患者ハ二千六百三十二人ニシテ内地人患者ハ千六百九十五人朝鮮人患者ハ九百三十七人ナリ而シテ朝鮮人患者ハ内地人患者ニ比シ漸次其ノ率數ヲ高メツ、アリ就中遙ニ濟州島黃州元山新義州等ヨリ來リテ治療ヲ乞フ者近時増加ノ傾向アリ麻酔藥ヲ應用スル患者ハ最近ニ於テ平均隔日二名位ニシテ是亦當初ニ比スレハ著シク増加シ實質ニ於テモ漸次手術ノ大ヲ加ヘツツアリ蓋シ朝鮮人ニシテ舌癌甲狀腺癌腎臟腫瘍其ノ他惡性腫瘍等ニ對スル手術ヲモ安シテ之ヲ受クルニ至リタルニ因ルナリ然レトモ彼等ノ内ニハ今尙如何ナル腫瘍如何ナル創傷ニテモ單ニ塗布藥ニテ治療スト信シ脱腸或ハ惡性腫瘍ノ如キモノニ對シ塗布藥又ハ内服藥ヲ以テ治療セラレムコトヲ切望スル者アリ近來特ニ膿胸患者ノ續々來テ治療ヲ乞フノ現象アルハ從來不治ノ重症トシテ治療ノ方法ナカリシモノ僅ニ一回ノ手術ニ依リ其ノ苦痛ヲ去リ短日月ノ間ニ於テ全ク治癒シ嬉々トシテ退院スルノ狀ヲ目撃スルカ爲ナルヘシ

産婦人科 本科中最多數ナルハ子宮及附屬器ノ慢急性炎症ニシテ子宮位置ノ異狀ヲ呈スルモノ之ニ次キ妊娠第三位ニ位シ明治四十三年中ノ妊婦數二百五十八人中内地人二百三十八人朝鮮人二十人ニシテ内地人七人ノ子宮外妊娠アリ明治四十四年一月以降六月迄ノ妊婦數二百十六人中内地人二百三人朝鮮人十三人ニシテ内地人五人ノ子宮外妊娠アリ而シテ朝鮮人ニ於テ嘗テ一人ノ子宮外妊娠ヲ見サリシハ奇ト謂フヘシ之ニ反シテ朝鮮人ニ於テハ異常分娩殊ニ橫位ノ分娩胎盤殘留膀胱腫瘍子宮全脫出等内地人ニ比シ著シク多シ是レ朝鮮人ハ古來ノ慣習上經産婦ト雖腹帶ヲ用ウルコトナク單ニ胸部ヲ緊縛シ腹

壁ノ弛緩モ胎位ノ異狀モ意ニ介セス不適當ナル姿勢ノ下ニ産婆ノ介助タモナク大膽ニ分娩ヲ遂行シ加之産褥攝生ノ何タルヲ解セス離床ノ早キニ起因スルモノナルヘシ其ノ他朝鮮婦人ハ慣習上内地婦人ヨリ持續的腹壓ヲ下腹部ニ加フルコト多キカ爲墮壁ノ翻轉墮口ノ哆開セルモノ多シ

子宮並附屬器ノ腫瘍ハ比較的朝鮮人ニ多シ子宮癌腫ノ如キ明治四十三年中内地人六人朝鮮人四人ニシテ患者數ニ比例シ朝鮮人遙カニ多ク何レモ手術ノ時機ヲ失セルモノナリキ尙卵巢腫瘍ハ内地人十七人朝鮮人五人孰レモ手術ニ因リテ治癒シタルモノナリ

小兒科 明治四十四年一月以降六月迄ノ患者數ハ九百八十六人ニシテ内朝鮮人ハ三百五十三人ナリ而シテ最多キハ内地人朝鮮人共ニ胃腸ノ疾患ナリトス蓋シ母乳或ハ乳母乳ヲ以テ哺育スル者多ク牛乳煉乳ヲ以テスルハ尠シト雖離乳期以前ニ妄ニ固形食物ヲ與ヘ或ハ二三歳ニ至ルモ尙母乳若ハ年老ヒタル乳母ノ乳ヲ不規則ニ與フル等育兒上營養ノ方法其ノ當ヲ得サルニ因ル而シテ朝鮮人小兒患者中胃腸疾患ノ者其ノ三分一以上ヲ占メ之ニ亞クテ呼吸器病神經系疾患及傳染病ナリトス

小兒ノ傳染病中實布屋里亞及格魯布ハ内地人朝鮮人共ニ其ノ數鮮少ニシテ僅ニ二人ヲ見タルノミ又赤痢及小兒腸窒扶私ハ極メテ尠ク且何レモ輕症ナリトス猩紅熱ハ明治四十二年末ヨリ翌春ニ互リ多少ノ患者ヲ診療セシノミ

朝鮮人小兒ノ苛性曹達中毒者四名アリ蓋シ該藥品ハ衣類洗濯用トシテ大抵各戸ニ貯藏スルモノナルニヨリ誤テ之ヲ飲用シタルニ由ル而シテ該藥品ノ口腔咽頭食道及胃壁ノ粘膜ニ觸ル、ヤ烈シキ炎症ヲ發シテ之ヲ腐蝕シ之カ爲後ニ至リテ高度ノ食道狹窄ヲ惹起スルモノ多シ

朝鮮人ハ近時大ニ瘡癩ノ慘害ヲ自覺シ自ラ進テ種痘ヲ受クル者増加スルニ至リタルハ洵ニ喜フヘキ現象ナリトス

眼科 明治四十四年一月以降六月迄ノ患者數ハ内地人二百三十六人朝鮮人九百八十二人計一千二百八十八人平均一日五十人ニシテ外來多ク入院ハ至テ鮮シ之レ眼科患者ハ特種ノ手術ヲ要スル者ニ非サレハ入院ヲ要セサルカ故ナリ

朝鮮人ノ失明者ニ就キ其ノ原因ヲ稽査スルニ膿漏眼、角膜軟化症、白內障、トホーム、微毒性虹彩毛様體炎、視神經消耗症等ニ因ルモノ多シト雖其ノ病性トシテ適當ノ時ニ於テ治療ヲ施サハ失明スルコトナカリシ者多數ナリ膿漏眼ノ治療ニ就テハ其ノ豫後恐ルヘクシテ且危險ナル傳染性ヲ有スルカ故ニ充分治療セサルヘカラサル所以ヲ戒諭スト雖數回受療後復タ來ラサル者甚タ多シ

耳鼻咽喉科 明治四十四年一月ヨリ六月迄ノ患者數ハ二千四百六十七人ニシテ内地人二千二百二十四人朝鮮人二百四十三人ナリ而シテ疾患中耳鼻咽喉共ニ其ノ數相比適シ耳ノ疾患ニ在リテハ慢性中耳炎鼻ニ在リテハ慢性鼻炎咽喉ニ在リテハ咽頭炎最多ク殊ニ叮嚀栓塞ハ朝鮮人ニ多シ

手術數ハ百三十五ニシテ鼻茸最多ク扁桃線切除、上顎竇著膿症之ニ亞ク其ノ多數ハ通院治療ニシテ入院者ハ僅ニ十分一強ニ過キス殊ニ朝鮮人ノ多クハ治療ヲ繼續スルトキハ容易ニ全治スヘキ者モ二三日若ハ十日位ニシテ治療ヲ瘳スルヲ以テ之カ爲治療ノ機會ヲ失シ遂ニ慢性疾患ニ陥ル者尠カラサルハ治療上遺憾トスル所ナリ

皮膚泌尿科 明治四十四年一月ヨリ六月ニ至ル患者數ハ一千十四人内朝鮮人ハ四百十六人ナリ而シテ其ノ最多數ナルハ皮膚疾患ニ在リテハ痒疹、白癬、疥癬等ニシテ花柳病ニ在リテハ梅毒及淋毒性疾患ナリトス而カモ内地人朝鮮人トモ該疾患 夥多ナルハ憂フヘキ現象ニシテ殊ニ新藥治療ヲ開始セル以來微毒患者ノ數逐日多キヲ加ヘタリ而シテ朝鮮人ニ在リテハ其ノ病性初期ノモノ殆ト少ク且併合症ヲ有スルモノ割合ニ多キヲ以テ治療成績ハ幾分緩慢ノ感アレトモ初期ノモノニ在リテハ内地人ニ比シ其ノ效

ヲ奏スルコト却テ速ナリトス

齒科 本科ハ明治四十四年四月開始シタルモノニシテ爾來診療患者數百九十五人内朝鮮人ハ五十二人ナリ而シテ主ナル患者ハ口腔炎、齲齒、齒根骨膜炎、難生齒、顎骨切除、架工、義齒、繼續義齒、金屬被覆等トス殊ニ朝鮮人ニ在リテハ口腔炎、齲齒最多ク之ニ亞クハ齒根骨膜炎ナリ是レ衛生思想幼稚ニシテ齒牙ノ衛生ヲ放任シテ顧ミサルニ因ルナラムカ又朝鮮人ニハ冠齒ヲ欲スル者多ク義齒ヲ乞フ者較少ナシ内地人ニ在リテハ義齒ヲ乞フ者多ク就中技工材料ノ如キモ齒科學上ノ如何ニ關セス金ヲ用ウルコトヲ望ム者多ク其ノ比例ハ内地ノ約三倍ナリトス

第二節 往診及出張診療

往診ノ依頼アルトキハ隨時之ニ應スト雖其ノ急ヲ要セサルモノハ院内ノ診療ヲ終リタル後宿直醫員之ニ當リ重症患者ニ在テハ院長之ニ當ルヲ例トス往診ノ依頼ハ開院當初ニ在テハ主トシテ内地人ナリシモ漸次朝鮮人ノ數ヲ増加スルニ至リタリ而シテ遠隔ノ地ニ在テハ來院診療ヲ請フニ路費ヲ要シ而カモ之ヲ調辨シ得ヘキ資力ナクシテ徒ニ病床ニ懊惱スル者尠カラサル實況ナルヲ以テ各醫院ハ之ニ對シ均シク恩澤ニ霑ハシメムコトヲ欲シ是等ノ地方ニ往診ノ場合ハ每ニ多量ノ藥品及治療材料ヲ携帶シ其ノ附近ニ於ケル患者ノ診療ヲ行ヒ又別ニ隨所ニ出張診療ノ方法ヲ設ケタルニ何レノ地方ニ於テモ非常ノ歡喜ヲ以テ之ヲ迎ヘ毎次患者ノ甚タ多キヲ見ル然レトモ當初ニ在テハ救療ノ意義ニ異様ノ感ヲ懷キ受療ヲ躊躇シタル者ナキニ非サリキ蓋シ往時ニ於テ此ノ如キ美名ノ下ニ金錢ヲ詐取セラレタル實例アリシニ因ルナラム今其ノ出張診療ニ關スル二三ノ實例ヲ舉ケムニ京畿道慈惠醫院ニ於テ行ヒタルトキ陽智郡ニテハ患者六十二人江華島ニテハ患者百人忠清南道慈惠醫院ニ於テハ魯城論山、江景、石城、扶餘、定山等ニテ患者八百三十四人全羅南道ニ於テハ和順、同福、潭陽、綾州、昌平、南原、羅州、長城等ニテ患者三百六十八

人慶尙南道ニ於テハ河東、昆陽、泗川等ニテ患者五百七十人、黃海道慈惠醫院ニ於テハ載寧新院方面ニテ患者七十四人、平安南道慈惠醫院ニ於テハ成川、江東地方ニテ患者四百一人、安州新安州方面ニテ患者二百五十九人、肅川、順川方面ニテ二百八十二人、咸鏡北道慈惠醫院ニ於テハ漁郎、面完洞方面ニテ患者百九人ノ多數ヲ診療シ、其ノ他各院カ施行セル出張診療ハ、毎次必ス其ノ地方ノ歡迎スル所トナリ、受療患者ノ多キハ勿論、遠隔ノ地ヨリ宿泊ノ豫定ヲ以テ患者ヲ擔送シ來ルモノ、尠カラサル狀況ナリ。

出張診療ハ前述ノ如ク著大ノ效果ヲ收メツ、アリト雖、各院共ニ院務ノ繁劇ニ加フルニ職員ノ寡少ヲ以テセルカ故ニ何レノ地方ニモ偏倚ナク之ヲ行ハムコトハ到底事情ノ許サ、ルヲ遺憾トス。

以上ハ慈惠醫院ニ關スル狀況ナリ、而シテ總督府醫院ニ於テハ舊テ大韓醫院時代ニ往診ヲ行ハサル規定ナリシヲ以テ慈惠醫院ト同様ノ制度ニ改正セラレタル今日ニ於テモ尙其ノ趣旨ノ普ク民間ニ周知セラレサル爲内地人タル朝鮮人タルト問ハス上流社會ヲ除ク外概シテ往診ヲ求ムル者極メテ鮮シ。

第三節 職員勤務狀況

慈惠醫院開設以來何レモ多忙ヲ極メ職員ハ今日ニ至ルモ尙年間無休暇ノ狀態ニ在リ、是レ畢竟職員ノ數ニ比シ豫想外ニ患者ノ多數ナルニ因ルハ言ラ俟タスト雖、經費節約ノ結果院舎ヲ在來建物中ヨリ選定充用シタル爲各院共一般ニ狹隘ヲ告ケ各室ノ配置其ノ宜シキヲ得サルト設備充分ナラサルトニ由リ診療上幾多ノ不便アルモ亦其ノ一因タルヘシ、殊ニ開院當初ニ於テハ二三箇所ヲ除ク外院舎ニ充用スヘキ屋宇ハ概シテ頽廢シタルモノナリシヲ以テ大ニ修理改造ヲ施スニアラサレハ直ニ以テ其ノ用ニ充ツヘカラス、依テ工ヲ起シテ應急改修ニ著手シタルニ患者ハ早クモ其ノ恩澤ニ浴セムコトヲ翹望シ開院準備ニ赴キタル職員ヲ要シテ診療ヲ迫ルカ如キ狀況ヲ呈シタルヲ以テ設備ノ如何ヲ顧慮スルノ迫ナク或ハ他家屋ノ一部ヲ借り入レ或ハ假小屋ヲ設ケ以テ診療ヲ開始シタル地方鮮カラサリキ此ノ時ニ際シ患者

ノ來リテ診療ヲ乞フ者日ニ増加シ旬日ヲ出テスシテ一院一日百數十ヲ算スルニ至リ、而カモ其ノ患者ノ多クハ自然ノ經過ニ委シタル痲疾、慢性痲疹ナルヲ以テ診療上非常ノ手數ヲ要シ且一面ニ於テハ工事ノ設計監督ニ從事セサルヘカラス之カ爲ニ院務ノ繁劇混雜甚フルニ物ナク職員何レモ晝夜兼行シテ其ノ事務ニ軼掌シタリシ結果日ヲ經テ院舎ノ改修漸ク其ノ工ヲ竣ヘ諸般ノ設備粗整頓スルヲ得タリト雖患者ハ治療ヲ求ムル者日ニ月ニ増加シ目下職員一人ハ一日平均百五十ノ患者ヲ診療シ且殆ト隔日ニ宿直勤務ニ服スル狀況ナリ、其ノ外種痘モ亦院務ノ一部トシテ之ヲ行ヒ剩ヘ出張診療、往診等ノ院外勤務アリ、尙小康ヲ得ルノ暇アラヌ而シテ職員ハ此ノ如キ劇務ノ他面ニ於テ地方ニ於ケル種痘施行ノ機關タル種痘認許員ノ養成ニ關スル事務ヲ掌リ且隨時幻燈ヲ利用シテ通俗的衛生講話會ヲ開催シ以テ一般衛生思想ノ涵養ニ努メ又各院共ニ職員ノ一人ハ當該官廳ノ囑託トシテ警察醫務及監獄醫務ヲ執リツ、アリ職員ノ勤務狀況此ノ如キヲ以テ隨テ調劑庶務及看護等ノ事務ニ從フ者亦繁劇ヲ極メ何レモ皆夜ニ入テ退出スルヲ常トス。

朝鮮總督府醫院亦開院以來患者ノ數漸次増加シ現ニ一日ノ外來患者七百、入院患者百ヲ下ラサルノ狀況ニ在リ、爲ニ診療事務ハ勿論庶務調劑看護等各般ニ互リテ繁忙ヲ極メ職員退廳ノ如キ多クハ午後六時ヲ過キ又ハ九時ニ至ルコト尠カラス醫師職員ト患者數トノ比較ハ慈惠醫院ニ比シ少數ナリト雖一面ニ於テハ警官醫員及助手ハ兼テ附屬醫學講習所ニ教鞭ヲ執リツ、アリ

上來記述スル所ノ如ク各院ノ勤務繁劇ヲ極ムト雖患者ノ待遇及診療ニ就テハ敢テ放漫疎略ニ流ル、コトナク其ノ診斷ノ如キハ必要ニ應シ血液及排泄物等ノ化學的検査細菌學的検査其ノ他病理試驗等荷モモテ努メテ病原ヲ闡明スルノ方針ニ依リ且朝鮮人ニ對スル投薬ノ如キハ其ノ用法ヲ詳細ニ教示シ外用藥ト内用藥トノ誤用ナカラシムル等ノ瑣事ニ至ル迄各院孰レモ周到ノ注意ヲ拂ヒツ、アリ

職員中朝鮮人タル助手ハ總督府醫院附屬醫學講習所卒業生中優良ナリシ者看護婦モ亦同醫院及慈惠醫院ニ於テ教養ヲ經タル者ニシテ其ノ勤務成績ハ大ニ見ルニ足ルモノアリ

看護婦ノ勤務如何ハ療病上患者ノ慰安ニ及ボス影響少カラサルヲ以テ其ノ選擇ニ就テハ各院執レモ特ニ注意ヲ加フル所ニシテ朝鮮總督府醫院ニ於テハ内地人タル看護婦ヲ採用スルニ方リ内地各府縣赤十字社支部長ニ依頼シ其ノ推薦保證ニ依リ採用スルコトハ慈惠醫院ノ看護婦ハ朝鮮總督府醫院勤務中ノ者ヨリ拔擢シテ之ヲ採用スルヲ例トス故ニ患者ノ之ニ對スル信用頗ル厚ク其ノ成績佳良ナリ

朝鮮總督府醫院ニ於テハ受附及藥價收納係トシテハ從來男子ヲ置キタルモ此ノ如キ事務ハ女子ヲシテ之ニ當ラシムル方却テ緻密ニシテ患者ニ接スルコト親切ナルヘシトシ客年來女子ニ改メタルニ其ノ成績亦良好ナリ

第四節 救療ニ對スル一般ノ感想

醫院ニ對スル一般感想ハ内地人ト朝鮮人トニ依リ多少ノ差異アルヲ見ル即チ内地人ニ在リテハ異境在住者ノ常トシテ名醫良藥ヲ想フノ念朝鮮人ニ比シテ自ラ切ナルモノアリ隨テ地方在住者ニシテ一朝病ニ侵サルハトキハ直ニ良醫ヲ尋ネテ他ニ移住シ又ハ倉皇奔テ内地ノ病院等ニ投スルヲ一般ノ例トシ又新ニ渡鮮スルモノハ先ツ醫療機關ノ存否ヲ詳ニシ然ル後移住ヲ決行スルノ狀況ナリシモ醫院設置以來ハ新ニ來ラムトスル者ハ安シテ渡來シ舊ヨリ住スルモノハ毫モ不安ノ念ヲ抱ク者ナキニ至レリ殊ニ婉產ニ就テハ内地人ノ最憂慮セシ所ナリシカ果然醫院開設後妊婦產婦等ノ診療比較的多キニ上レリ以テ其ノ感想ノ一斑ヲ窺フニ足ル

朝鮮人ニシテ來テ救療ヲ受ケタル者ハ何レモ恩澤ノ深キニ感激セサルハナシ殊ニ痼疾又ハ慢性疾患ノ患者ニシテ自ラ不治ノ症ナリトシ醫療ニ絶望シタル者醫院ノ治療ニ依リ再ヒ健康ニ復シタル者ノ如キ

一層其ノ感深キモノアリ左ニ掲クルハ各醫院長ノ報告中右ニ對スル一二ノ適例ナリ

忠清南道公州郡曲大川面

兩眼白內障

朴 準 玉

五十四年

患者ハ十一年前ヨリ兩眼ノ視力漸次減衰シ五年前ニ至リ全ク明ヲ失ヒタリトテ診療ヲ求ム即チ兩眼白內障兼結膜炎ナリ由テ先ツ結膜炎ノ治療ヲ加ヘタル後白內障ノ手術ヲ施シ之ニ依テ視力ノ恢復ヲナスヲ得タリ而シテ患者ハ此ノ治療ニ對シ感激措カス本年六月二十一日左記ノ如キ感謝狀ヲ提出スルニ至レリ(忠清南道慈惠醫院)

感謝狀

敬啓本人幼ニシテ薄命早ク父母ヲ喪ヒ一ノ近親ナシ加之家至貧ニシテ儼飢ノ飲ニ乏シ漸ク長スルニ及ヒ代書業ヲ營ミ生計ニ資スル所アラムトセシニ不幸ニシテ眼疾ヲ得兩眼物ヲ見ス寸歩自ラ致ス能ハサルモノ茲ニ十有二年

天皇陛下廣ク恩德ヲ施シ普ク慈惠ヲ布キ蒼生ヲ濟ハセ玉フ本人亦救ハレテ公州慈惠醫院ニ在リ一日醫官親シク本人ニ衣服地ヲ授ケテ曰ク朝鮮總督夫人汝ノ癘疾ニシテ孤貧ナルヲ憐マレ乃チ賜フ所ト而シテ醫院ヨリハ毎日三次ノ施食アリ依テ幸ニ凍餒ヲ免カル、コトヲ得タリ

天皇陛下雨露ノ澤何物ノ比スヘキナク總督夫人河海ノ恩慈惠醫院山嶽ノ惠何物カ之ニ對セム況ヤ病院極善ノ治療ニ依リ兩眼明ヲ復シ萬物ノ黑白大小行路ノ廣狹深淺概テ之ヲ識別シ得ルニ至レルオヤ所謂涸魚水ヲ得枯木ヲ生シタルノ類感喜ノ情何ソ極マラム感恩頌德ニ勝ヘス敬テ啓ス

慶尙南道晉州郡陟川面

難産

崔

三十五年

某

産婦ハ既ニ産氣ヲ催セルニ拘ハラズ絶ヘテ出産ノ模様ナクシテ唯衰弱ノミヲ増加シ將ニ瀕死ノ状態ニ在リトノ通知ニ接シテ直ニ往診セルニ子宮口ハ狹窄シテ僅ニ二指ヲ通スルニ過キス試ニ之ヲ開大セムトセルニ抵抗極メテ強クシテ其ノ目的ヲ達スルヲ得ス由テ痕痕ニ因ル狹窄ナリト認定シ稍強力ヲ加ヘテ之ヲ擴張シ人工娩産術ヲ施シ分娩セシメタルニ幸ニ母子共ニ健全ナルヲ得タリシカハ一家近親ノ喜ヒ營フルニ物ナク全ク新政ノ賜ナリトテ醫員ニ向テ只管感謝セリ(慶尙南道慈惠醫院)

慶尙南道槽洞面

裁縫針嚙下(男)

某

九年

本人ハ誤テ裁縫針ヲ嚙下シタルニ因リ發語及飲食物ノ嚙下全ク不能トナリタル爲父母近親ハ萬死アリテ一生ナキモノト悲觀セルモ萬一ヲ僥倖スルコトアラムトテ夜陰ヲ侵シテ來院診察ヲ乞ヘリ乃チ一診ノ後異物ヲ摘出シタルニ父母及患者ノ喜悅營フルニ物ナク跪座叩頭シテ滿腔ノ謝意ヲ表シテ去レリ(慶尙南道慈惠醫院)

慶尙北道大邱府

兔唇(女)

金

必 今

十三年

左側ニ於ケル第三度ノ兔唇ナリ局部麻醉ニ乗シケニヒ氏法ニ從ヒ手術ヲ施シタルニ成績極メテ佳良ニシテ醜形全ク去リ歡喜眞ニ極マリナキモノ、如カリシ爾來之ニ類スル畸形ノ續々診察ヲ乞フニ至リ

タルモノ又故アリト謂フ(慶尙北道慈惠醫院)

京畿道驪州郡

子宮及腔壁全脱出

千

召 史

三十四年

患者ノ兩股間ニ脱出セシモノ小兒頭大ニシテ其ノ尖端ハ糜爛ヲ呈シ人ヲシテ一見嫌惡ノ念ヲ惹起セシム初鮮醫ハ其ノ治療法トシテ熱油ヲ以テ局部ヲ燒キ痕痕形成ニ依リテ子宮ヲ骨盤底ニ維持セムト企テタリ斯ル亂暴無識ナル治療ノ結果反テ下腹部ニ痙攣性激痛ヲ發シ苦悶言フヘカラサルノ状態ニ陥リタリ由テ之ニ對シ摘出術ヲ行ヒタルニ何等後遺障碍ナク僅ニ三週日ニシテ全治スルニ至リ深ク再生ノ厚恩ヲ感謝セリ(朝鮮總督府醫院)

忠清南道

右眼白內障

李

召 史

七十二年

京城府大井洞

吳

順 伊

四年

患者ハ半年以前顎下ニ一小腫物ヲ生シ爾來鮮醫ノ治ヲ受クルニ日ヲ逐ヒ月ヲ累ネテ漸次蔓延シ醫療ヲ加フル毎ニ症狀愈劇甚ヲ加フルノミナリトテ襟褻ヲ纏ヘル老嫗之ヲ伴ヒテ來院治ヲ乞ヘリ當時患者ハ

叫喚耳ヲ聾セム計リナリシカ之ヲ視ルニ顔面及頸部ニ痲皮重疊シテ宛然覆面ヲ蔽フカ如ク痲皮ヲ除ケハ皮膚發赤糜爛シ慘狀云フヘカラス乃チ老嫗ニ諭スニ能ク示ス所ヲ守ラハ旬日ナラスシテ治癒スヘキヲ以テシ幼兒ノ手足ヲ捕ヘテ患部ヲ治療ス斯ノ如キコト三日痲狀頓ニ緩ミ叫喚亦止ム爾後週日ナラスシテ笑フテ治療ヲ受クルニ至ル老嫗歡喜措ク能ハス乃チ紙卷煙草朝日四個ヲ齎シ來テ感謝ノ意ヲ表ス職員其志ヲ憐ミ交々諭シテ持チ歸ラシメタリ(朝鮮總督府醫院)

京畿道楊州郡邑内

腎臟炎

李 源 植

三十五年

患者ハ半歲以前ヨリ全身ニ浮腫ヲ發シ財ヲ盡シテ民間治療ヲ爲セシモ毫モ效果現ハレス殆ト瀕死ニ迫リ來リテ治ヲ乞フニ至レルモノ依テ直ニ之ヲ入院セシメ治療ヲ加ヘシニ數日ニシテ病苦去リ僅ニ二週日ニシテ退院スルニ至レルヲ以テ患者ノ歡喜實ニ名狀スヘカラス無給人夫トナリテ其ノ恩ニ報セムコトヲ申出タルモ論シテ之ヲ歸郷セシメタリ然ルニ其後楊州郡内及其ノ附近ヨリ來リテ診療ヲ乞フ者五十名内外ニ達シタルハ畢竟該患者ニ對スル治療ニ感動シタルノ致ス所ナリト信セララル(朝鮮總督府醫院)

京畿道廣州

頸部皮膚護膜腫

吳 召 史

二十四年

患者ハ微毒ノ爲ニ百方民間治療ヲ行ヒシモ癒ヘス之カ爲ニ破鏡ノ嘆ヲ見ルニ至リシカ某人ノ勸ニ因リ來リテ診ヲ乞ヘリ依テ之ニ治療ヲ施シタルニ久シカラスシテ快癒スルヲ得タリシカハ感喜措ク能ハス其ノ鴻恩ノ萬一ヲ報スル爲トシテ無給看護婦タラムコトヲ申出テタリ(朝鮮總督府醫院)

咸鏡北道鏡城朱北面

子宮脫

妻 女

六十年

患者ハ十年前ニ於テ分娩シ其ノ後間モナク子宮脫出シテ葎葎今日ニ至リタルモノ即チ其ノ請ヲ容レテ入院セシメ子宮摘出術ヲ施シタルニ經過極メテ良好ニシテ僅ニ八週日ニシテ全ク治療ノ效ヲ奏シ積年ノ苦痛茲ニ忽チ一掃スルヲ得テ手ノ舞ヒ足ノ踏ム所ヲ知ラス其ノ退院ノ際ノ如キハ坐ニ感涙ノ滂沱タルヲ見タリ(咸鏡北道慈惠醫院)

慶尙北道大邱府解西面

先天的白內障

金 某

十三年

患者ハ生來兩眼共ニ殆ト視力ナキヲ訴ヘ來リ治ヲ乞ヘリ之ニ對シ瓣狀摘出法ヲ行ヒタルニ經過良好ニシテ忽チ視力ヲ生シ茲ニ初メテ世界ノ狀態ヲ視ルヲ得テ欣喜措ク能ハサルモノ、如カリシ是等ノ治驗ヲ傳聞シテ失明者ノ來テ診療ヲ乞フモノ多キニ至レルハ亦是レ醫術信賴ノ反影ナラン(慶尙北道慈惠醫院)

全羅南道光州郡瑞門面

手指痕痕癩著

金 永 輔

六年

患者ハ三歲ノ時炭火ヲ把握シテ右手掌指腹ニ瓦ル火傷ヲ爲セシカ爾來火傷ノ治癒ト共ニ漸次痕痕收縮ヲ來シ全指ノ屈曲癩著ヲ貽スニ至ル之ニ對シ全身麻酔ノ下ニ癩著セル指ヲ伸展シ其ノ腹側ノ皮膚缺損

部ニチーブルシ氏式ニ依リ植皮術ヲ施シタリ術後創面第一期癒合ヲ以テ治シタルニ之ヲ開ク者何レモ驚嘆シ遠近相傳ヘテ以テ信賴ノ念ヲ深クスルニ至レリ(全羅南道慈惠醫院)

咸鏡北道

卵巢囊腫

某

女

三十八年

全身麻痺ノ下ニ開腹術ヲ施シ囊腫ヲ切除セリ術後經過頗ル佳良ニシテ第一期癒合ヲ以テ手術創治癒シ術後僅ニ一週餘日ニシテ室内ノ坐臥ニハ敢テ介者ヲ要セサルニ至レリ是ニ於テ患者ノ喜悅滿面ニ溢レ只管新政ノ忝キヲ拜謝セリ(咸鏡北道慈惠醫院)

慶尙北道清道郡

癩痕性前鼻孔閉鎖 (男)

某

十九年

患者ハ三歳ノ時痘瘡ニ罹リ癩痕ノ爲左鼻孔ハ全ク閉鎖シ右ハ辛クシテ細キ消息子ヲ通シ得ヘキ小孔ヲ存スルニ過キス之ニ手術ヲ加ヘ一方ハ癩痕ヲ切開シテ新ニ孔ヲ開キ他方ハ更ニ開大シテ共ニ完全ナル鼻孔ヲ形成スルニ至リタルヲ以テ患者ノ喜悅極點ニ達シ涕ノ下ルヲ禁シ得サルモノ、如カリキ(慶尙北道慈惠醫院)

全羅北道益山郡

眼球勞

金

某

二十一年

患者ハ數年前眼疾ヲ得テ左眼球勞ニ陥リ來院治ラ乞フ由テ治癒ノ見込ナキヲ諭シ假眼ヲ挿入セシニ容

貌大ニ振ヒ嬉々トシテ歸郷セシカ之ヲ聞ク者其ノ治術ノ巧妙ナルニ感歎シ義眼挿入ヲ乞フ者漸ク増加スルニ至レリ(全羅北道慈惠醫院)

全羅北道

尿閉

某

妻

妊娠五ヶ月ニシテ尿閉ヲ起シ鮮血ノ治療ヲ受ケ少量ノ排尿アリシモ苦痛ヲ去ルニ至ラサルモノ之ヲ檢スルニ腹部ハ著シク膨滿シ胎兒ハ心窩部ニ舉上セラレ妊婦ハ非常ナル苦痛ヲ訴フ依テ尿道カテーテルヲ以テ排尿セシムルニ四千五百瓦ノ濃厚ナル尿ヲ排出シ苦痛頓ニ去リ若シ早ク當院ノ存在ヲ知リシナラハニハ妾ハ今日迄斯ク苦マサリシナラムト痛ク感謝ノ念ニ打タレ欣然トシテ歸宅セリ(全羅北道慈惠醫院)

全羅北道益山郡

外傷性白內障

蘇

根

英

三十年

患者ハ二箇年前石切工事ニ從事中火藥ノ爆發ヲ受ケテ左眼角膜ヲ破リ右眼ハ外傷性白內障ヲ起セリ依テ來院治ラ乞フニ至レリ右眼ハ前後五回ノ手術ニ依リ約十箇月ニシテ視力恢復シ眼鏡ヲ裝用スレハ遠モ不自由ヲ感セサルニ至レリ又左眼ニハ整貌的手術ヲ施シテ義眼ヲ挿入シタルニ患者喜悅ノ狀譬ノルニ物ナカリシ(朝鮮總督府醫院)

以上掲載スルモノ、外十數年來自然ノ經過ニ委シタル高度ノ下腿濕疹ノ旬日ヲ出テスシテ輕快ヲ來シ或ハ甚タシキ包莖ノ手術其ノ效ヲ奏シ或ハ膏藥療法ニ頼リ永キ日數ヲ費ヤセシ外傷ノ數日ニシテ治癒スル等ニ驚キ三拜感謝ノ意ヲ表スルアリ數年來腹痛食慾不進ニシテ羸瘦甚タシキモノ僅少ノ時日ニシ

テ蛔蟲數十條ヲ出シ又ハ一回ノ頓服ニシテ長大ノ蠅蟲ヲ排泄シ嬉々トシテ謝意ヲ述フルアリ嘗テ醜形ヲ耻テ深ク潜ミ居リシ不具畸形者ニシテ僅ニ一及ノ手術ニ依テ醜形ヲ去リ之ヲ神術トシテ稱讚措カサル者アル等一々掲ケ來ラハ殆ト盡クル所ナカルヘシ以上ハ唯開院當時ニ於ケル手術ノ先蹤ニシテ一般信賴ノ導火タリシモノヲ收録シタルノミ

且又患者中ニハ治癒ヲ得テ感激禁スル能ハス鶏卵其ノ他種々ノ物品ヲ持參シテ謝意ヲ表スルアリト雖醫院ニ於テハ一々之ヲ懇諭シ返附シタルヲ以テ一層尊敬信賴ノ念ヲ深カラシメタルモノ、如シ

嘗テ内房ノミニ閉居シ偶醫療ヲ受クルニ方テハ僅ニ前膊ノミヲ室外ニ出シテ檢脈ヲ求メタリシ婦人ノ如キモ醫院ノ誠意ト治術ノ的確ナルニ感動シ大ニ覺醒スル所アリ近時ニ於テハ或ハ不妊症ノ爲或ハ自ラ進テ子宮疾患ナリト稱シ或ハ現時異常ナキモ往時ノ疾病再發スルヲ怖レ生殖器系ノ診療ヲ請フ者續出シ又昔日ノ弊ヲ見サルニ至レリ是レ蓋シ時勢ノ然ラシムル所ナリト雖又以テ醫院ノ誠意ト技能力深ク其ノ腦裏ニ印象ヲ與ヘタル結果ニ外ナラサルヘシ

サレハ上記ノ如ク深ク醫院ノ恩澤ニ感激シ厚ク醫術ノ深遠ナルニ驚歎スルト同時ニ分院又ハ出張所ノ設置ヲ請願シ若ハ巡回診療ヲ希望スル地方尠カラス而シテ正式ニ請願書ヲ提出シタルハ金額大外十九名ニシテ其ノ趣旨ハ京畿道開城ニ分院ヲ設置セラレタシト云フニ在リ而シテ其ノ文意ノ概要ハ左ノ如シ

請願書

夫レ人生病ナキ能ハス病メハ必ス醫ニ就カザルヘカ
 其ノ結果ニ階ラシムルカ如キコトアルハ有志ノ齊シ
 ラス面シテ醫ノ良否ハ人ノ死生ノ岐ルト所其ノ關係
 大ニ重且大ナラストセンヤ本郡ニ於ケル醫藥營業者
 タリ今ヤ庶政革新ノ秋ニ方リ各道ニ慈惠醫院ヲ設置
 其ノ數鮮シトモサレモ技術概ホ拙劣ニシテ用藥亦其
 セラレ名醫其藥ヲ備ヘ窮民ニ對シ施療ヲ爲サシメラ
 ノ當ヲ得サルカ故ニ往々治療シ得ヘキ患者ナシテ不

レ一般地方民ハ孰レモ其ノ仁政ニ感激セサルナシト
 雖我開城ハ高麗ノ故都ニシテ戶口稠密物資常ニ輻湊
 政上ノ缺點ト思料セラル故ニ慈惠醫院分院ヲ此所ニ
 スル所其ノ繁盛固ヨリ他道ノ比ニアラス假令十箇ノ
 設置シ以テ郡民ノ生命ヲ保護セリレ度不肖等全部有
 醫院ヲ設置セラレトモ尙且足ラサルヲ感スルニ拘ハ
 志ヲ代表シ茲ニ請願候也

外國人ノ感想 六月十日美以教會監督米國人勳三等神學博士エム、ジ、ハリス氏忠清南道慈惠醫院ヲ參觀
 セリ當時博士ハ先ツ多數ノ鮮人患者カ少數ノ内地人患者ト共ニ院内ニ充滿シ互ニ融和ノ色アリシニ驚
 キ開院以來ノ狀況等質問アリタルニ依リ院長ハ昨年九月五日開院以來三月末日迄ニ一萬六百八十六名
 ノ患者ヲ診療シタル狀況ヲ述ヘ且各種傷病者ノ寫眞及外科手術ニ依リ切除摘出シタル標本並顯微鏡標
 本等ヲ示シ極メテ詳細ナル説明ヲ與フルト同時ニ是等大手術ヲ施シタル患者ノ多クハ釜山、晉州、大邱、忠
 北等ノ遠方ヨリ來リタル者大部分ヲ占ムルコトヲ述ヘ當時ノ實況等ヲ説明シタルニ其ノ技術巧妙ニ
 シテ且一般人民ノ信賴篤キヲ歎稱シ尙朝鮮人一兒童カ眼疾ヲ治療セム爲他人ノ尿ニテ眼球ヲ洗滌シタ
 ルニ因リ却テ症狀ノ増悪ヲ來シ醫院診療ノ結果痲毒菌ヲ檢出シ之ヲ顯微鏡下ニ照シアルヲ示シ此ノ如
 キハ朝鮮人古來ノ惡習慣ニ依ルモノナルヲ以テ飽マテ矯正ニ努ムル方針ナリトノ説明ヲ附シタルニ深
 ク感動ノ印象ヲ與ヘタルモノ、如シ其ノ他職員ノ服務繁劇ナル狀態及假病室ニ於テ各種ノ不便ト闘ヒ
 ツ、收容患者ニ便利ト慰安ヲ與フルニ努ムル狀況並助手看護婦給任、小使ニ至ル迄多クハ朝鮮人ヲ以テ
 之ニ充テ是等朝鮮人間巧ニ日語ヲ繰レルコト等ヲ見テ頗ル稱讚セリ殊ニ朝鮮人看護婦ノ一名ハ基督教
 信者金麻利亞ト稱シ當初醫院ノ診療ヲ受ケ感スル所アリ爲ニ看護婦タラムコトヲ熱望シタリシヲ以テ
 之ヲ許シタリシニ現時ニ至リテハ大ニ技術ノ進歩セシ旨ヲ語リタルニ一層深ク感動シタルモノ、如ク
 翌十一日教會附屬學校ニ於ケル演說並其ノ他日鮮人數百人ノ集會場ニ於ケル演說ニ於テ慈惠醫院ノ施
 設職員ノ職務ニ忠實ナルコト等ヲ稱揚シ加之其ノ翌十二日醫院設備ノ一端ニ供セラレタシトテ金三十

第三章 醫院ニ於ケル診療患者

明治四十四年一月ヨリ同年六月ニ至ル半年間ニ於ケル朝鮮總督府醫院ノ診療患者數ハ一萬七千三十人ニシテ此ノ延人員十萬八千人ナリ慈惠醫院ノ診療患者數ハ十萬七千七百二十五人ニシテ此ノ延人員六十九萬九千八百八十九人即チ平均一院ノ患者數八千二百八十七人此ノ延人員五萬三千七百七十六人ナリトス而シテ慈惠醫院中患者數延人員共ニ最多キハ忠清南道慈惠醫院ニシテ患者一萬二千五百四十八人此ノ延人員八萬五千五百八十九人患者數ニ於テ最少キハ咸鏡北道慈惠醫院ニシテ患者四千二百一十一人此ノ延人員五萬二千二百人延人員ニ於テ最少キハ江原道慈惠醫院ニシテ患者四千四百七十三人此ノ延人員一萬九千二百五十六人ナリトス其ノ詳細ハ左表ノ如シ

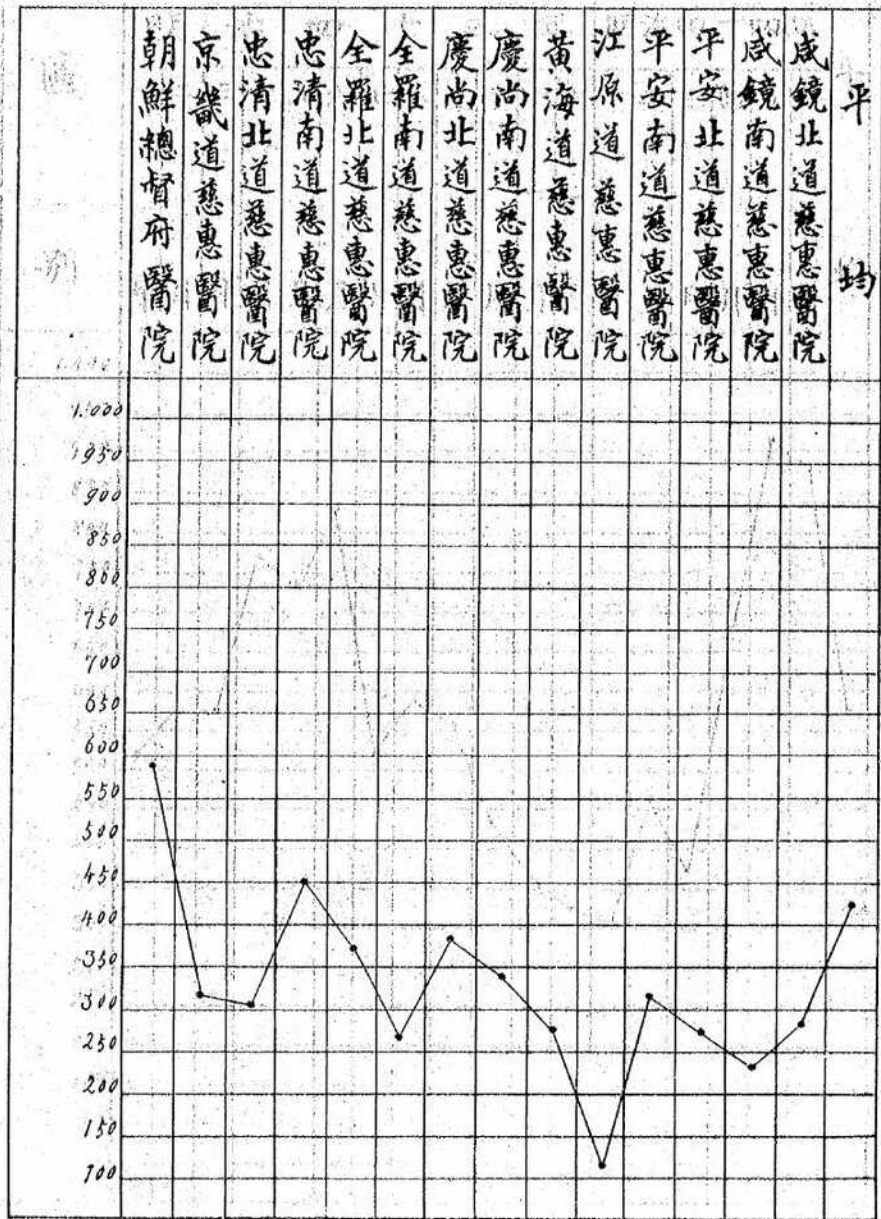
患者醫院別表

醫院	計	内地		朝鮮		計	
		患者數	延人員	患者數	延人員	患者數	延人員
朝鮮總督府醫院	計	八二〇	四六〇四	二二三元	一一五〇六	一〇四四九	五八五四七
	施療	三七六	四二〇	六二〇五	四五二四三	六五八一	四九四三三
	普通	八五六	五〇一五	八四四四	五七七四九	一七〇三〇	一〇八〇〇〇
京畿道慈惠醫院	計	九八二	七三四	一四	五四	一〇九六	七六八
	施療	三九	六三	七五八〇	四六三〇五	七六一九	四六八六八
	普通	一〇四三	七九七	七六九四	四六七四九	八七五	五四七三六

自明治四十四年一月
至同年六月

醫院	計	内地		朝鮮		計	
		患者數	延人員	患者數	延人員	患者數	延人員
忠清北道慈惠醫院	計	九八四	六三〇二	四四	二三五	一〇二八	六五三七
	施療	三三	三〇	九四五七	四七六五五	九四九〇	四七九七五
	普通	一〇七一	六六三	九五〇一	四七八九〇	一〇五一八	五四五二二
忠清南道慈惠醫院	計	一七九四	二七四一	八〇	三七六	一八七四	二二二七
	施療	五六	五三	一〇六八	六八九四九	一〇六七四	六九四七二
	普通	一八五〇	二二四四	六九	六九三	一三五四八	八一五八九
全羅北道慈惠醫院	計	一四八三	九四八六	一四〇	六六三	一六二三	一〇一四九
	施療	一〇二	八九	六四九五	五五二五八	六九五六	五五九八七
	普通	一五八三	九三九五	六六三五	五五八二	八二三八	六六二三六
全羅南道慈惠醫院	計	一五三三	二二七二	九七	六二八	一六三〇	一三三〇〇
	施療	七	六四	五八五一	三三六〇五	五八五八	三三六六九
	普通	一五二六	二二〇八	五九四八	三三二五三	七四八〇	四六九八九
慶尙北道慈惠醫院	計	二二五七	三三五四	六一五	三三四四	二八七二	二四六九八
	施療	三九	四八	七四五三	四二二六一	七四九二	四二六二九
	普通	二二一八	三二〇六	八〇六八	四五五〇五	一〇三六四	六七三二七
慶尙南道慈惠醫院	計	一〇一六	七五七七	一六九	一一四三	一二八五	八八〇〇
	施療	一一	一一	八二八二	五三三三四	八一九四	五三四八五
	普通	一〇〇五	七四六六	八三五一	五四四七七	九三三九	六二二八五
黃海道慈惠醫院	計	一〇八〇	九八三七	九	一一六二	一一七九	一〇九九九
	施療	一七	三〇	三四三九	三六八九二	三四五六	三七一九五
	普通	一〇六三	九八〇七	三五三八	三八〇五四	四六三五	四八一九四

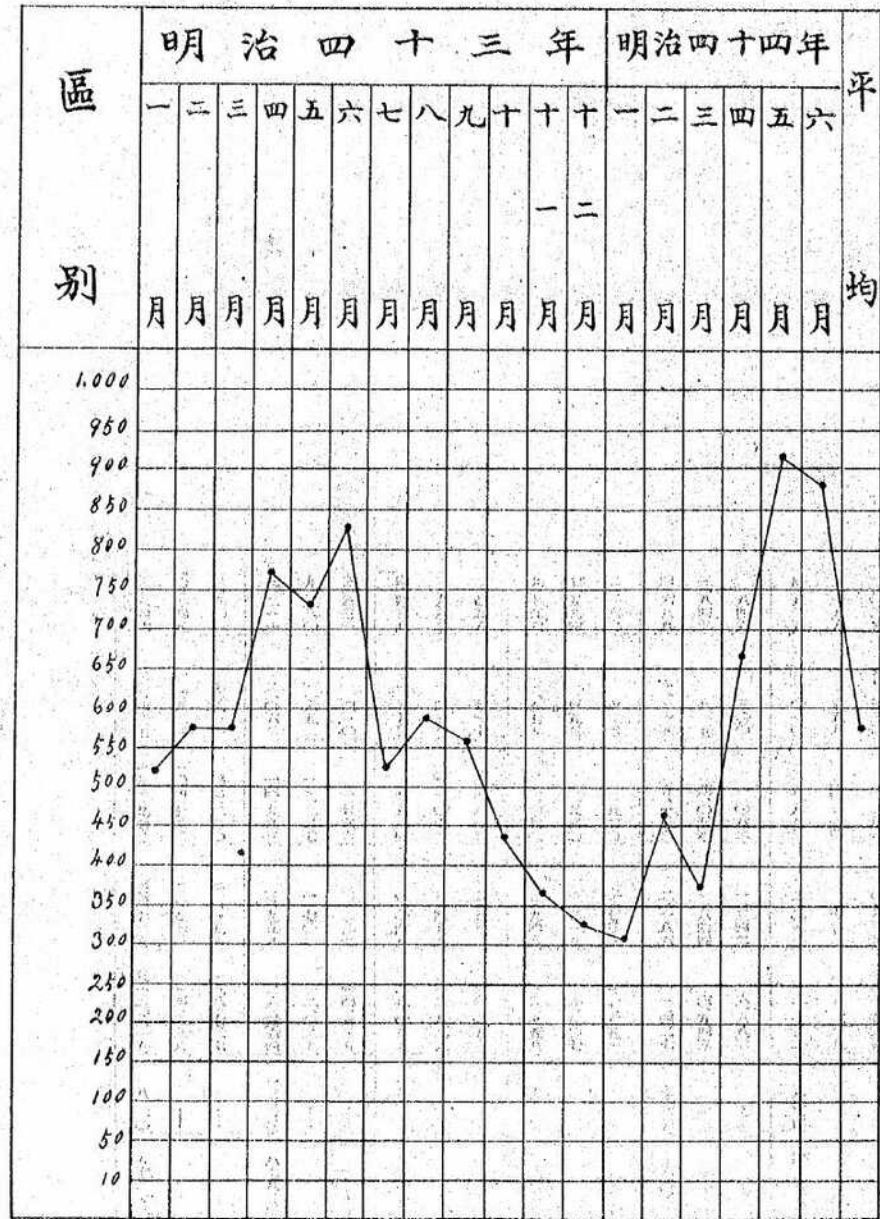
各醫院一日平均患者比較表 自明治四十四年一月至明治四十四年六月



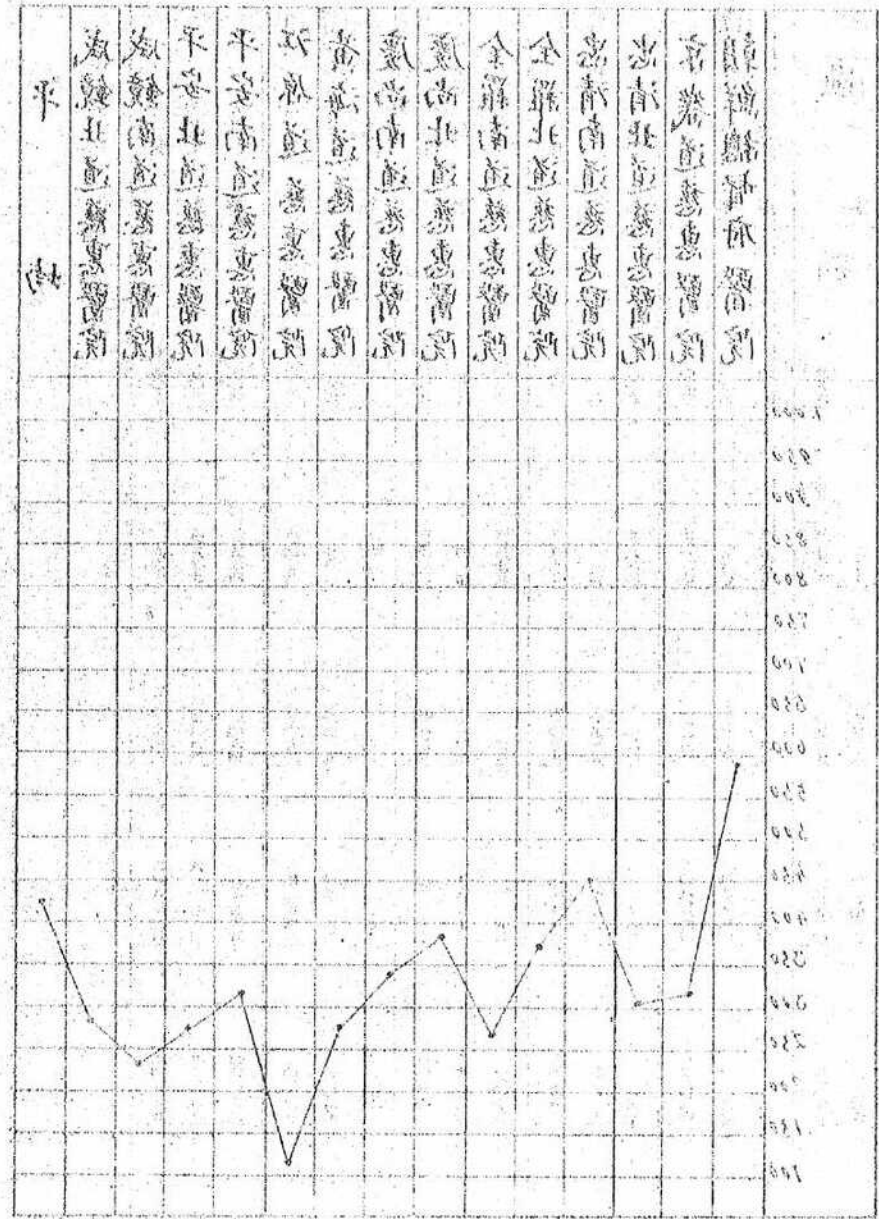
計	咸鏡北道慈惠醫院		咸鏡南道慈惠醫院		平安北道慈惠醫院		平安南道慈惠醫院		江原道慈惠醫院	
	計	施療	計	施療	計	施療	計	施療	計	施療
二四四〇七	二二六〇四	一八〇三	一〇六七	一〇四四	六二	六〇九	一〇九	五〇四	九六六	九六六
二七一九六	二六二五六	九三九七	六七九三	六三七九	五八九二	五八七二	七二二七	六五六七	五七三六	五七三六
二〇〇四八	四〇六四	九六二八四	九一三三	九一〇七	四〇三九	三九二七	一一三三	九三	三三三六	一九二
六三五二八	六二五六三	六二五六三	三七〇六七	三六九七五	四二七七三	四二七八六	四八三三四	三八四	二三五〇	一一〇三
二四七五五	九七〇八七	二七六六八	一〇二〇〇	九二〇〇	四六五〇	三九一九	二二四二四	一一三三	四四七三	二二四七
八〇七〇九	六〇〇九六〇	一八六二二九	四三八六〇	三七三八九	四八六六四	四二八〇六	四八五〇〇	六九五二	一九三五六	六八三九

第三章 醫院ニ於ケル救療患者

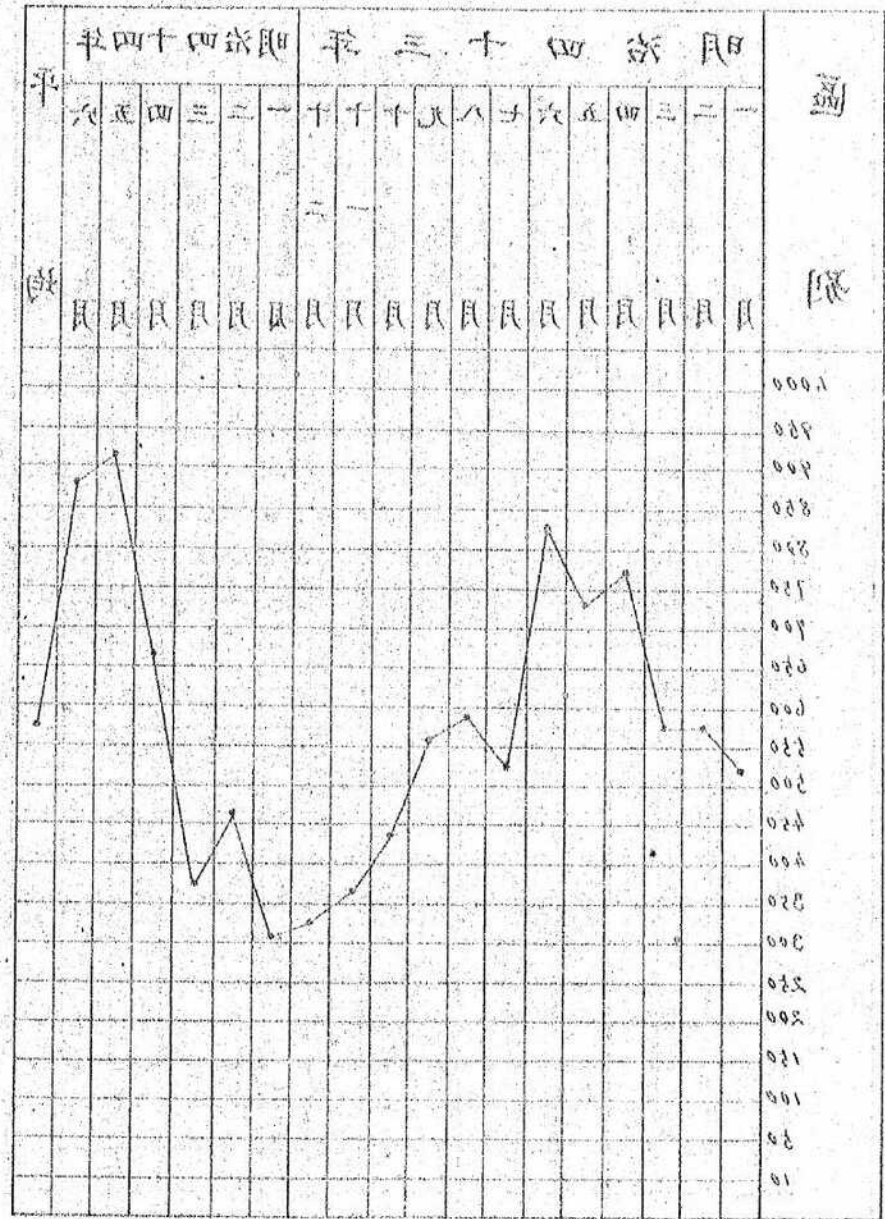
朝鮮總督府醫院一日平均患者月別表



朝鮮總督府醫院一日平均患者月別表

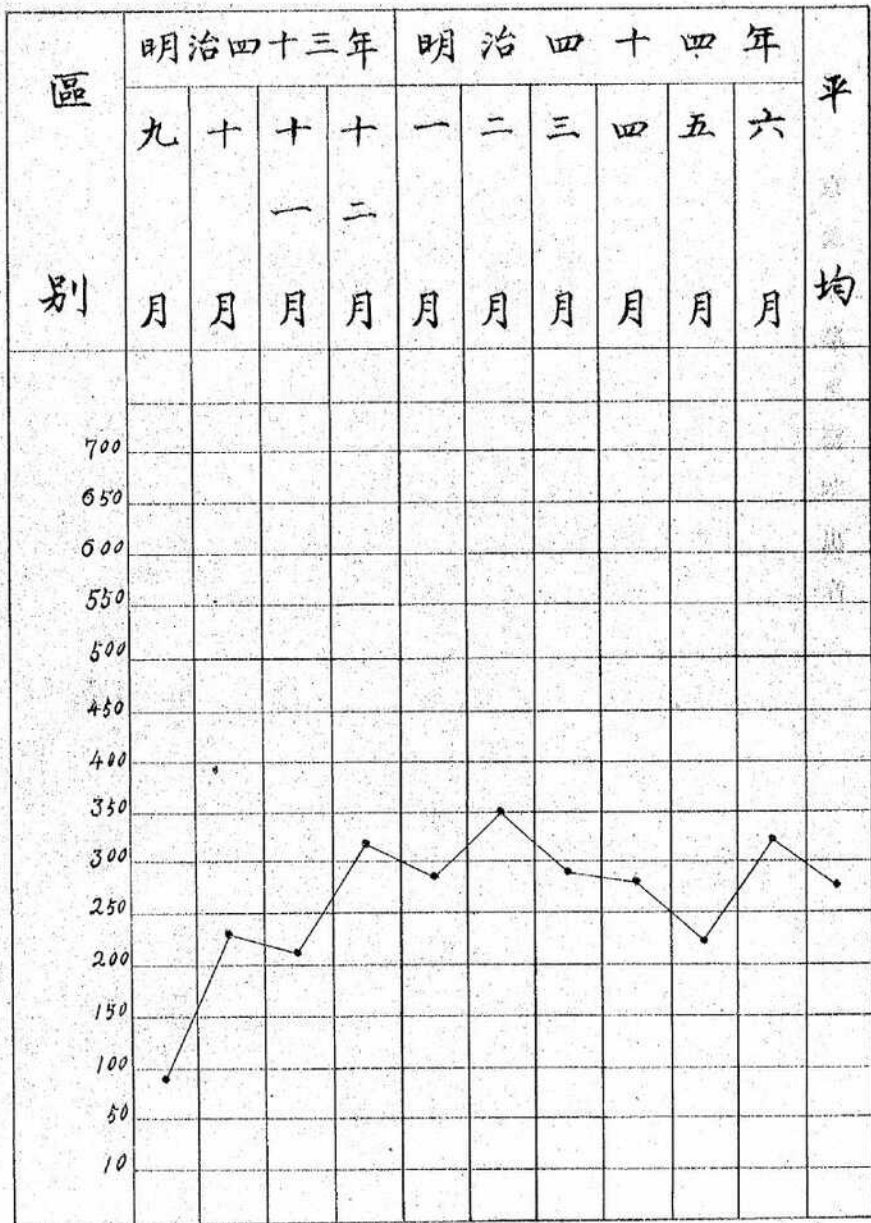


專保良善與平日一測醫俗醫神藥



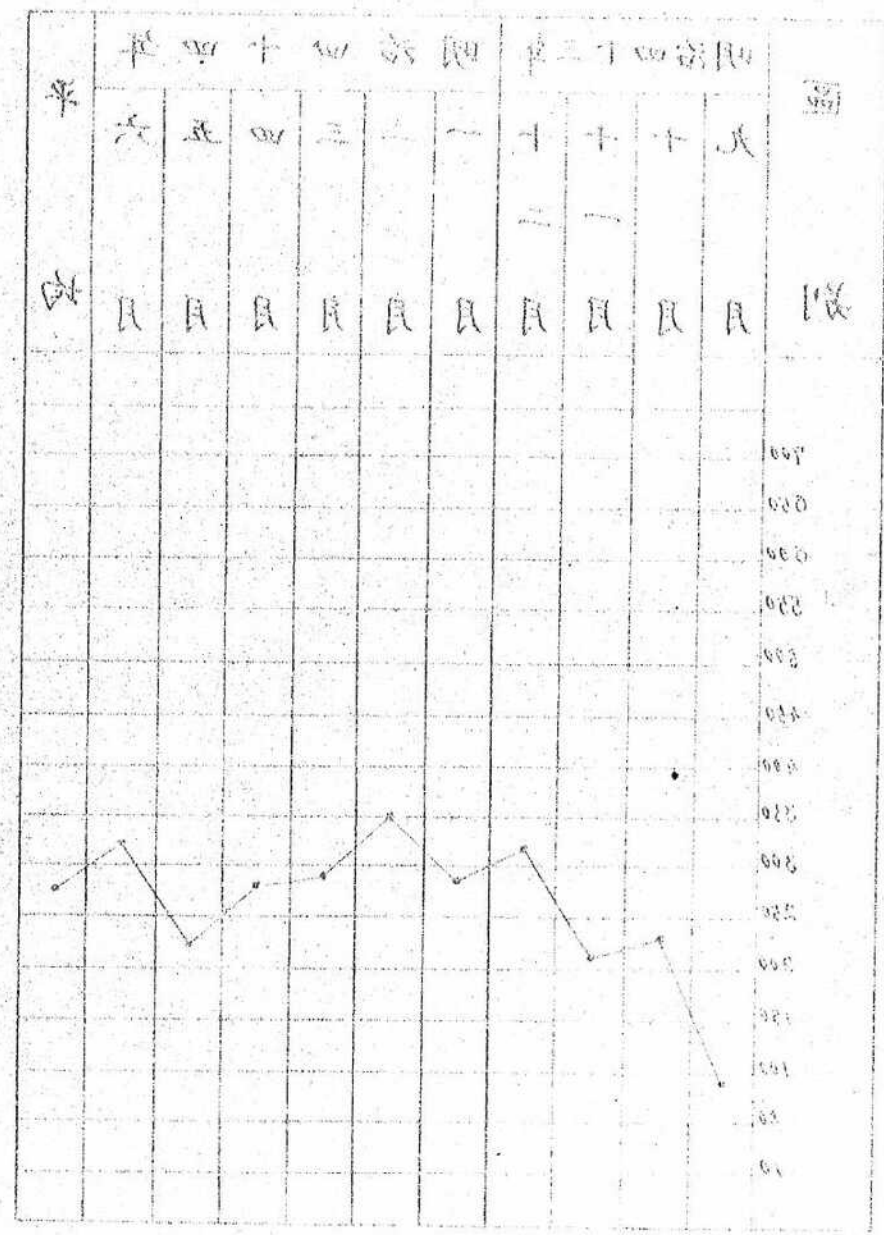
三六四六	〇七四五	三九〇二	三三三二	九八八〇	三三三二	四四三八	一九八二	二四五六	九七五六	七五九四	二二六二	四六八八	三八四二	八四六	四八五五	一〇三九
二〇四三	二二八三	七六二〇	四一〇	一六五三	四一〇	一九五五	一四三六	五二七	二五七九	一、二五五	四二四	二二五	八二五	三〇〇	六五八	三五三
一五一九七	一四七三	四七二五〇	三七六六	一、一三七	一五八八四	二〇七三	二八二二	二二二	二一〇五〇	八五三〇	二五二〇	五二二六	四〇五四	一〇八二	五八六三	一三五九
四四七六五	一三五七一	三、二九四	二二九七	三九九九	四〇四八	一四九六	二五五二	一四二五	二九四八	一三二五	一七三三	二二八六	八四四	一三四二	二二五一	一五九九
三二二八二五	二四〇八八	一九八七七	一四、三三	二六三六	二八〇三九	一三八八	一四二五	九三〇七	一九九六	九三〇七	一〇六五	二四二七	四、五四	六八八二	二七五四	七四六五
八二〇			一三三三		一三〇六				九八三			七〇五		八〇四		
五七三九			八七八八		九〇四五				六六五三			三六八六		四五五五		
六九			六五		六九				六七			五三		五七		

京畿道慈惠醫院一日平均患者月別表



京畿道慈惠醫院患者

京畿道慈惠醫院患者

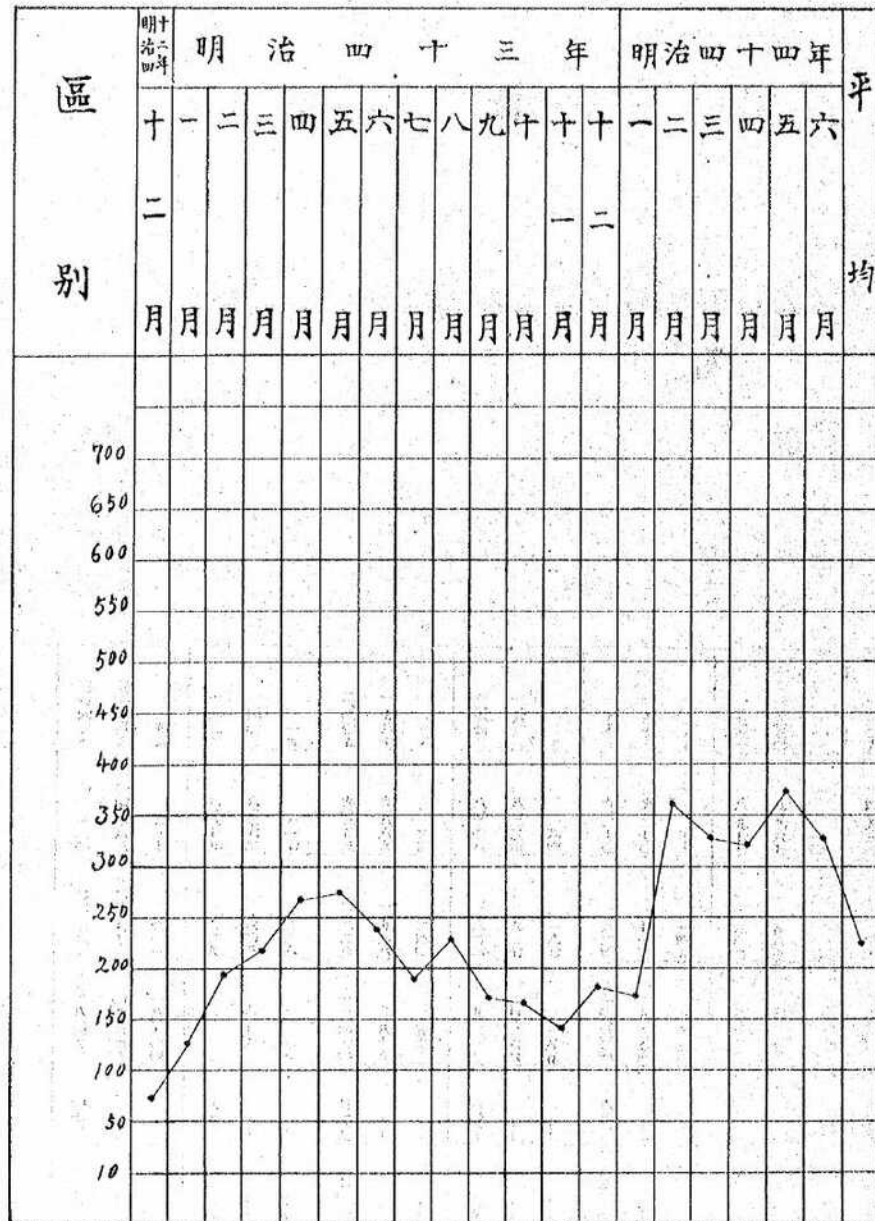


九月五日
六月三十日

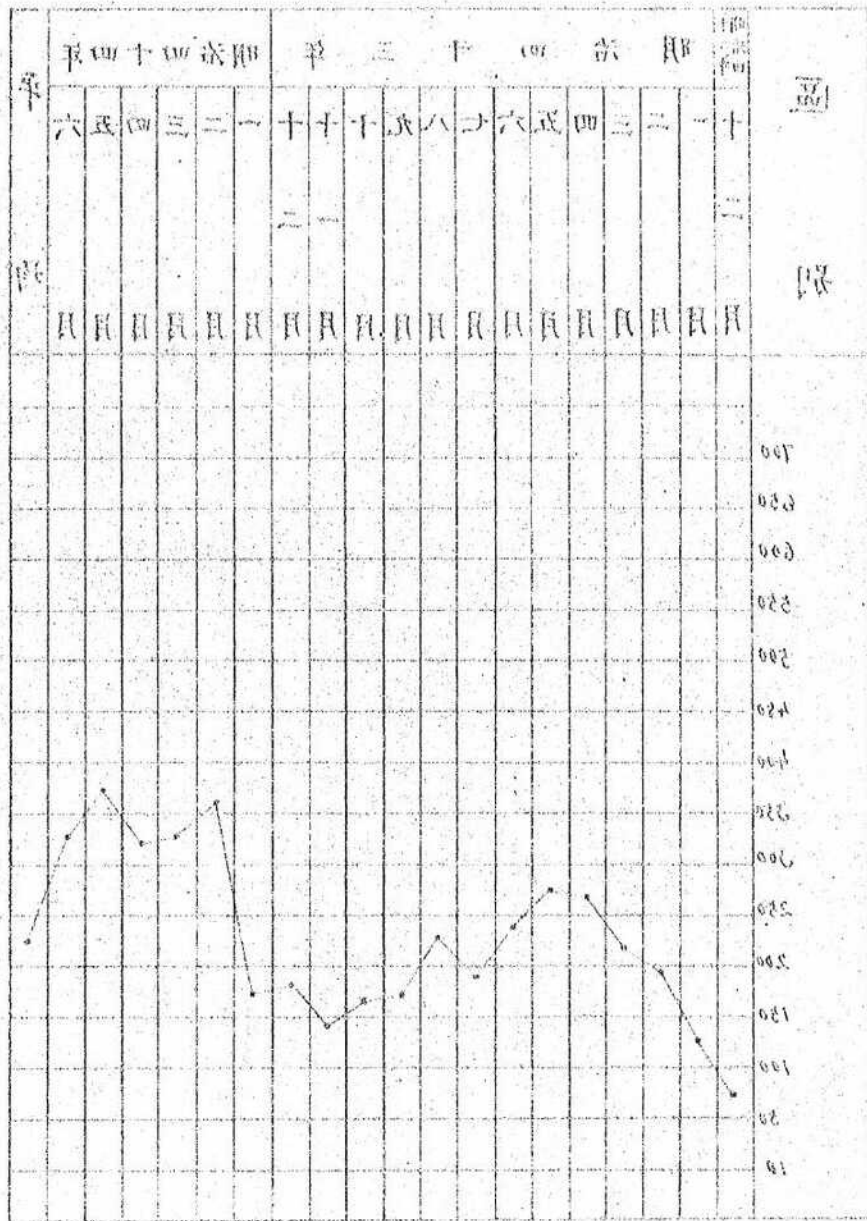
計		一日平均		患者平均	
者	延人員	患者	延人員	日治患者	平均
二五〇	九〇六				
三三三	一五二二				
四八二	二四一八	一八五	九三〇		五〇
三〇二	一九二九				
九〇〇	五二八七				
二〇二	七二〇六	三五五	三三三		六四
一八一	一四九〇				
六七〇	四六四三				
八五二	六〇九三	二八四	二〇三二		七三
一九三	一八三七				
三七四	七八九九				
二五五	一三三六				
二三八	七四八六				
一九六	二二六六				
五五〇	八四六〇				
七二六	九八二六	六二六	三五〇七		五六
一五四	九二六				
四七八	八二八九				
六三三	九二二一	五二六	二九三九		五五
〇九九	七二九二				
二七九	一三六二				
三七七	八六五四	四三六	二八八四		六八
三〇八	一五一三				
二六〇	七〇七八				
五六八	八五九二	四四二	三三七〇		六三
二〇四	一三三五				
三二四	八三六七				
四一八	九七四三	四七三	三四七		六九
八二二	一三九八〇				
七九五	六六三〇九				
六二六	八〇一八九	四三二	二六八二		六四

裏面白紙

忠清北道慈惠醫院一日平均患者月別表



泰限民歲與平日一測需惠並北新涉



二三四三	二三八六	二四〇三	一九八七	一六四三	一七七一	一五五二	一一〇九
一〇七三〇	一七〇八三	六八七九	九八九九	八三三六	九二二〇	八九六七	四五三三
二六七八七	三三七七六	一六三九	二二三八	一八二四	一九二四	一六八四	一三三九
二八四五三	一九七四八	八二二七	九八九九	八二六四	一〇三〇四	九八八〇	五三〇三
四七二二	三三四三	五四三	七二九	六〇八	六二二	六〇二	三九六
四七	四九	五二	五二	五二	五三	五八	四三

總計	明治四十四年						明治四十三年						明治四十二年						明治四十二年		出 入 者 延 人 員 院
	六 月	五 月	四 月	三 月	二 月	一 月	十二 月	十一 月	十 月	九 月	八 月	七 月	六 月	五 月	四 月	三 月	二 月	一 月	十二 月		
計 施 療	計 施 療	計 施 療	計 施 療	計 施 療	計 施 療	計 施 療	計 施 療	計 施 療	計 施 療	計 施 療	計 施 療	計 施 療	計 施 療	計 施 療	計 施 療	計 施 療	計 施 療	計 施 療	計 施 療	計 施 療	
四 九																					
九 九																					

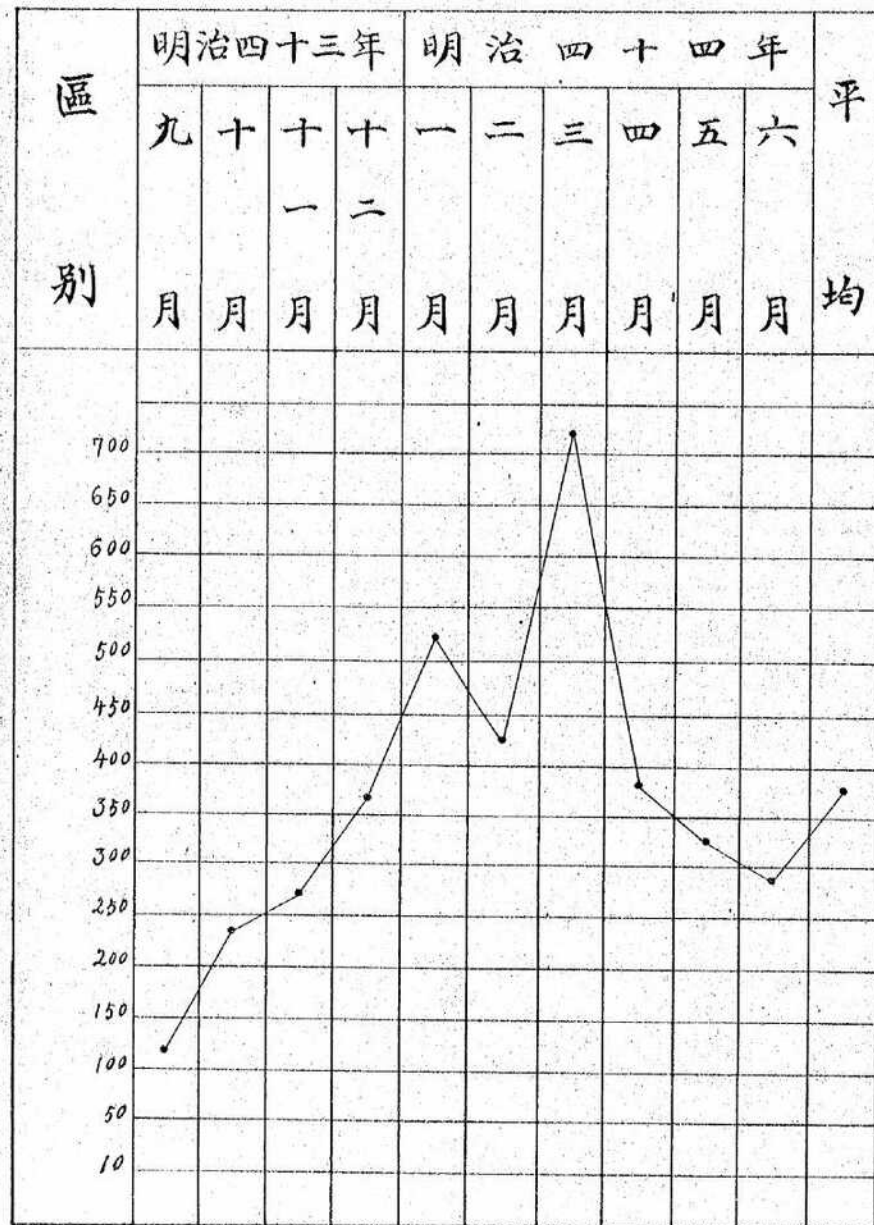
忠清北道慈惠院

忠清北道慈惠醫院患者月別表

計	內												外						合計								
	入	院	外	者	延	人員	患	者	延	人員	患	者	延	人員	患	者	延	人員	患	者	延	人員	患	者	延	人員	
	計	施	普	計	施	普	計	施	普	計	施	普	計	施	普	計	施	普	計	施	普	計	施	普	計	施	普
十二月	10	4	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
十一月	11	5	5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
十月	12	6	6	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
九月	13	7	7	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
八月	14	8	8	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
七月	15	9	9	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
六月	16	10	10	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
五月	17	11	11	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
四月	18	12	12	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
三月	19	13	13	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
二月	20	14	14	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
一月	21	15	15	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計	22	16	16	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

自明治四十二年十二月十日
至明治四十四年六月三十日

忠清南道慈惠醫院一日平均患者月別表



忠清南道慈惠醫院患者月別表

總計	年 四 十 四 治 明						年 三 十 四 治 明				入 院 者 延 人 員 患 者 計	內 地 來 人 計	入 院 者 延 人 員 患 者 計	外 地 來 人 計	入 院 者 延 人 員 患 者 計	外 地 來 人 計	合 計
	六 月	五 月	四 月	三 月	二 月	一 月	十 二 月	十 一 月	十 月	九 月							
	普 施 療 通 計	普 施 療 通 計	普 施 療 通 計	普 施 療 通 計	普 施 療 通 計	普 施 療 通 計	普 施 療 通 計	普 施 療 通 計	普 施 療 通 計	普 施 療 通 計							
二八 九 一九	七 一 六	六 一 五	三 一 二	二 二 一	一 一 一	三 一 二	二 二 二	二 一 一	一 一 一	二 一 一	二 一 一	二 一 一	二 一 一	二 一 一	二 一 一	二 一 一	二 一 一
三六 六 一四 四	六 二 二	五 九 三	三 三 七	三 四 一	二 八 一	一 七 二	六 三 一	二 三 一	一 九 一	三 三 一	二 三 一	三 三 一	二 三 一	二 三 一	二 三 一	二 三 一	二 三 一
二九 七 七	二 八 七	二 八 五	三 三 三	三 七 八	二 五 七	二 八 五	二 七 四	三 三 六	二 四 二	三 三 九	三 三 六	二 四 二	二 四 二	二 四 二	二 四 二	二 四 二	二 四 二
二〇 二 四	二 二 五	一 九 九	二 〇 九	二 五 八	一 二 四	二 二 三	一 八 八	二 二 〇	一 六 五	二 五 〇	二 四 五	一 六 五	二 四 五	一 六 五	二 四 五	一 六 五	二 四 五
三〇 〇 七	二 九 四	三 〇 四	三 三 六	三 八 〇	二 五 八	二 八 八	二 六 六	三 〇 〇	二 四 五	三 〇 〇	三 〇 六	二 四 五	三 〇 〇	二 四 五	三 〇 〇	三 〇 六	二 四 五
二〇 六 〇	二 一 八	二 〇 七	二 一 三	二 五 二	一 二 七	二 一 三	一 九 八	二 二 〇	一 六 四	二 五 四	二 四 五	一 六 四	二 五 四	一 六 四	二 五 四	一 六 四	二 五 四
二六 〇	五 〇	四 八	四 三	四 二	二 六	二 九	二 四	二 〇	二	六	六	二	六	二	六	二	六
四七 三	八 四	九 〇	九 三	七 三	四 四	三 八	二 八	二 八	二	四	四	二	四	二	四	二	四
一三 九 〇	一 〇 五	一 五 〇	一 四 三	二 七 五	一 七 九	一 八 九	一 四 八	八 七	二 七	八 七	八 七	二 七	八 七	二 七	八 七	八 七	二 七
八五 五 六	五 八 七	七 六 七	八 四 七	一 八 七	一 〇 六	一 三 七	八 七 五	五 五 七	四 九 一	四 九 一	四 九 一	二 七 五	四 九 一	二 七 五	四 九 一	四 九 一	二 七 五
二四 一 八	一 二 五	一 五 一	一 四 四	二 七 九	一 八 五	一 九 三	一 四 九	八 八	二 七	八 三	八 三	二 七	八 三	二 七	八 三	八 三	二 七
九〇 二 九	六 七 四	八 四 七	九 四 〇	一 九 四	一 一 二	一 四 〇	八 九 四	五 七 〇	二 五	五 〇 六	五 〇 六	二 五	五 〇 六	二 五	五 〇 六	五 〇 六	二 五
二七 一 七	一 四 四	一 八 五	一 四 〇	二 七 九	一 一 七	一 四 〇	一 九 四	一 〇 〇	五	一 一 四	一 一 四	五	一 一 四	五	一 一 四	一 一 四	五

自明治四十三年九月
至明治四十四年六月

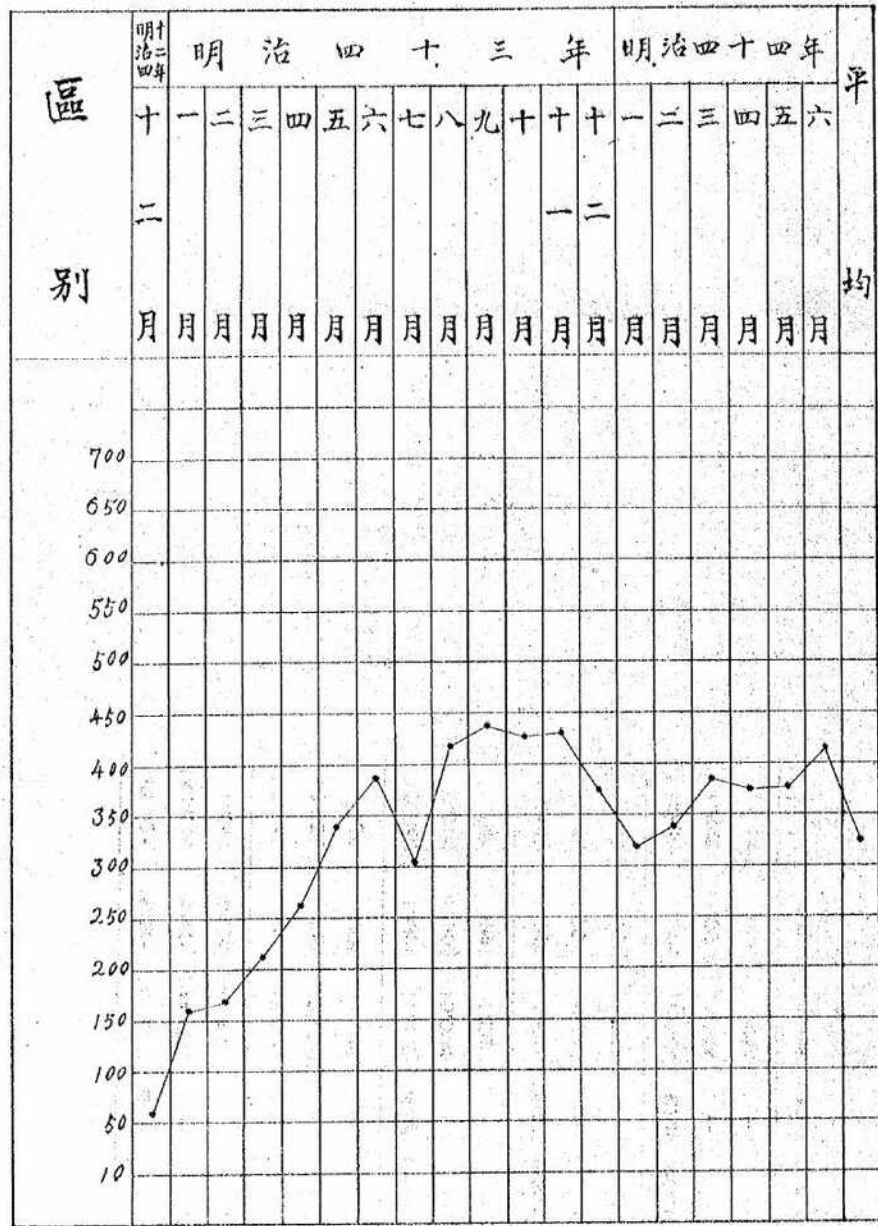


明治四十三年九月五日
明治四十四年六月三十日

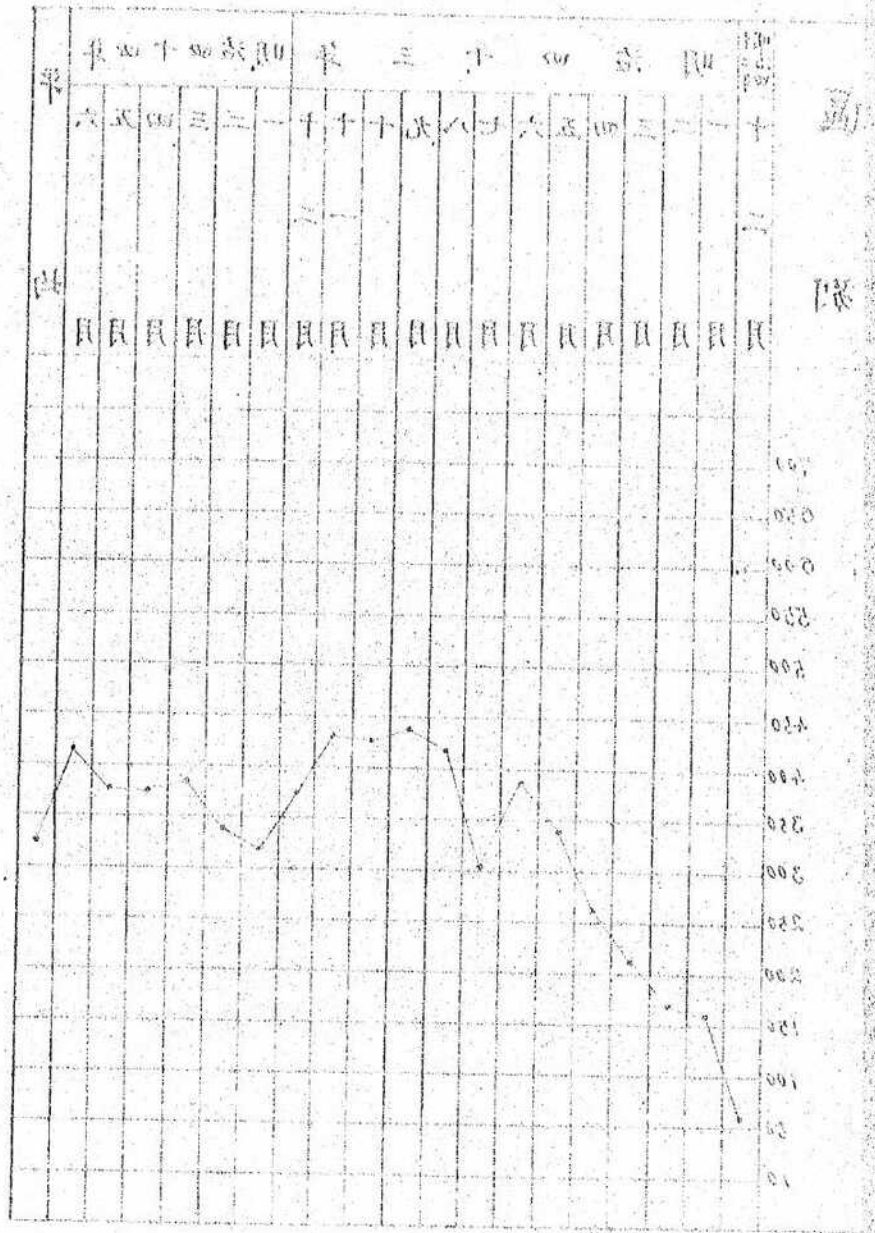
人	計	合		一日平均	患者一人 日治平均 數
		患者	延人員		
者	延人員	患者	延人員	患者	延人員
二七〇	一三三九	二四七	一六三六	二〇〇	一一七
二七〇	一三三九	二四七	一六三六	二〇〇	一一七
八三三	五〇二六	三二六	二四五二	三六九	二四三
八三三	五〇二六	三二六	二四五二	三六九	二四三
八八二	五七〇二	三〇六	二〇九七	四〇〇	二四〇
八八二	五七〇二	三〇六	二〇九七	四〇〇	二四〇
四九九	八八九四	二七〇	一八七五	五七三	三五二
四九九	八八九四	二七〇	一八七五	五七三	三五二
九二二	一四〇九〇	二六二	一八七七	七二〇	五三三
九二二	一四〇九〇	二六二	一八七七	七二〇	五三三
八二五	二二〇七	二八五	二二七七	七四〇	四八六
八二五	二二〇七	二八五	二二七七	七四〇	四八六
一六	六五	三三八	二二三八	一〇五八	七二〇
一六	六五	三三八	二二三八	一〇五八	七二〇
四七四	九四〇九	二八〇	二一五三	六〇〇	三八四
四七四	九四〇九	二八〇	二一五三	六〇〇	三八四
二二	一一五	三二九	二二五五	五九八	三九九
二二	一一五	三二九	二二五五	五九八	三九九
四四	一九六	三三五	二二六五	四八三	二九六
四四	一九六	三三五	二二六五	四八三	二九六
二〇七	六五二八	一一〇	六五五五	二九六	六二
二〇七	六五二八	一一〇	六五五五	二九六	六二
〇九三	三八九	三〇三	二〇二七	五七四	三七〇
〇九三	三八九	三〇三	二〇二七	五七四	三七〇
二八〇	九〇三九	一七二	一〇九〇	三七〇	六四
二八〇	九〇三九	一七二	一〇九〇	三七〇	六四

裏面白紙

全羅北道慈惠醫院一日平均患者月別表



全群北前真蓄一日平日真蓄北群



七九七四	九〇三	八二六三	三四九	三〇六六	八七
七九八二	一〇八一	九五〇六	三三九	三〇六六	八七
七九五八	一二六三	八三四四	一四四一	二四五八	六九
一八	二三八	一四四一	五〇〇	二四五八	六九
七九七六	一四〇二	九六八五	五〇〇	二四五八	六九
七九五八	一二六三	八三四四	一四四一	二四五八	六九
一五	二八六	一八七八	一〇二八九	三八九二	九三
九九五四	一〇〇三	二〇二八九	四一五	三八九二	九三
九九六九	一二八八	二二〇六三	四一五	三八九二	九三
三八〇	二九二	一七六三	四三二	三六六三	八五
九二八七	一〇〇三	九二三三	四三二	三六六三	八五
九五六七	二二九四	二〇九九五	四三二	三六六三	八五
二三八	二九三	一四九二	五〇四	三七一九	七三
一〇〇一八	一二六九	二〇三三八	五〇四	三七一九	七三
一〇二五六	一五六三	二二五三〇	五〇四	三七一九	七三
一〇四	三三五	二二二三三	五〇四	三七一九	七三
一〇〇四七	一二五七	一〇一〇五	五〇四	三七一九	七三
一〇二九五	一五九二	二二二二七	五〇四	三七一九	七三
一六七三	四八〇六	三二五三九	四三二	三六六三	八五
一五二六三	一九五六二	二五九二〇	四三二	三六六三	八五
二四三〇五	二四三六七	一八六六四	四三二	三六六三	八五

總計	年 四 十 四 治 明						年 三 十 四 治 明						年二十四治明	患 者 延 入 院 内	全 羅 北 道 慈 惠 院				
	六 月	五 月	四 月	三 月	二 月	一 月	十二 月	十一 月	十 月	九 月	八 月	七 月	六 月			五 月	四 月	三 月	二 月
計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計
一六八	二二	六六	二二	五二	四一	五二	九一	二一	三二	二二	二八	三三	三三	二二	六六	八八	二二	一一	一一
一八六	一七八	一〇六	三八	六〇	四〇	八六	一三四	一五八	二〇九	二六七	二六五	二〇九	七九	二四	一六八	九一	五五	一一	一一
四六九	三〇〇	二〇二	一一一	一一一	一一一	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇

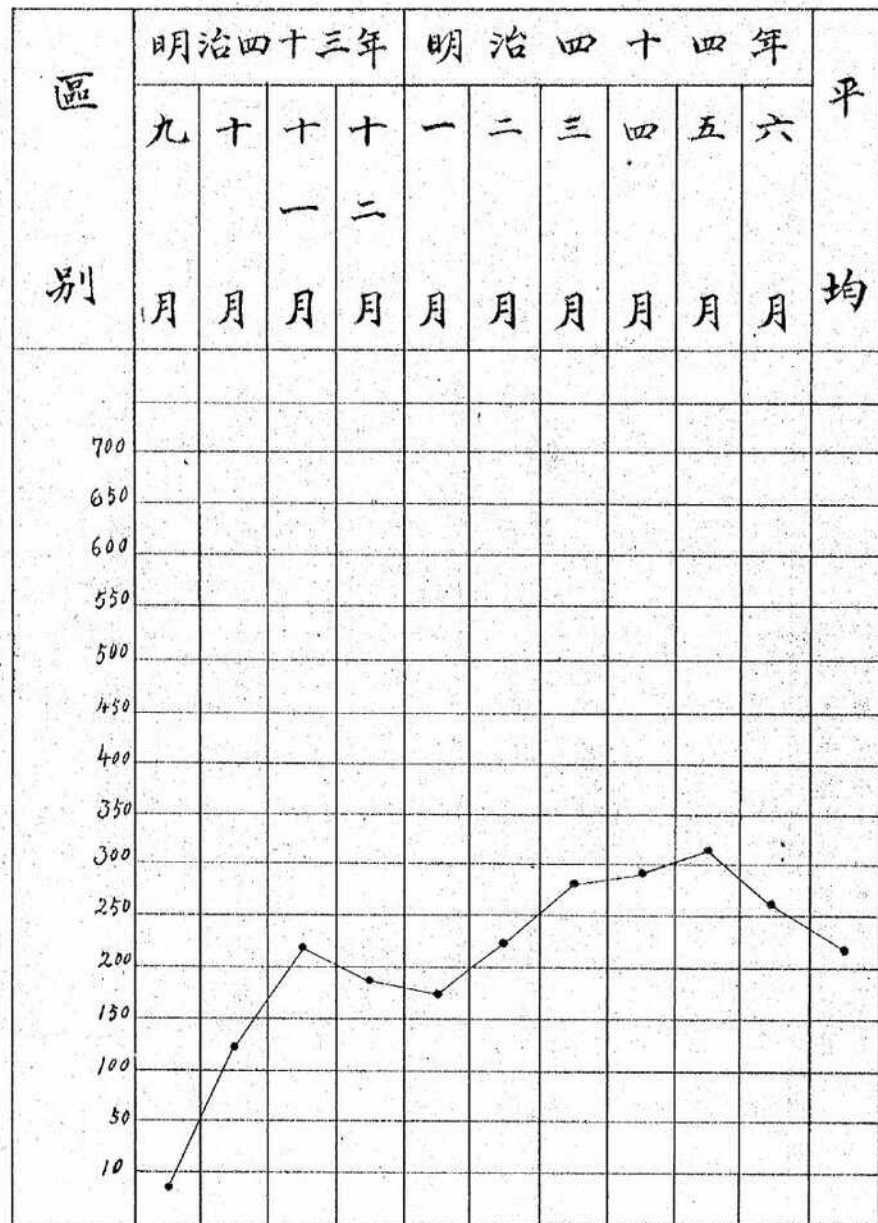
全羅北道慈惠醫院患者月別表

自明治四十二年十二月十日
至明治四十四年六月三十日

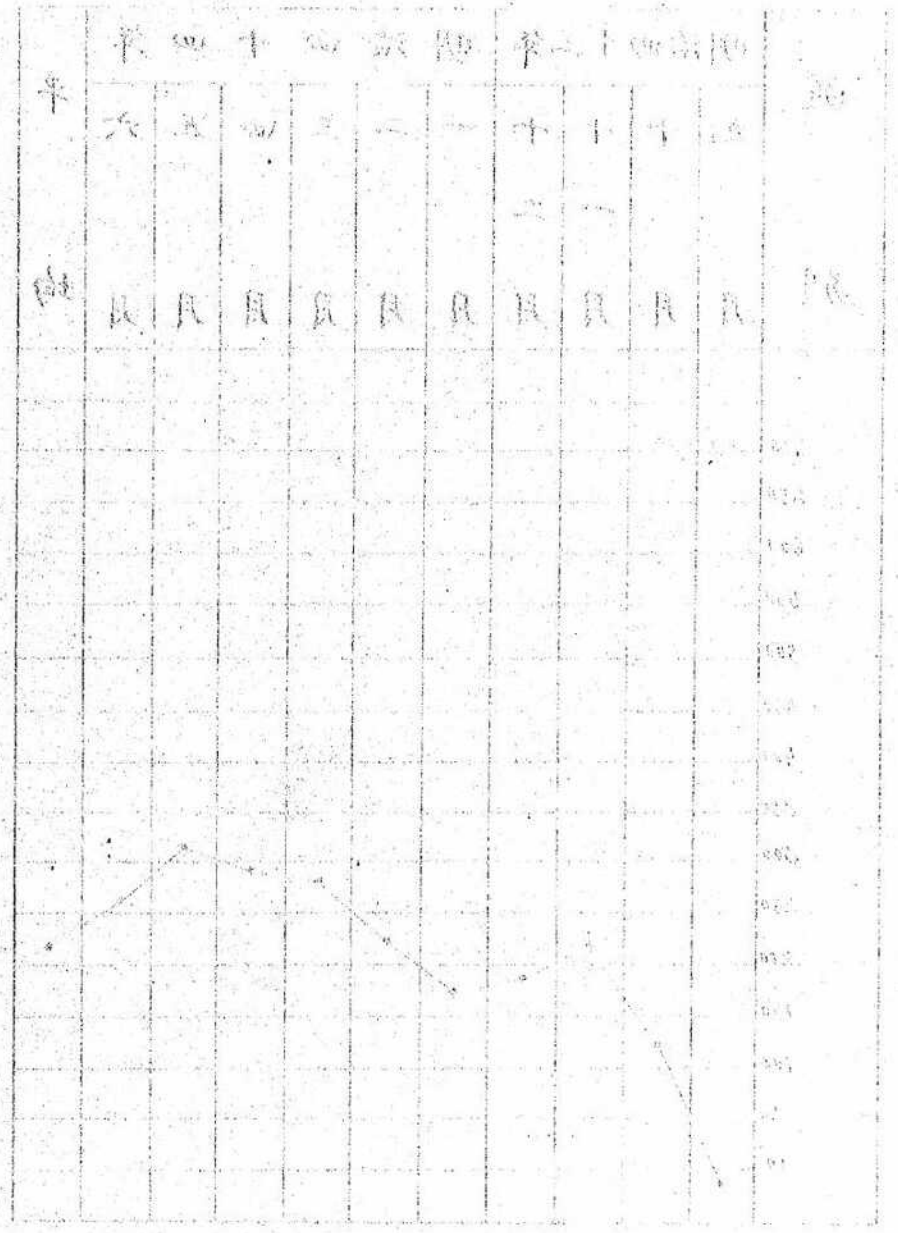
Table with 20 columns (months) and multiple rows (patient categories). Headers include '總計' (Total), '內院' (Inpatient), '外院' (Outpatient), '合計' (Total), '平均' (Average), and '患者' (Patients). Each cell contains numerical data representing patient counts.

裏面白紙

全羅南道慈惠醫院一日平均患者月別表



東京市人口の増減と人口の構成

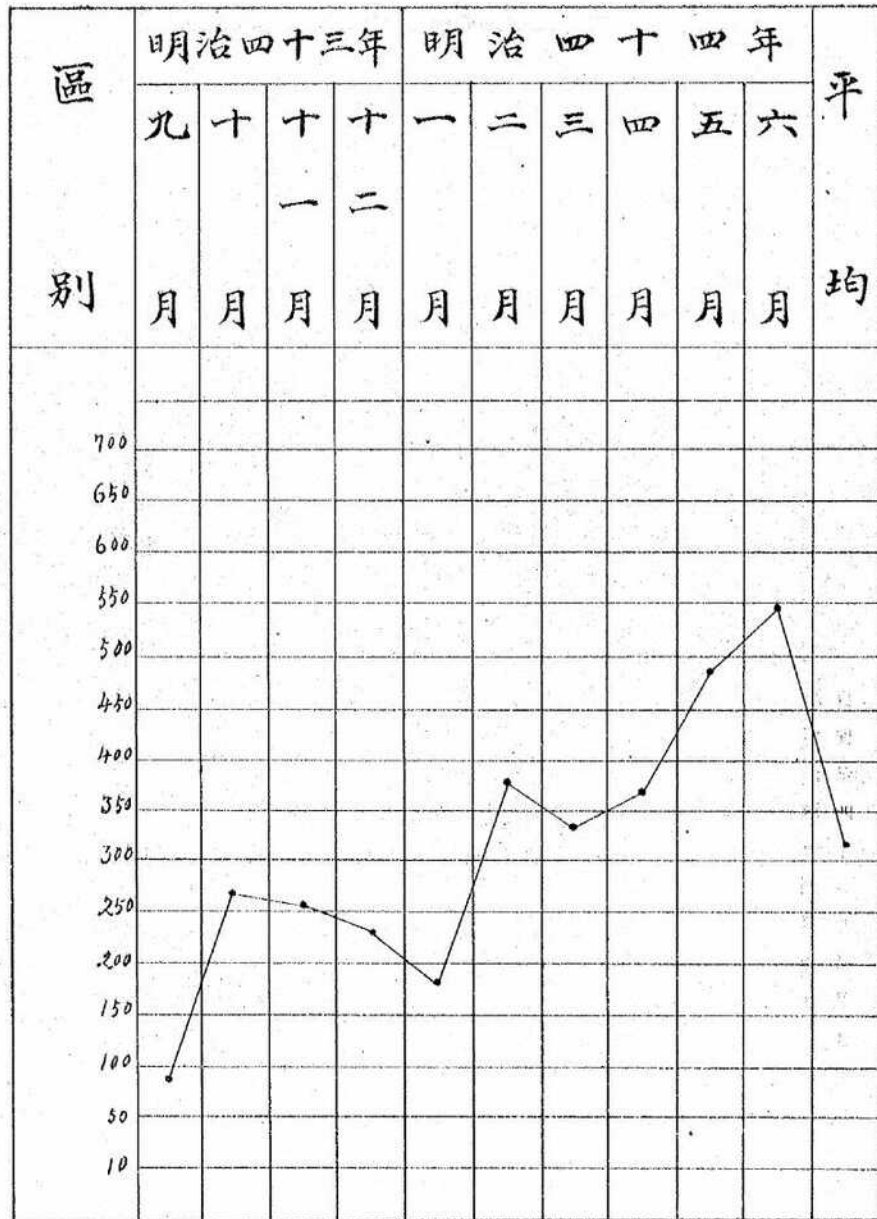


自明治四十三年九月二十日
至明治四十四年六月三十日

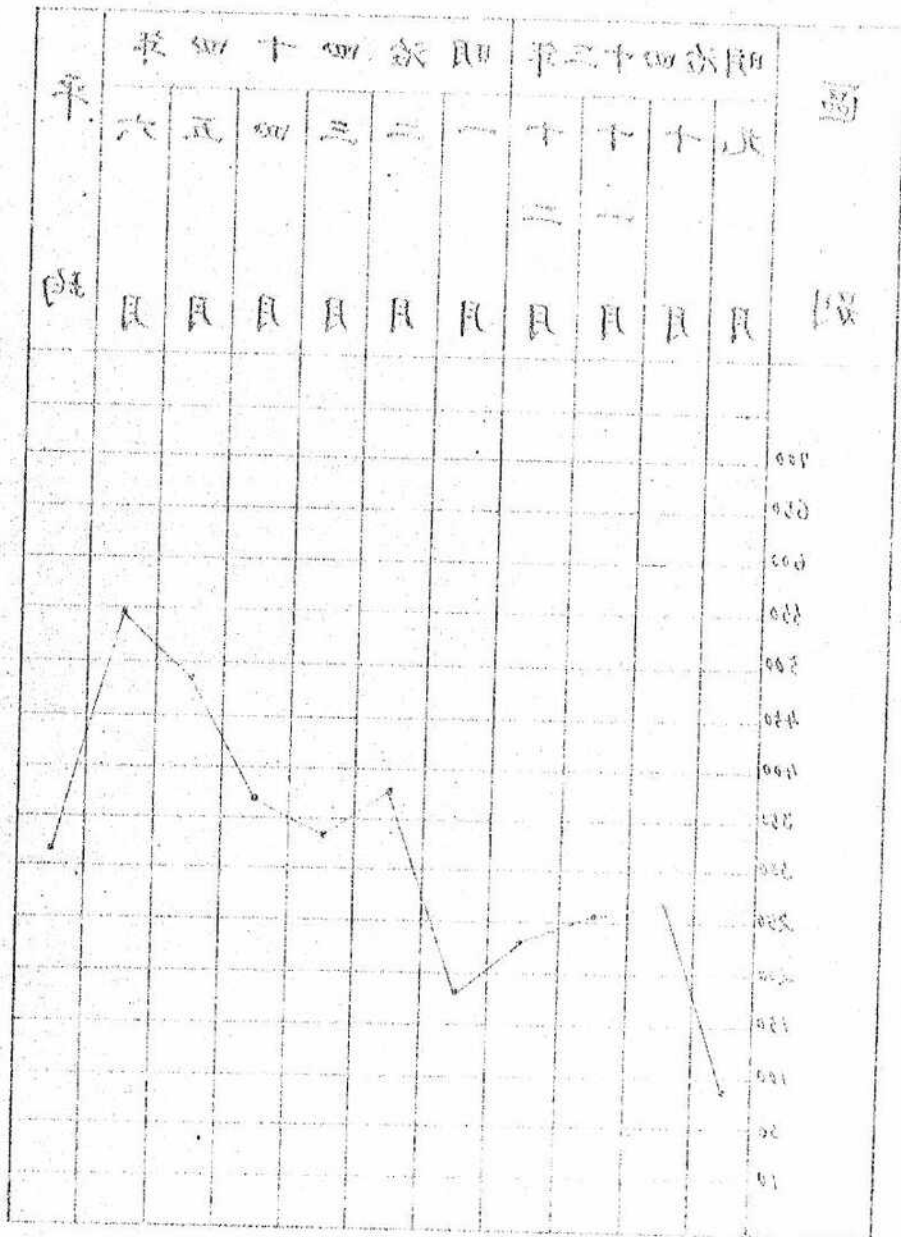
總計	明 治 十 四 年						明 治 十 三 年				患 者 延 入 內
	六 月	五 月	四 月	三 月	二 月	一 月	十 二 月	十 一 月	十 月	九 月	
計 施 療	計 施 療	計 施 療	計 施 療	計 施 療	計 施 療	計 施 療	計 施 療	計 施 療	計 施 療	計 施 療	計 施 療
四 七 〇	八 一 八	五 一 五	四 一 四	五 一 四	七 一 六	三 一 三	七 二 五	六 三 三	二 一 二	一 一 一	

全羅南道

慶尚北道慈惠醫院一日平均患者月別表



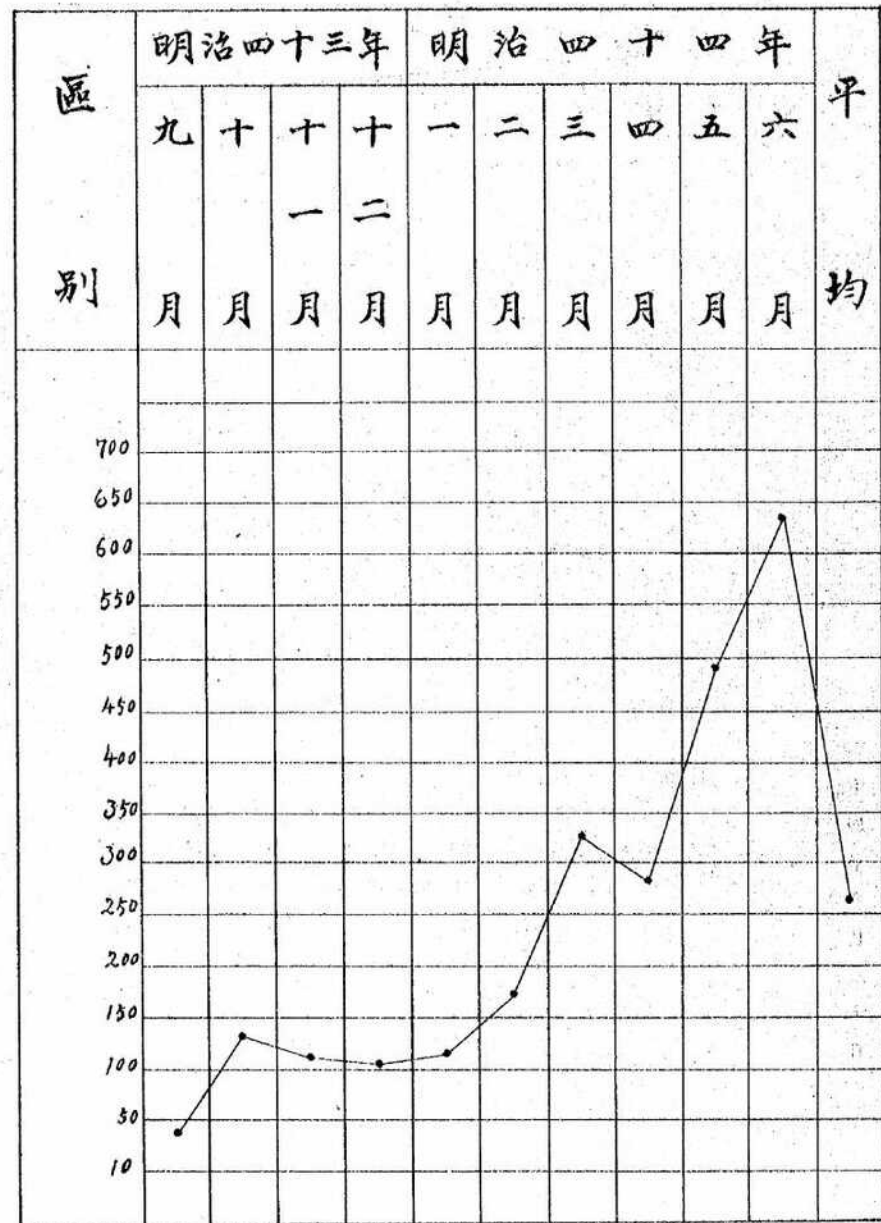
臺灣農產調查報告第一冊 第一圖 臺灣農產調查第一圖



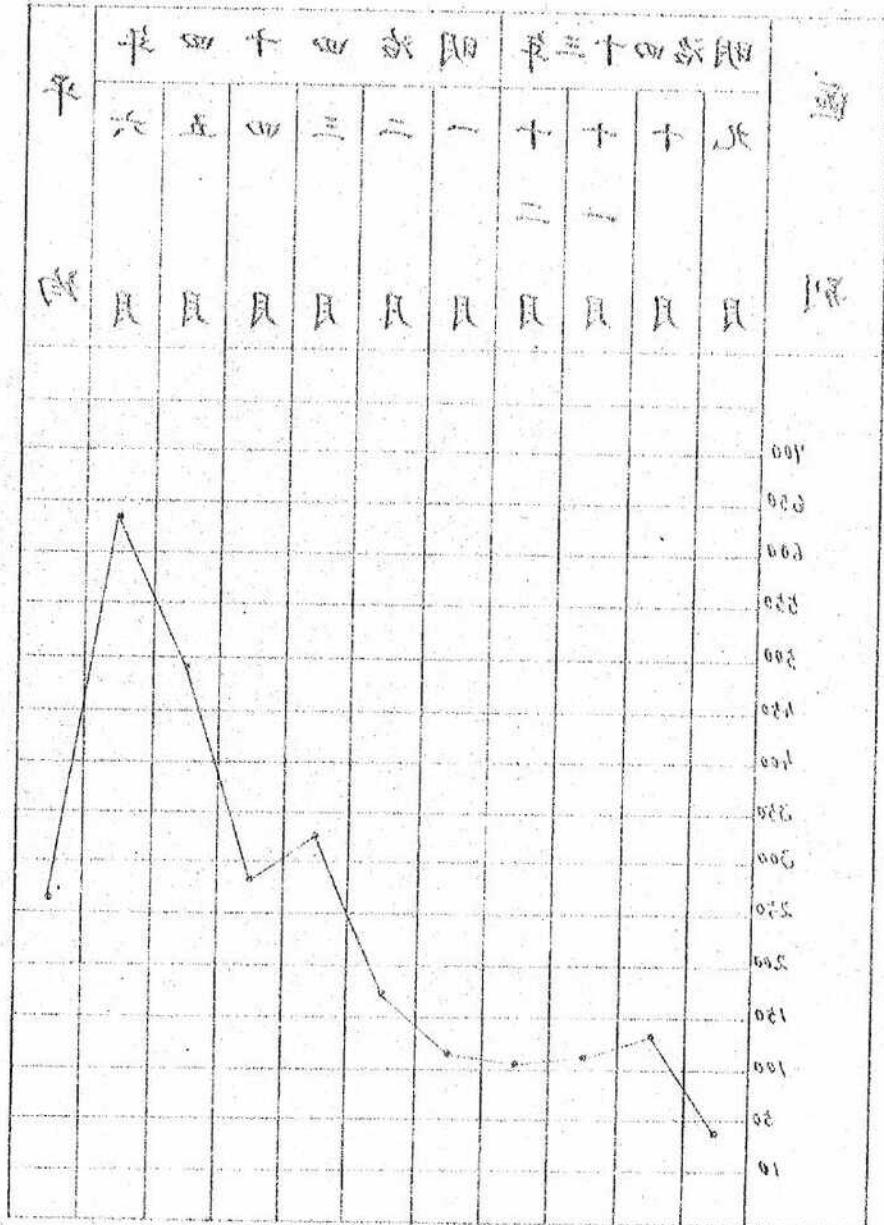
自明治四十三年九月七日
至明治四十四年六月三十日

總計	明治四十四年						明治四十三年				患者 延人員	入院 院	内	慶尙 北道 慈	
	六月	五月	四月	三月	二月	一月	十二月	十一月	十月	九月					
計 施 療 通	計 施 療 通	計 施 療 通	計 施 療 通	計 施 療 通	計 施 療 通	計 施 療 通	計 施 療 通	計 施 療 通	計 施 療 通	計 施 療 通	計 施 療 通				
三三三 一七 三〇五	四五 四五	四〇 四〇	五五 三三	三三 二九	三七 三三	三三 二九	三三 三三	三三 二九	三三 二九	三三 二九	三三 二九				
三六九 二四 三〇五	六二 六二	四七 四七	三八 三三	三六 三〇	三六 三〇	三六 三〇	三六 三〇	三六 三〇	三六 三〇	三六 三〇	三六 三〇				

慶尚南道慈惠醫院一日平均患者月別表



臺灣省各縣雨量平日常一觀



四十四年三月二十二日
四十四年六月三十日

總計	明 治 四 十 四 年						明 治 四 十 三 年				患 者 延 人 員 患	入 院 外	内	
	六 月	五 月	四 月	三 月	二 月	一 月	十 二 月	十 一 月	十 月	九 月				
計 施 療	計 施 療	計 施 療	計 施 療	計 施 療	計 施 療	計 施 療	計 施 療	計 施 療	計 施 療	計 施 療	計 施 療			
通 療	通 療	通 療	通 療	通 療	通 療	通 療	通 療	通 療	通 療	通 療	通 療			
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100			
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100			

慶
尚
南
道
慈
恵
院



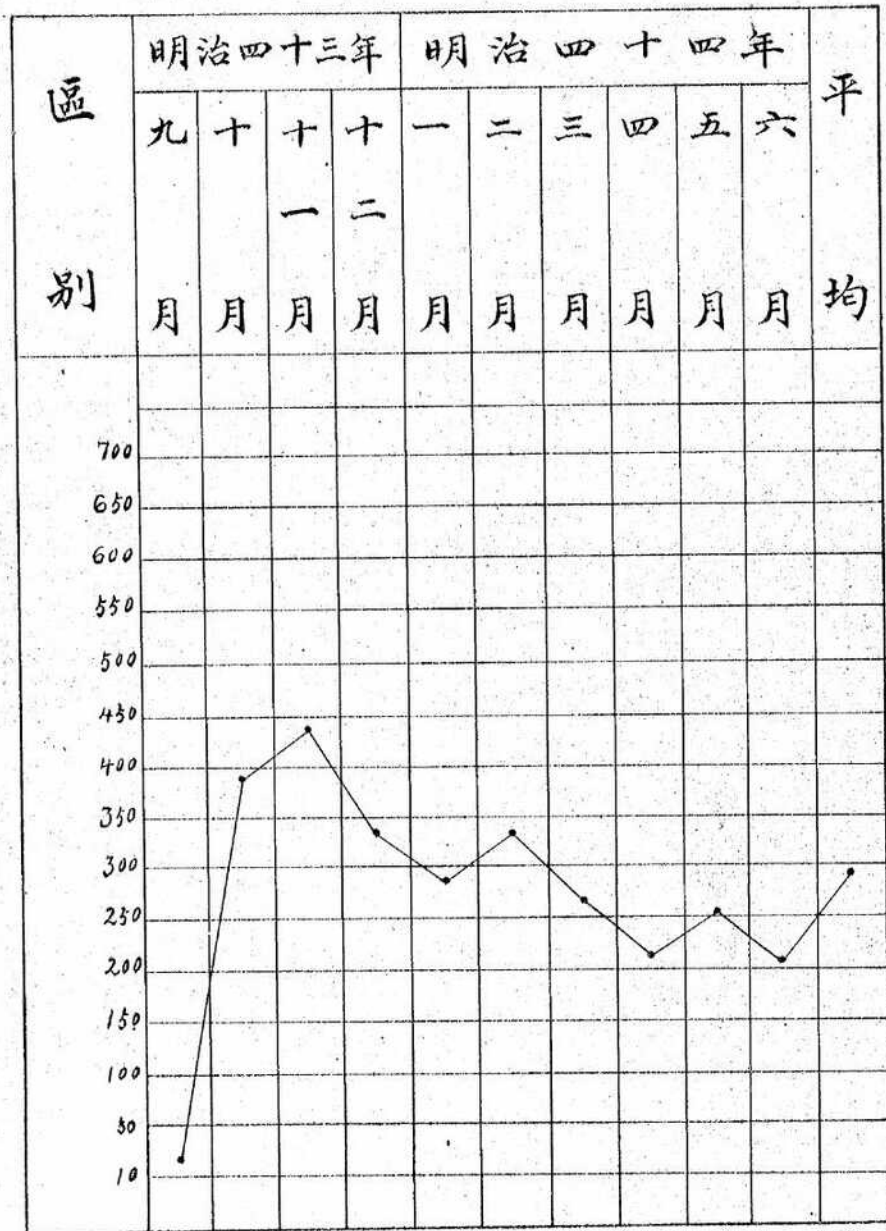
慶尙南道慈惠醫院患者月別表

自明治四十三年九月十二日
至明治四十四年六月三十日

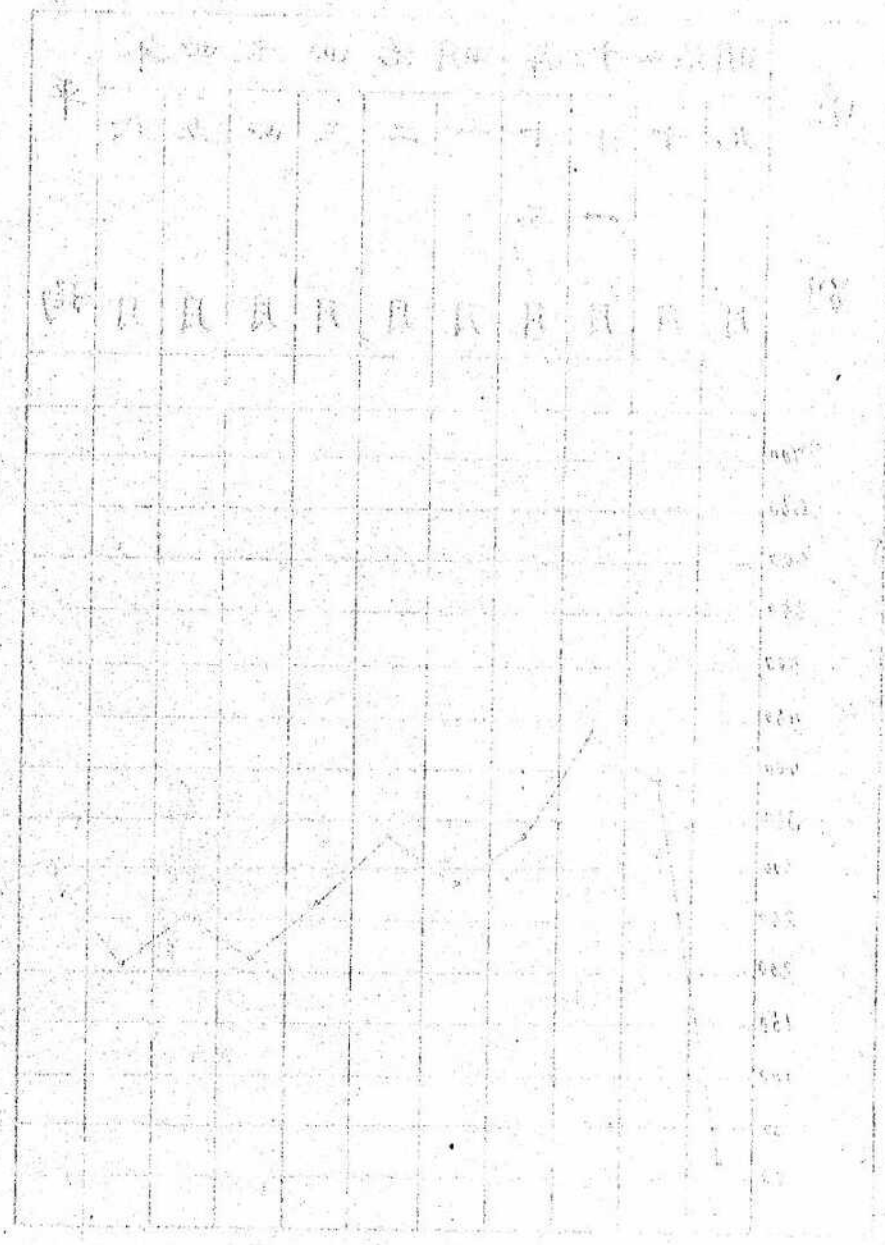
療道	療道	療道	療道	療道	療道	療道	療道	療道	療道	療道	療道	療道	內		地		人		鮮		人		合計	日平均	患者一 日平均 數		
													入	院	外	來	計	入	院	外	來	計				入	院
133	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
107	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	
1358	1356	199	199	199	199	199	199	199	199	199	199	199	199	199	199	199	199	199	199	199	199	199	199	199	199	199	199
994	967	173	173	173	173	173	173	173	173	173	173	173	173	173	173	173	173	173	173	173	173	173	173	173	173	173	173
1381	1368	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
1014	987	173	173	173	173	173	173	173	173	173	173	173	173	173	173	173	173	173	173	173	173	173	173	173	173	173	173
105	105	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
315	315	548	548	548	548	548	548	548	548	548	548	548	548	548	548	548	548	548	548	548	548	548	548	548	548	548	548
1054	1035	235	235	235	235	235	235	235	235	235	235	235	235	235	235	235	235	235	235	235	235	235	235	235	235	235	235
627	597	174	174	174	174	174	174	174	174	174	174	174	174	174	174	174	174	174	174	174	174	174	174	174	174	174	174
2067	2055	237	237	237	237	237	237	237	237	237	237	237	237	237	237	237	237	237	237	237	237	237	237	237	237	237	237
652	612	179	179	179	179	179	179	179	179	179	179	179	179	179	179	179	179	179	179	179	179	179	179	179	179	179	179
1202	1188	237	237	237	237	237	237	237	237	237	237	237	237	237	237	237	237	237	237	237	237	237	237	237	237	237	237
736	707	197	197	197	197	197	197	197	197	197	197	197	197	197	197	197	197	197	197	197	197	197	197	197	197	197	197
1202	1188	237	237	237	237	237	237	237	237	237	237	237	237	237	237	237	237	237	237	237	237	237	237	237	237	237	237

裏面白紙

黄海道慈惠醫院一日平均患者月別表



本館代誌第一號當立之表



自明治四十三年九月十九日
至明治四十四年六月三十日

總計	明治四十四年						明治四十三年				患者延入	内
	六月	五月	四月	三月	二月	一月	十二月	十一月	十月	九月		
計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計
療通	療通	療通	療通	療通	療通	療通	療通	療通	療通	療通	療通	療通
260	6 6	4 4	3 3	4 2	5 2	5 2	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	

黄
海
道
慈
恵

アジ
ア
Japan

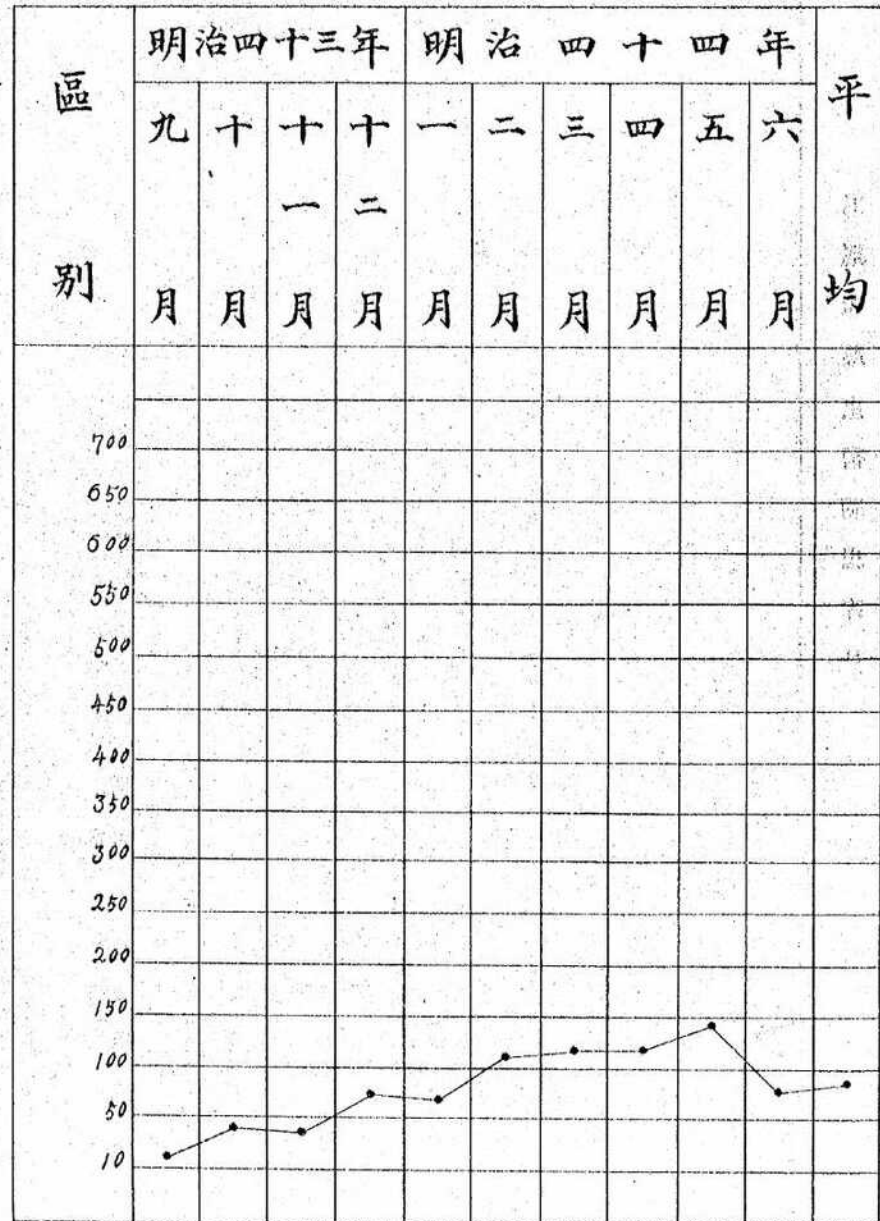
黄海道慈惠醫院患者月別表

自明治四十三年九月十九日
至明治四十四年六月三十日

線通	線通	線通	線通	線通	線通	線通	線通	線通	線通	線通	線通	内地		朝鮮		合計
												患者	延人員	患者	延人員	
二六六	六六	四四	三三	四二	三三	三三	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
二九二	七二	八五	二九	四八	六六	六〇	一八	一六	八	八	八	八	八	八	八	八
二四三	二五〇	二四九	一九四	二七二	二六九	二四四	二二八	二二六	二二二	二一九	二二四	九三	九三	二〇	二〇	二〇
二五九九	一八七	二〇七	二〇九	一九九	一九七	二四〇	一四〇	一三五	一三五	一三五	二二八	九〇	九〇	二〇	二〇	二〇
二四三	二五五	二二二	一九七	二七五	二七一	二二七	二二二	二一八	二一三	二一〇	二二四	九四	九三	二〇	二〇	二〇
二二六	二〇〇	二二二	二二二	二〇二	一九七	二五五	一四三	一三六	一三三	一二八	二二八	九四	九三	二〇	二〇	二〇
一九一	二八	三〇	三三	二九	二八	二六	二四	二四	二二	二一	二七	四	四	一	一	一
二八七	二七〇	三三	四四	四二	三九	三三	二八	二八	二二	二二	二二	四	四	一	一	一
五四九	五三六	五二	四七	六二	六〇	六〇	五五	五五	五〇	四九	六九	七五	七四	一〇	一〇	一〇
六六七	六二〇	五二	五二	六三	五九	七五	七二	七二	六八	六六	八二	一〇	一〇	一	一	一
五六八	六二〇	五七	四七	六五	六三	六六	五九	五九	五〇	四九	六四	七五	七四	一〇	一〇	一〇
六九六	六二〇	五二	五二	六三	五九	七五	七二	七二	六八	六六	八二	一〇	一〇	一	一	一
七二二	六二〇	五二	四七	六三	五九	七五	七二	七二	六八	六六	八二	一〇	一〇	一	一	一
八三三	六二〇	五二	四七	六三	五九	七五	七二	七二	六八	六六	八二	一〇	一〇	一	一	一
二五〇	二二八	二五二	二二八	二六七	二七二	二二四	二二八	二二八	二二四	二二〇	二二四	二七	二七	二〇	二〇	二〇
二九二	二八六	二五〇	二二八	二六七	二七二	二二四	二二八	二二八	二二四	二二〇	二二四	二七	二七	二〇	二〇	二〇
二二七	二七三	二九九	二〇四	二〇五	二〇五	二〇九	二二八	二二八	二二四	二二〇	二二四	二七	二七	二〇	二〇	二〇

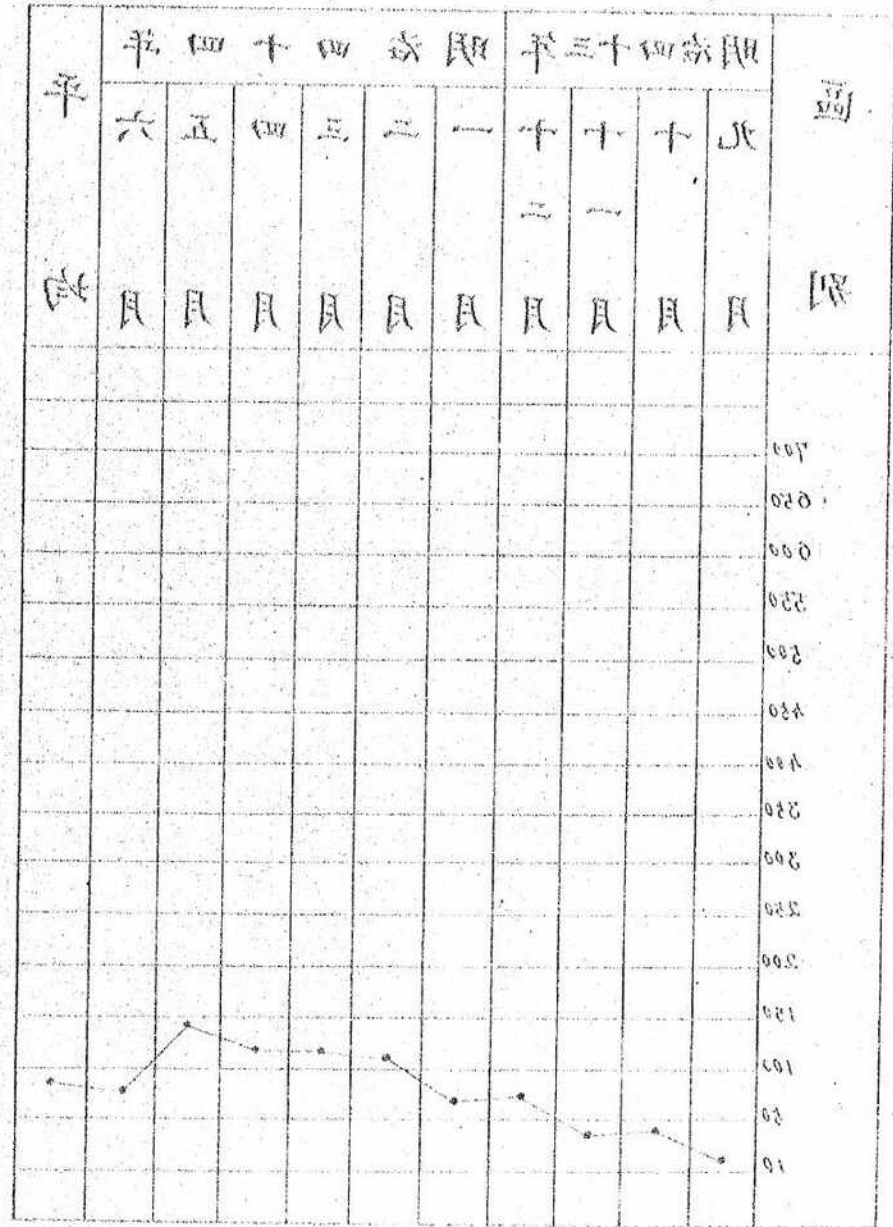
裏面白紙

江原道慈惠醫院一日平均患者月別表



江原道慈惠醫院患者日

表原日接患此平日一測醫惠慈原臥巧



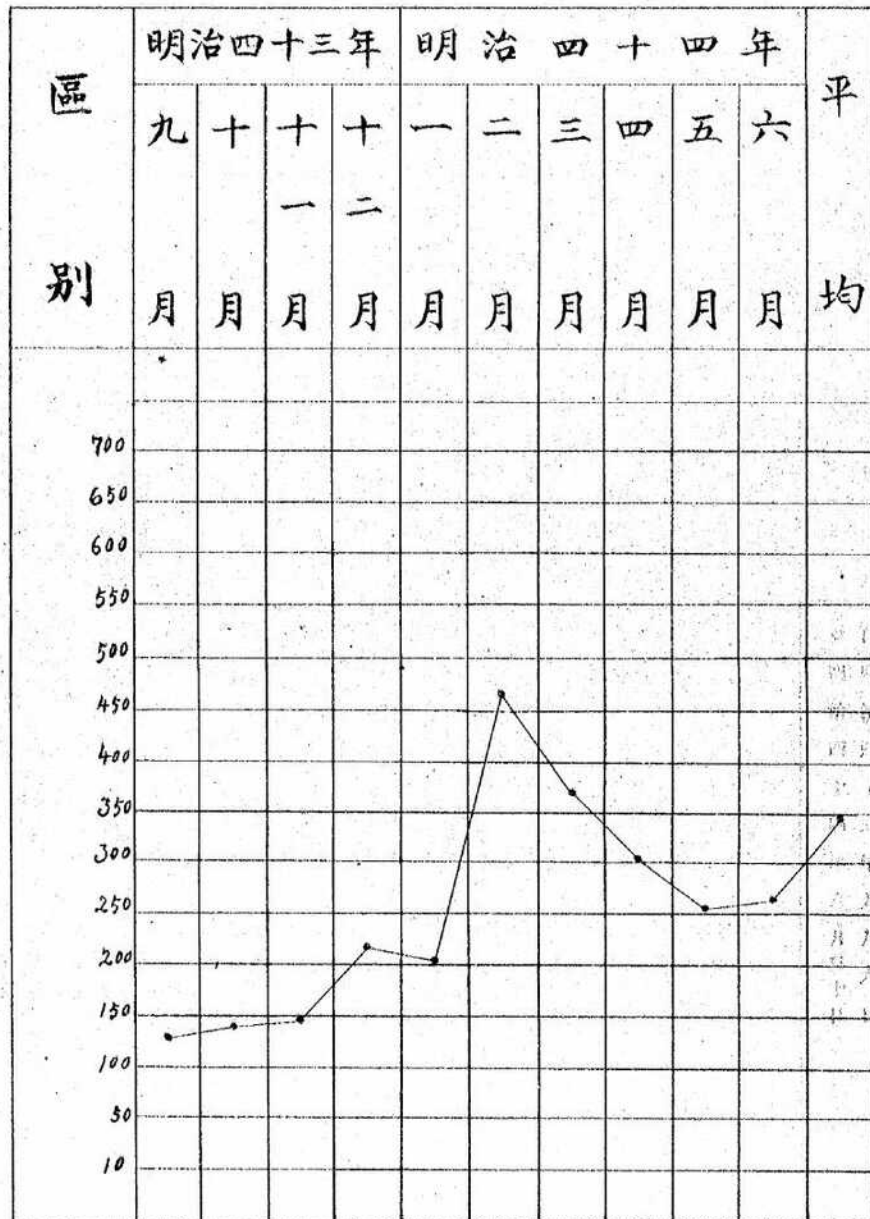
江原道慈惠醫院患者月別表

自明治四十三年九月
至明治四十四年六月

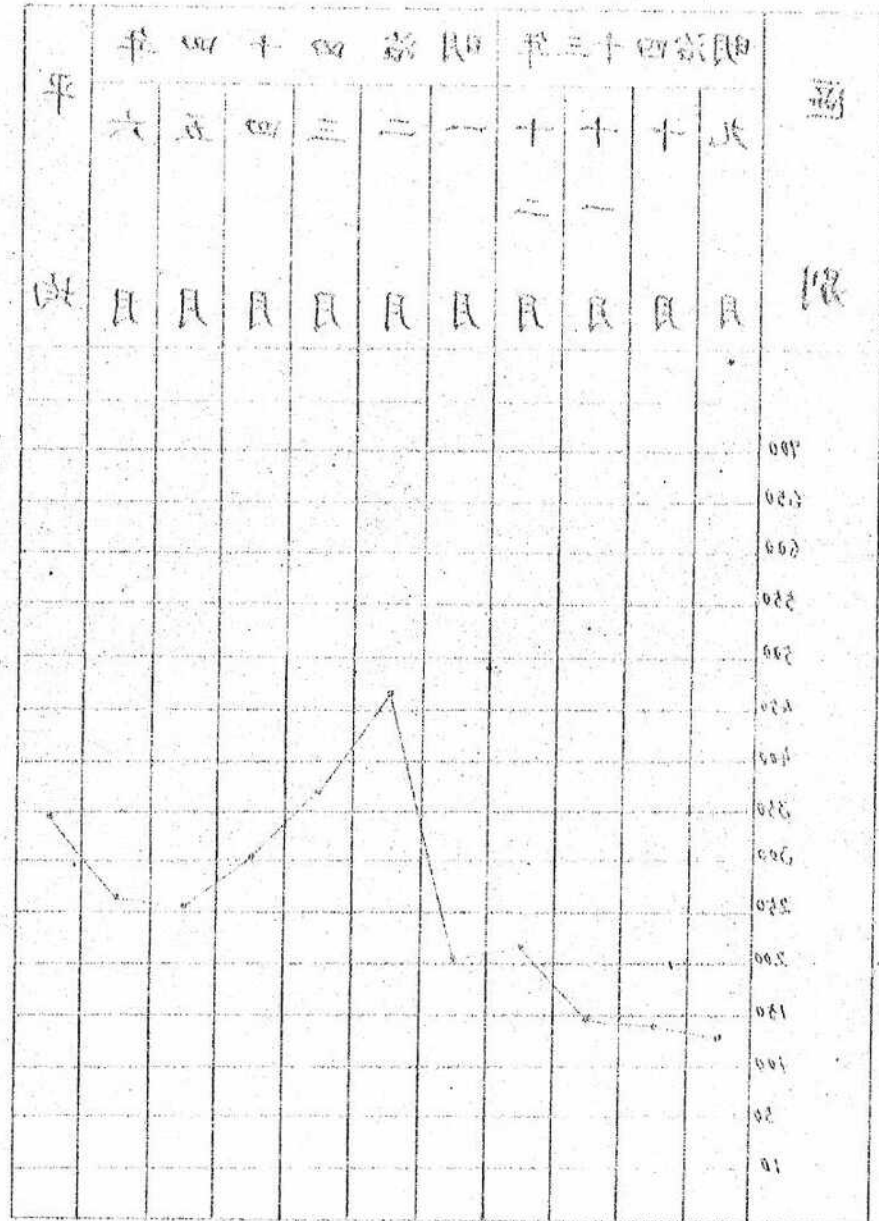
總計	明治四十三年						明治四十四年				內院	外地	朝鮮	合計
	六月	五月	四月	三月	二月	一月	十二月	十一月	十月	九月				
	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計				
患者											患者	患者	患者	患者
延人員											延人員	延人員	延人員	延人員
合計											合計	合計	合計	合計
患者											患者	患者	患者	患者
延人員											延人員	延人員	延人員	延人員
合計											合計	合計	合計	合計
患者											患者	患者	患者	患者
延人員											延人員	延人員	延人員	延人員
合計											合計	合計	合計	合計
患者											患者	患者	患者	患者
延人員											延人員	延人員	延人員	延人員
合計											合計	合計	合計	合計



平安南道慈惠醫院一日平均患者月別表



平南直隸州第一日平日與表限表



自明治四十三年九月六日
至明治四十四年六月三十日

總計	明治四十四年						明治四十三年				患者 延人員	入院
	六月	五月	四月	三月	二月	一月	十二月	十一月	十月	九月		
	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計		
一四九	四三六	二五二	二四七	二〇七	一七六	一三八	二三八	二二〇	二〇四	一七一	一六	
一七四	四五三	二五二	二四七	二〇七	一七六	一三八	二三八	二二〇	二〇四	一七一	一六	
三二四	八八九	五〇四	四九四	四一四	三五二	三二六	五六六	四二〇	四〇八	三三八	三二	

平安南道慈光



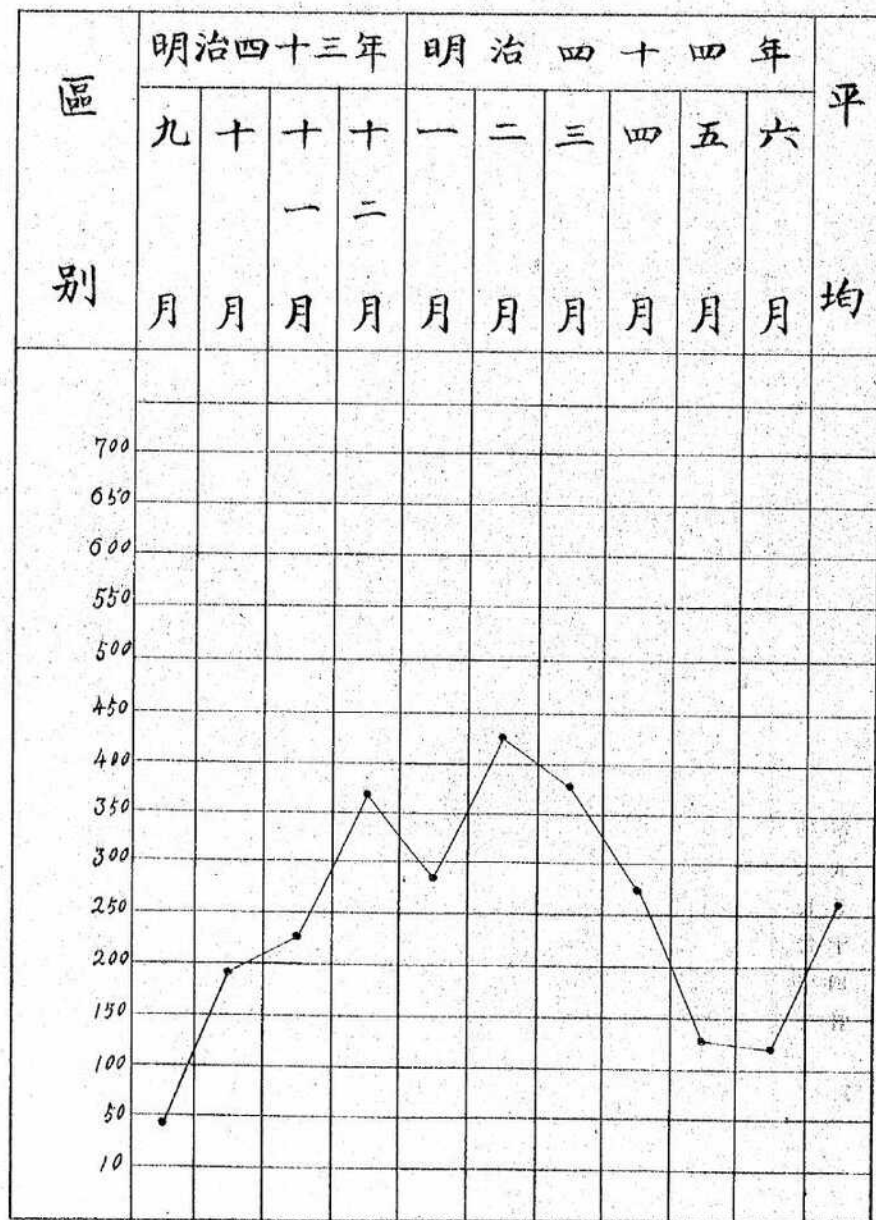
安南道慈惠醫院患者月別表

自明治四十三年九月六日
至明治四十四年六月三十日

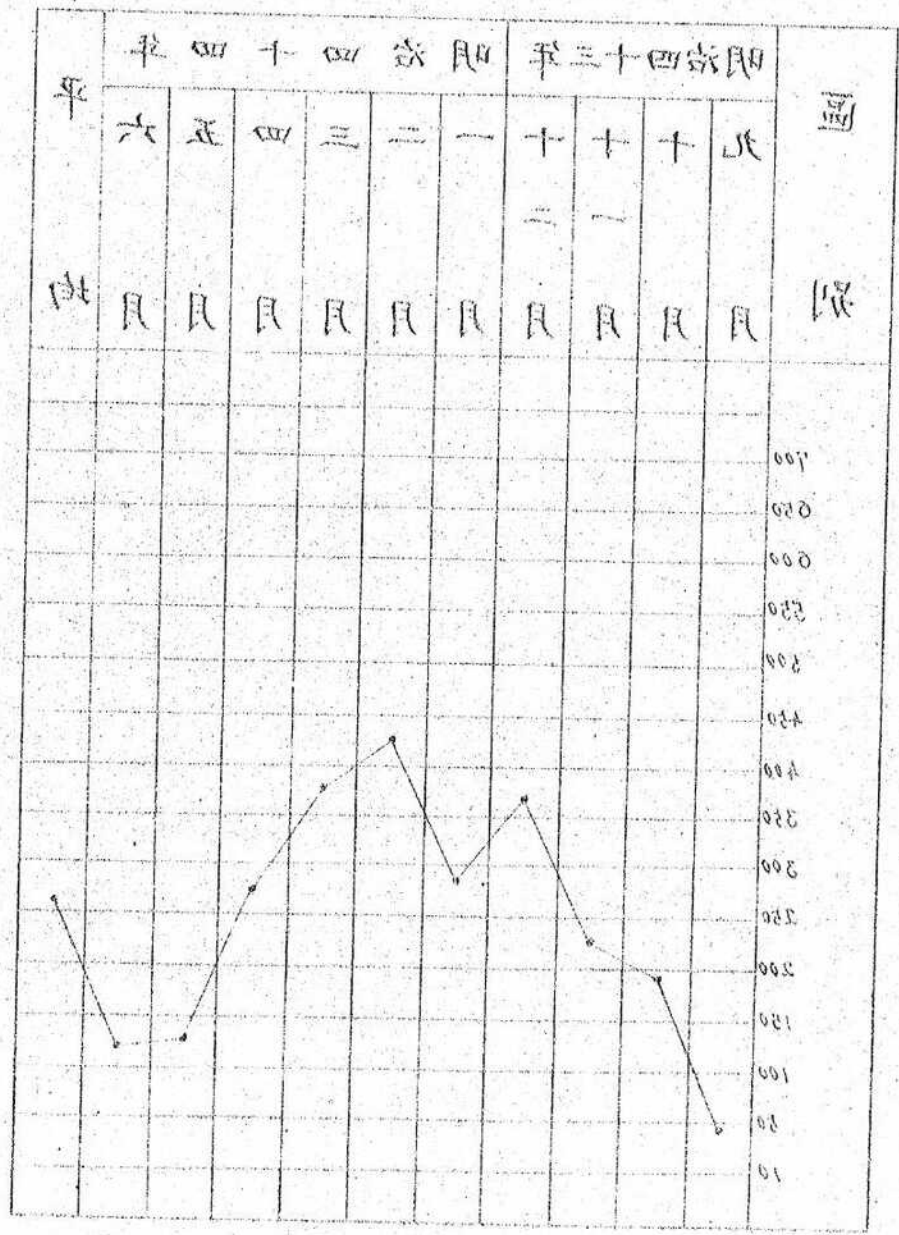
內地				外				朝鮮				合計				患者													
入	延	院	者	入	延	院	者	入	延	院	者	入	延	院	者	延	院	者	延	院	者	延	院	者	延	院	者		
一九三	二九二	二七四	二七	二二七	二二七	二二七	二二七	二二七	二二七	二二七	二二七	二二七	二二七	二二七	二二七	二二七	二二七	二二七	二二七	二二七	二二七	二二七	二二七	二二七	二二七	二二七	二二七	二二七	二二七
二七	二一六	一八七	二〇	二七	二一六	一八七	二〇	二七	二一六	一八七	二〇	二七	二一六	一八七	二〇	二七	二一六	一八七	二〇	二七	二一六	一八七	二〇	二七	二一六	一八七	二〇	二七	二一六
一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇

Photocopy of the document and other markings at the bottom right.

平安北道慈惠醫院一日平均患者月別表



平北平新營舊日平日法限



年九月十四日
年六月三十日

總計	明 治 十 四 年						明 治 十 三 年				入 院 者 延 者	地 内 院 外 延
	六 月	五 月	四 月	三 月	二 月	一 月	十 二 月	十 一 月	十 月	九 月		
	計 施 療	計 施 療	計 施 療	計 施 療	計 施 療	計 施 療	計 施 療	計 施 療	計 施 療	計 施 療		
八 一 八	六 一 六	三 一 三	一 一 一	一 一 一	一 一 一	一 一 一	一 一 一	一 一 一	一 一 一	一 一 一	一 一 一	一 一 一
七 一 七	五 一 五	三 一 三	一 一 一	一 一 一	一 一 一	一 一 一	一 一 一	一 一 一	一 一 一	一 一 一	一 一 一	一 一 一
九 〇 六	二 六 一	二 三 九	二 二 一	二 一 一	二 一 一	八 一 九	六 一 六	六 一 六	一 〇 三	一 〇 三	五 七 四	五 七 四

平安北道慈恵

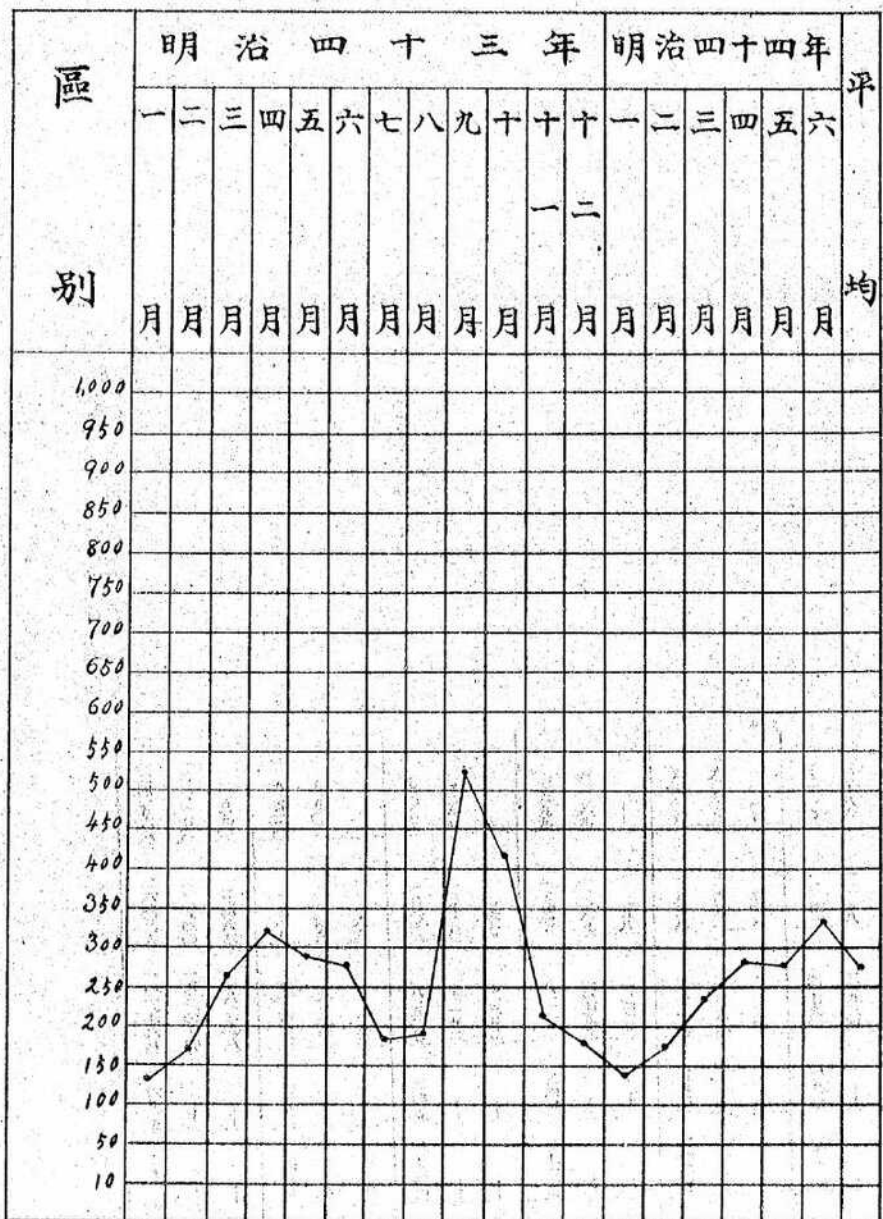
安北道慈惠醫院患者月別表

自明治四十三年九月十四日
至明治四十四年六月三十日

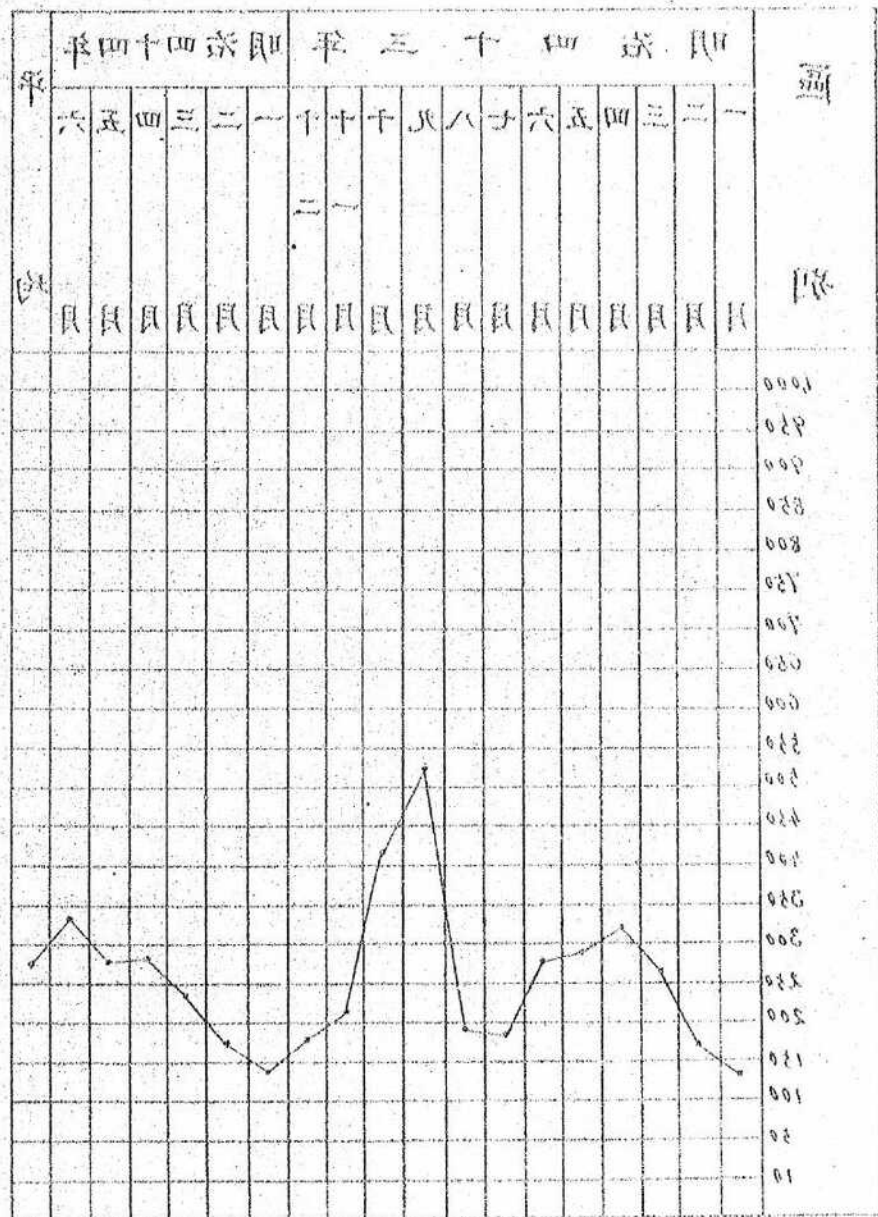
入	院		外		地		來		計		入	院		外		地		來		計		合	計	一日平均	患者一 日治療	
	患者	延人員	患者	延人員	患者	延人員	患者	延人員	患者	延人員		患者	延人員	患者	延人員	患者	延人員	患者	延人員	患者	延人員					
八	八	六	六	二	二																					
七	七	五	五	三	三																					
九〇二	八九五	二二六	二二六	二二九	二二九																					
八六〇	八六〇	一〇〇	一〇〇	九八九	九八九																					
九〇九	九〇三	一三三	一三三	一四二	一四二																					
八七五	八六七	一〇六	一〇六	一〇一	一〇一																					
一三五	一三五	五	五	一	一																					
一七〇	一七〇	五三	五三	八	八																					
五六八	五五三	三七二	三七二	三九八	三九七																					
六三〇	六二九	二七四	二七四	二八〇	二七七																					
五八三	五六九	三七七	三七七	三九九	三九七																					
六四七	六三六	二七九	二七九	三二二	三二二																					
六七四	五七〇	五〇九	五〇九	五四〇	五三九																					
七三五	六三三	三八五	三八五	四三三	四三三																					
二二二		一七	一七	二九	二九																					
二五五		二八	二八	三六	三六																					
一一〇		七	七	九	九																					

裏面白紙

咸鏡南道慈惠醫院一日平均患者月別表



泰原日表世平日一測響應與南海海



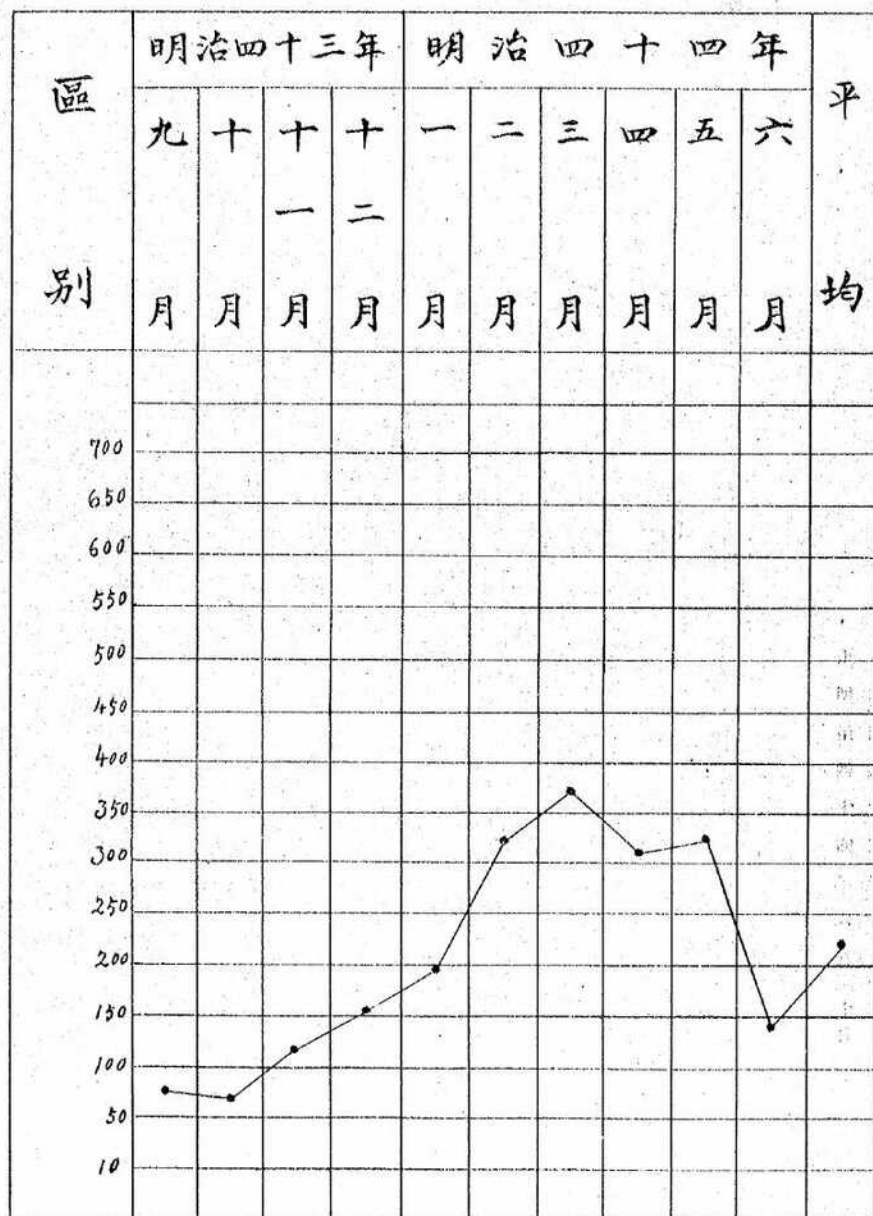
二四五六六	二二二七六	二二二九〇	九五二四	九五〇三	二	七〇七二	七〇六四	八	六六九九	六六九九	一	六三三六	六三〇九	一七	三九〇〇	三八八六	二四
二六〇二六	二三五四〇	二四八八六	二二三八	二二四九	一六九	一七〇三	二五三六	一六七	二九二七	一六九九	二五八	一八三六	一六三三	三〇六	二二六一	二二二八	一四三
二四二七六八	二二二〇七〇	一八六八八	一〇四二六	九五五三	八三三	八五〇七	七二五三	一三五五	八二七三	六七五九	一四二三	七五二九	六三六九	二二五〇	四七〇〇	三九三四	八五六
四七五			七七三			五四九			六四三			五九三			四五〇		
二七二五			三四七三			二七四四			二七二四			二四二五			二七二二		
五四			四五			五〇			四二			四二			三七		

威鏡南道慈惠醫院

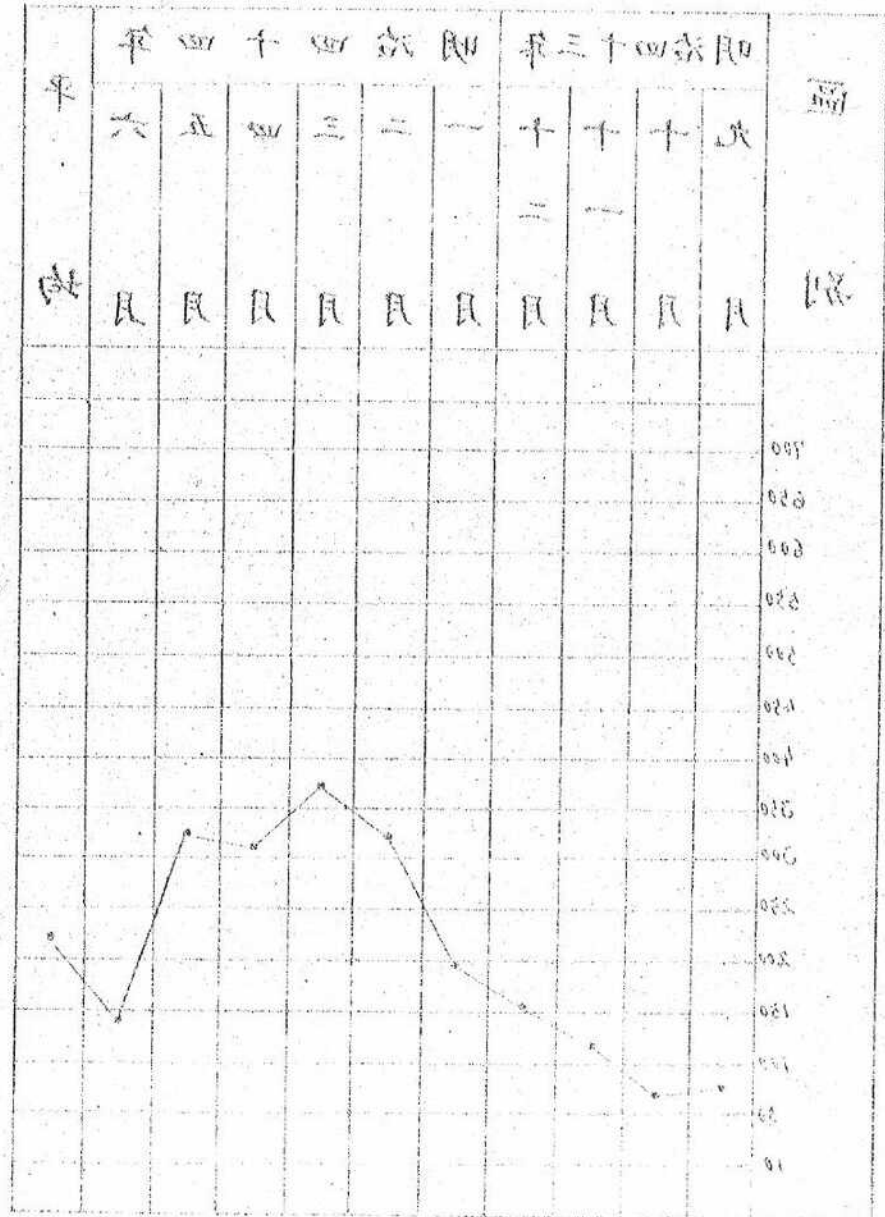
總計	年 四 十 四 治 明						年 三 十 四 治 明						內 院 外					
	六 月	五 月	四 月	三 月	二 月	一 月	十二 月	十一 月	十 月	九 月	八 月	七 月		六 月	五 月	四 月	三 月	二 月
計 施 療	計 施 療	計 施 療	計 施 療	計 施 療	計 施 療	計 施 療	計 施 療	計 施 療	計 施 療	計 施 療	計 施 療	計 施 療	計 施 療	計 施 療	計 施 療	計 施 療	計 施 療	計 施 療
支 費	支 費	支 費	支 費	支 費	支 費	支 費	支 費	支 費	支 費	支 費	支 費	支 費	支 費	支 費	支 費	支 費	支 費	支 費
七 百 七 十 三	一 百 一 十 六	二 百 一 十 六	三 百 一 十 六	三 百 一 十 六	三 百 一 十 六	三 百 一 十 六	三 百 一 十 六	三 百 一 十 六	三 百 一 十 六	三 百 一 十 六	三 百 一 十 六	三 百 一 十 六	三 百 一 十 六	三 百 一 十 六	三 百 一 十 六	三 百 一 十 六	三 百 一 十 六	三 百 一 十 六



咸鏡北道慈惠醫院一日平均患者月別表



表四日一週常態並其變



自明治四十三年九月十三日
至明治四十四年六月三十日

總計	明治四十四年						明治四十三年				患者 延人員	入院	内
	六月	五月	四月	三月	二月	一月	十二月	十一月	十月	九月			
	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計			
五 四	四 三	七 四	八 五	五 三	七 四	二 〇	四 一	二 一	二 一	二 一			
八 七	八 六	七 六	二 六	一 〇	一 九	二 四	八 九	五 五	五 五	二 一			

威鏡北道慈



威鏡北道慈惠醫院患者月別表

自明治四十三年九月十三日
至明治四十四年六月三十日

療通	療通	療通	療通	療通	療通	療通	療通	療通	療通	療通	療通	內地		朝鮮		合計	合計	一日平均	患者一 日平均 數	
												患者	延人員	患者	延人員					
五 四	二 八	三 六	四 二	三 二	七 四	三 八	五 三	二 二	七 四	三 七	七 三	四 一	三 二	二 一	二 一	二 一	二 一	二 一	二 一	二 一
八 七	五 九	二 八	八 八	六 〇	二 八	七 八	一 六	二 四	二 一	二 六	二 五	一 〇	二 二	一 〇	二 二	一 〇	二 二	一 〇	二 二	一 〇
八 六	二 九	八 五	一 三	一 三	七 三	一 六	七 三	一 三	一 〇	一 九	一 〇	二 九	四 二	二 二	二 五	一 〇	二 二	一 〇	二 二	一 〇
七 四	七 四	七 四	五 六	一 三	三 四	三 四	三 四	一 三	一 三	一 三	一 三	一 三	一 三	一 三	一 三	一 三	一 三	一 三	一 三	一 三
九 三	五 七	八 六	二 三	二 三	八 〇	四 四	七 六	二 〇	二 〇	二 〇	二 〇	二 〇	二 〇	二 〇	二 〇	二 〇	二 〇	二 〇	二 〇	二 〇
八 三	九 〇	七 四	六 五	六 〇	四 二	六 二	三 六	一 三	一 三	一 三	一 三	一 三	一 三	一 三	一 三	一 三	一 三	一 三	一 三	一 三
三 〇	二 九	一 一	一 八	一 八	二 九	二 九	三 三	三 三	三 三	三 三	三 三	三 三	三 三	三 三	三 三	三 三	三 三	三 三	三 三	三 三
四 〇	四 〇	四 〇	四 〇	四 〇	四 〇	四 〇	四 〇	四 〇	四 〇	四 〇	四 〇	四 〇	四 〇	四 〇	四 〇	四 〇	四 〇	四 〇	四 〇	四 〇
四 五	四 五	四 五	五 三	五 三	七 九	七 九	四 四	四 四	四 四	四 四	四 四	四 四	四 四	四 四	四 四	四 四	四 四	四 四	四 四	四 四
四 九	四 八	三 三	三 二	三 二	九 二	九 二	七 〇	七 〇	七 〇	七 〇	七 〇	七 〇	七 〇	七 〇	七 〇	七 〇	七 〇	七 〇	七 〇	七 〇
四 七	四 六	四 六	五 五	五 五	八 二	八 二	四 九	四 九	四 九	四 九	四 九	四 九	四 九	四 九	四 九	四 九	四 九	四 九	四 九	四 九
五 三	五 三	五 三	三 六	三 六	九 七	九 七	七 七	七 七	七 七	七 七	七 七	七 七	七 七	七 七	七 七	七 七	七 七	七 七	七 七	七 七
五 七	五 七	五 七	六 九	六 九	九 〇	九 〇	六 一	六 一	六 一	六 一	六 一	六 一	六 一	六 一	六 一	六 一	六 一	六 一	六 一	六 一
六 一	六 一	六 一	四 三	四 三	一 〇	一 〇	九 二	九 二	九 二	九 二	九 二	九 二	九 二	九 二	九 二	九 二	九 二	九 二	九 二	九 二
一 九	一 九	一 九	二 三	二 三	二 九	二 九	二 〇	二 〇	二 〇	二 〇	二 〇	二 〇	二 〇	二 〇	二 〇	二 〇	二 〇	二 〇	二 〇	二 〇
三 二	三 二	三 二	一 四	一 四	三 七	三 七	三 三	三 三	三 三	三 三	三 三	三 三	三 三	三 三	三 三	三 三	三 三	三 三	三 三	三 三
一 〇	一 〇	一 〇	六 三	六 三	一 一	一 一	一 四	一 四	一 四	一 四	一 四	一 四	一 四	一 四	一 四	一 四	一 四	一 四	一 四	一 四

裏面白紙

血液疾病		新陳代謝病		癩		脚氣		膿毒症敗血病		破傷風		丹毒		格魯布性肺炎		麻疹		麻刺里亞		再歸熱		ハスト		實布的里亞		猩紅熱		發疹蠻扶私		痘瘡		腸鼠扶私		赤痢		虎列刺		區別	
計	朝鮮人	內地人	計	朝鮮人	內地人	計	朝鮮人	內地人	計	朝鮮人	內地人	計	朝鮮人	內地人	計	朝鮮人	內地人	計	朝鮮人	內地人	計	朝鮮人	內地人	計	朝鮮人	內地人	計	朝鮮人	內地人	計	朝鮮人	內地人	計	朝鮮人	內地人	計	朝鮮人		內地人
二五	二五	二三	二四	九五	二五	二二	二二	二二	一一	一一	一一	六三	六三	六三	六一	六一	六一	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	九五	九四	九四	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	朝鮮總督府
三三	三三	三八	二二	六五	二二	二二	二二	二二	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	四四	四四	四四	四四	四四	四四	八二	八二	八二	五五	五五	五五	五五	五五	五五	五五	五五	五五	五五	五五	五五	東京醫科大學
三三	三三	三一	二二	二二	二二	二二	二二	二二	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	二〇	二八	二八	二八	二八	二八	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	慈惠醫院
三三	三三	三一	二二	二二	二二	二二	二二	二二	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	七	七	七	七	七	七	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	慈惠清野醫院
一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	慈惠清野醫院
一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	慈惠清野醫院
一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	慈惠清野醫院
一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	慈惠清野醫院
一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	慈惠清野醫院
一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	慈惠清野醫院

患者病類別

病	柳							泌尿生殖器疾病	及					消化器					行								
	計	内地人	朝鮮人	第三期微毒	第二期微毒	第一期微毒	癩毒		計	其他	肝口蟲	蛔蟲	蟻	十二指腸蟲	痔疾	脱肛	肝脾腹膜病	食道胃腸病	口腔齒牙病	計	淋病	淋病	血管病				
計	朝鮮人	内地人	計	朝鮮人	内地人	計	朝鮮人	内地人	計	朝鮮人	内地人	計	朝鮮人	内地人	計	朝鮮人	内地人	計	朝鮮人	内地人	計	朝鮮人	内地人	計	朝鮮人	内地人	
六六六	二九八	三三八	六七	四三	二四	二五	五一	一〇三	二八	七二	一〇七	二六	二八	八八	一七	二七	八八	一七	二七	八八	一七	二七	八八	一七	二七	八八	一七
一五三	八五	六七	三	二〇	二	三七	二七	二〇	五〇	二四	二六	二八	二二	二七	二五	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二
一九三	一五九	一四	一五	三三	三	一〇	八五	一六	一	一	一	八	五	三	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
七九	六二	一八	一九	一六	三	六	三〇	六	二	一	一	二〇	四	六	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
三六	二八五	三	六三	五六	六	六九	六〇	九	八	六	二	二四	二	三	一五	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	
八〇	五	二九	五	三〇	三	二八	一四	一四	一	一	一	六	一	六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
三七	二九八	七四	六〇	四七	一三	一五	二二	四〇	六	六	一	二六	二〇	六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
九九	五三	四六	四八	二八	三〇	三三	五	八	一	一	一	八	一	七	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
四八	四四	四	九	九	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	

外					運 動 器 病	病					喉			眼			柳						
咬 整 傷	捻 挫、打撲脱臼	骨 傷	軟 部 損 傷	神 經 系 内 臟 損 傷		計	其 ノ 他	蜂 窩 織 炎	癰、 癤、 瘰 癧	皮 膚 病	計	計	鼻、 咽 喉 疾 患	耳 病	計	其 ノ 他	膿 漏 性 結 膜 炎	顆 粒 性 結 膜 炎	計	第 三 期 微 毒	第 二 期 微 毒	第 一 期 微 毒	
計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	
朝鮮 人	内地 人	朝鮮 人	内地 人	朝鮮 人	朝鮮 人	内地 人	朝鮮 人	内地 人	朝鮮 人	内地 人	朝鮮 人	内地 人	朝鮮 人	内地 人	朝鮮 人	内地 人	朝鮮 人	内地 人	朝鮮 人	内地 人	朝鮮 人	内地 人	朝鮮 人
六四	一七	四七	一四九	九三	五七	五三	三〇	二二	三三	二〇	三三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二五	四	二二	一四九	九三	五七	五三	三〇	二二	三三	二〇	三三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一〇	九	一	一六二	一五二	一〇	八	八	一	八九	七九	二〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
六	四	二	七三	六八	四	一	一	一	一五	一〇	五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一三	二	三	二二六	二二八	八	二五	二五	一	二〇	一八	一五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
七	五	三	五九	五三	六	七	六	一	一九	一三	六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
九	八	二	一四七	一四〇	七	二七	二四	三	二四	二〇	二二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三	一	二	四七	四三	四	四	四	一	六	六	六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一〇	五	五	二一九	一九四	三五	二二	二二	一	四五	四二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

合 計	毒			形			腫				傷							外		
	計	其 ノ 他	鴉 片 中 毒	計	後 天 性 畸 形	先 天 性 畸 形	計	腫			良 性 腫 瘍	計	其 ノ 他	凍 傷	火 傷	咬 傷	捻 挫、 打 撲 脱 臼	骨 傷	軟 部 損 傷	神 經 系 内 臟 損 傷
								其 ノ 他	肉 腫	惡 瘍										
八四七五	六	六	六	三	二	一	一八六	二二	七五	二五	一三	二二	三三	二一	二二	三三	一三	三三	三三	一
四八六二	一	一	一	一	一	一	一〇〇	四〇	六〇	二八	二二	二五	二	一	一	一	一	一	一	一
四六四四	一	一	一	一	一	一	一〇〇	四〇	六〇	二八	二二	二五	二	一	一	一	一	一	一	一
五〇九九	三	三	三	四	四	一	三三	二八	五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二七五九	五	五	五	三	三	一	五	五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
七三三四	一八	一六	二	五	五	一	四六	四六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二四二五	三	三	三	三	三	一	二七	二六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
七八二四	六	五	一	二	二	一	二二	二〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二八七二	四	三	一	四	四	一	四	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
四三二五	一六	一四	二	一	一	一	二	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四	一五	一六	一七	一八	一九	二〇	二一	二二	二三	二四	二五	二六	二七	二八	二九	三〇	三一	三二	三三	三四	三五	三六	三七	三八	三九	四〇	四一	四二	四三	四四	四五	四六	四七	四八	四九	五〇	五一	五二	五三	五四	五五	五六	五七	五八	五九	六〇	六一	六二	六三	六四	六五	六六	六七	六八	六九	七〇	七一	七二	七三	七四	七五	七六	七七	七八	七九	八〇	八一	八二	八三	八四	八五	八六	八七	八八	八九	九〇	九一	九二	九三	九四	九五	九六	九七	九八	九九	一〇〇
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

第四章 醫院ノ經理

第一節 院舎

朝鮮總督府醫院ハ中央ニ於ケル醫療機關トシテ模範的設備ヲ施スヘキ方針ヲ以テ設計セシモノナルカ故ニ院舎ノ構造及各般ノ設備殆ト完全セリ茲惠醫院ハ開設當時特ニ急ヲ要シタルト經費ノ節約ヲ期シタルトニ依リ完全ナル設備ヲ整フル暇ナク慶尙北道平安南道ノ二箇所ハ元ト同仁醫院ノ敷地建物ヲ買收シテ之ヲ費用セシカ故ニ稍見ルニ足ルト雖他ノ地方ニ在テハ在來建物ヲ利用シテ改修増築ヲ加ヘタルモノナルヲ以テ多クハ其ノ規模狹隘ニシテ建築亦不完全タルヲ免カレス各院々舎ノ概況左ノ如シ

一 朝鮮總督府醫院

位置ハ土地高燥ニシテ敷地三萬坪ヲ有シ其ノ北西方ハ樹木鬱蒼タリ建物ノ大部分ハ煉瓦造ニシテ既設ノモノ二千九百坪建築中ノモノ三百八十坪ナリ其ノ詳細ハ左記及別紙圖面ノ如シ

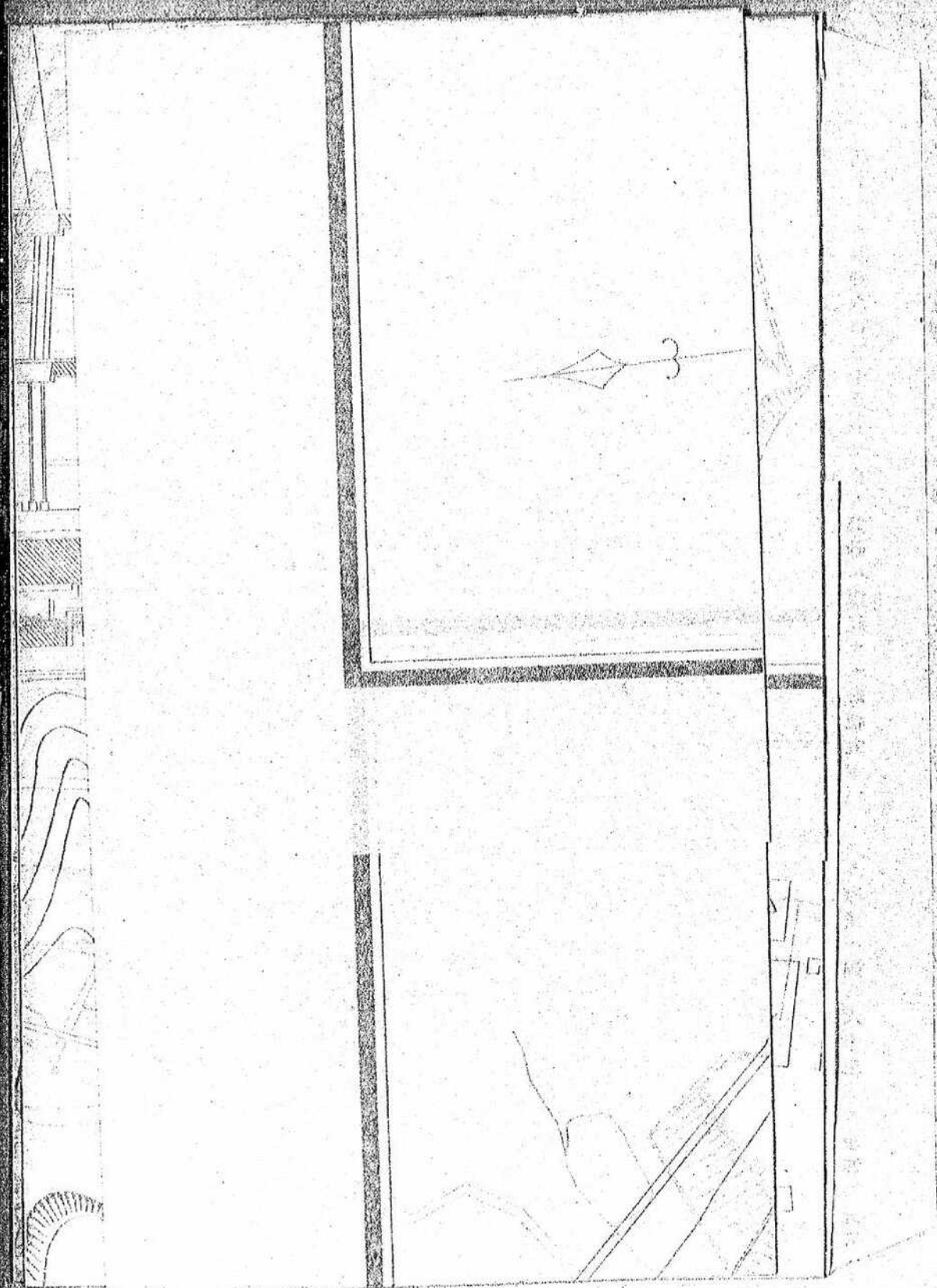
一本館 二階建煉瓦造ニシテ建坪階下二百九坪餘階上八百八十二坪餘アリ階下ハ各科診察室、手術室、調劑室等ニ分テ階上ハ院長室、應接室、診察室、細菌室、宿直室、圖書室、職員室及食堂等ニ分ル
其ノ他目下建築中ノモノ本館ニ連接シテ東側ニ診察室、病理研究室、西側ニ手術室、臨床講義室及X光線室アリ此ノ建坪百六十一坪餘ナリ

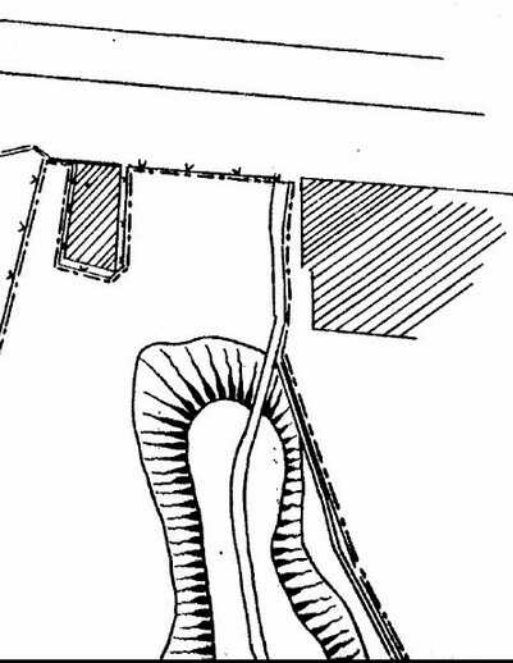
一病室 平家煉瓦造九棟總坪數五百十九坪餘收容患者定員八百三十六人トス而シテ其ノ内一棟ハ七十坪餘ニシテ他ハ何レモ五十五坪餘ナリ室ハ數室ニ區劃セルモノト一棟一室ノモノトアリ
其ノ外目下建築中ノ病室二棟アリ一ハ普通病室ニシテ坪數五十五坪餘他ハ傳染病室ニシテ建坪六十坪餘ナリ收容定員ハ通シテ三十二人トス

- 一 代用病室 木造平家建三棟、溫突家屋四棟、總坪數二百七十六坪餘アリ、此ノ收容定員ハ八十七人ニシテ、施療患者ノ病室ニ充ツ
 - 一 發電所 木造平家建ニシテ十五坪アリ、發電機ヲ備ヘ、院內電燈用電流ヲ發セシム
 - 一 炊事場及汽罐場 木造平家建ニシテ百三十六坪餘アリ、炊事場ハ患者其ノ他ノ食物ヲ調理シ、汽罐場ハ汽罐ニ臺ヲ据ヘ、附ケ院內ニ蒸汽ヲ供給ス
 - 一 綑帶再製場 木造平家建ニシテ十八坪アリ、再用ノ爲綑帶布ノ消毒洗滌及手術衣、看護衣、病衣等ノ消毒及洗濯所ニ使用ス
 - 一 倉庫 木造平家建三棟アリ、總建坪六十五坪、煉瓦造石油庫一棟アリ、坪數一坪半ナリ
 - 一 附屬醫學講習所 二階建木造ニシテ建坪百九十一坪餘アリ、階上ヲ教室、理化學室、標本室、圖書室ニ、階下ニ豫診室、職員室、施療患者診察室、藥劑室及庶務課事務室ニ充用ス
 - 一 解剖室 木造平家建建坪二十四坪ナリ
 - 一 看護婦寄宿舍 現在ノ寄宿舍ハ木造平家建五棟ニシテ總建坪九十二坪ナリ、尙目下建築中ノモノ一棟アリ、木造平家建ニシテ建坪百一坪餘ナリ
 - 一 屍室 木造平家建ニシテ建坪十五坪アリ
 - 一 車夫控室、車置場、便所 木造ニシテ總建坪十六坪ナリ
- 前記ノ外、尙構內ニ舊永祿殿ノ建物アリ、棟數十二、總建坪三百三十坪アリ、助産婦生徒寄宿舍及其ノ教室ニ充當ス

二、京畿道慈惠醫院

位置ハ水原邑內高燥ノ地ニ在リ、元觀察道廳舍ヲ裝用シ、之ニ修理改築ヲ施シタルモノニシテ、敷地二千二

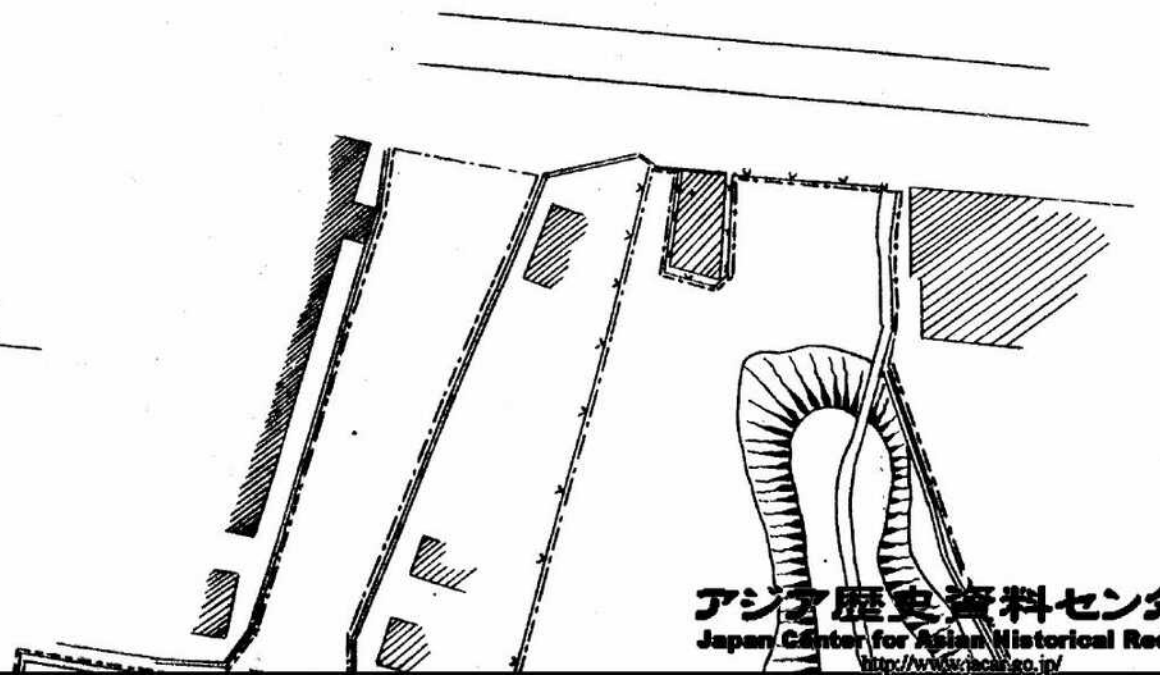
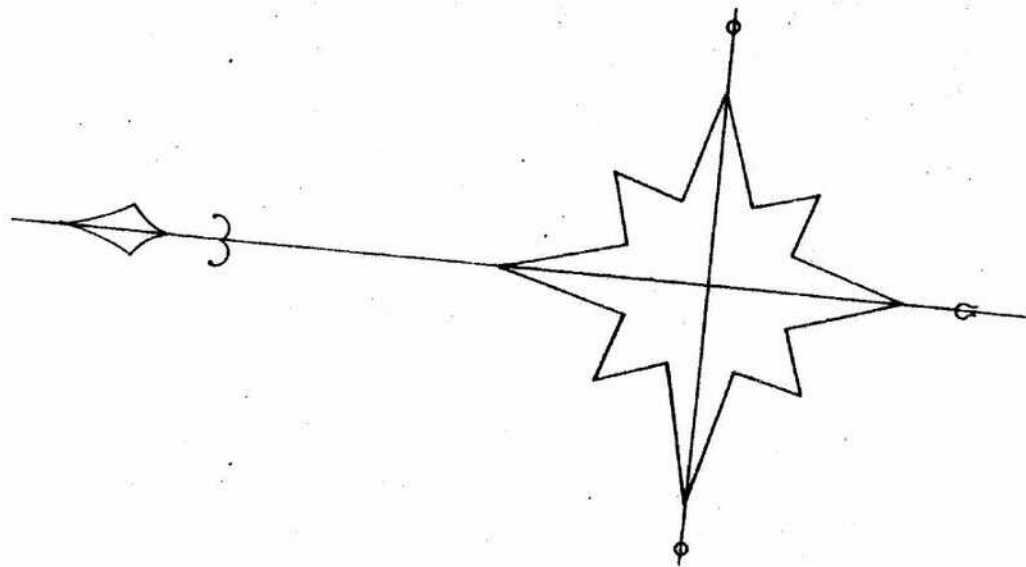




ウナネ夕ヨ ツソレカワヲルヌリチトハホニハロイ

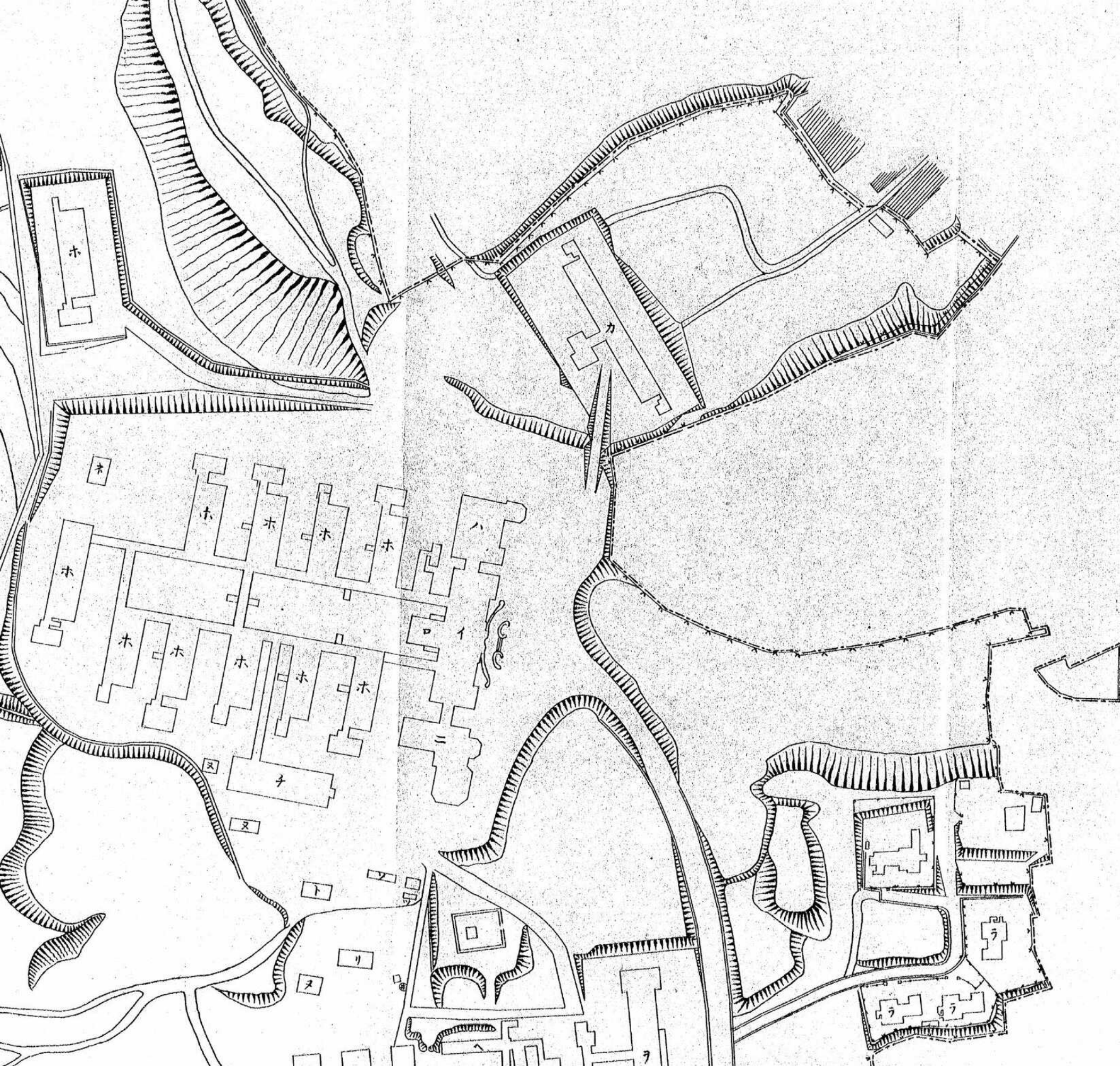
本館
 採掘探
 診察室及病理研究室
 手術室、暗床講義室及X光線室
 病室
 代用病室
 發電所
 炊事場及汽罐場
 洗濯所
 倉庫
 代用倉庫
 附屬講習所
 解剖室
 看護婦寄宿舎
 屍室
 車置場
 便所
 之レハ舊米永禧殿ト稱ス
 看護婦助産婦生徒寄宿舎
 看護婦助産婦生徒教室
 消毒所
 特別病室
 官舎

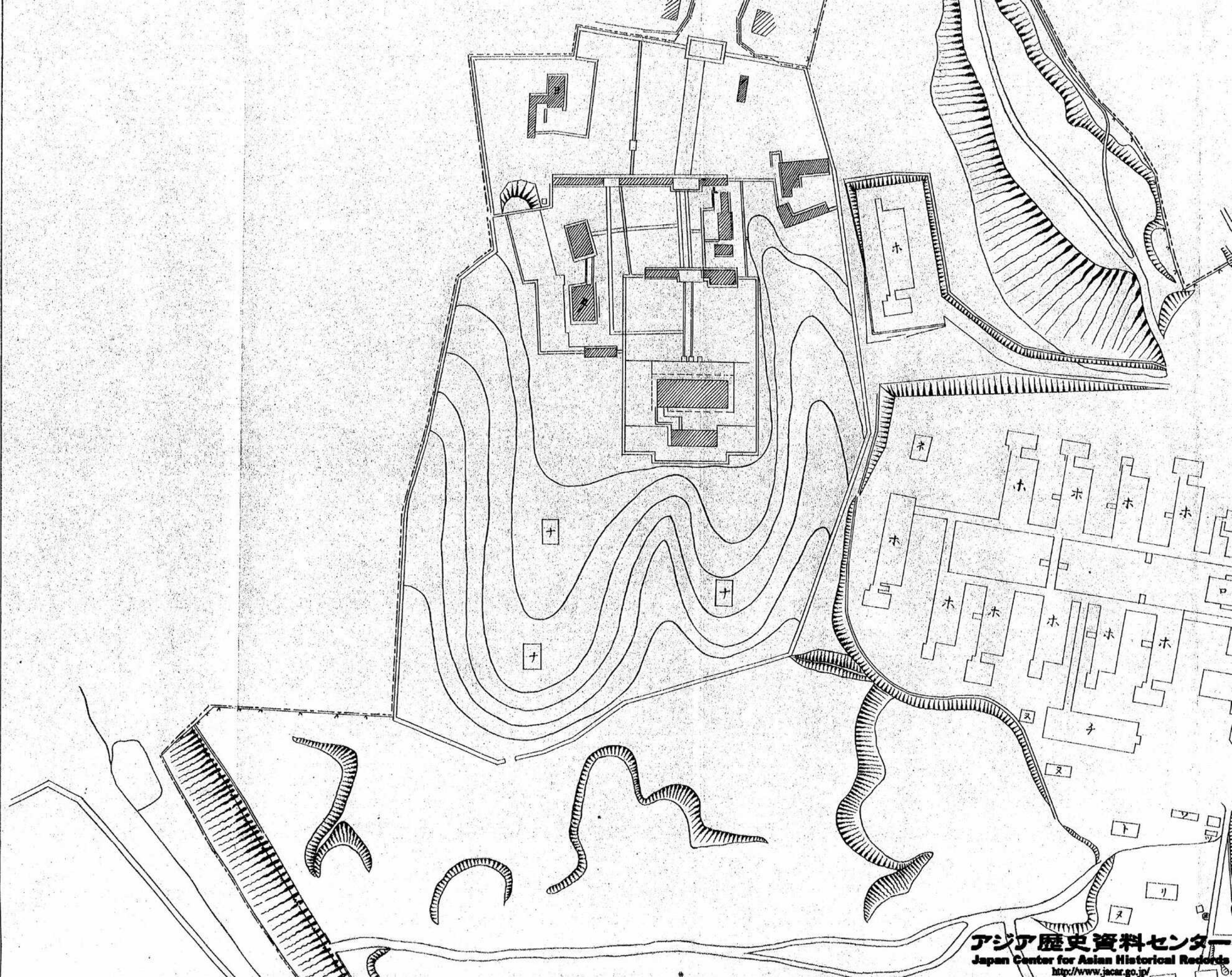
朝鮮

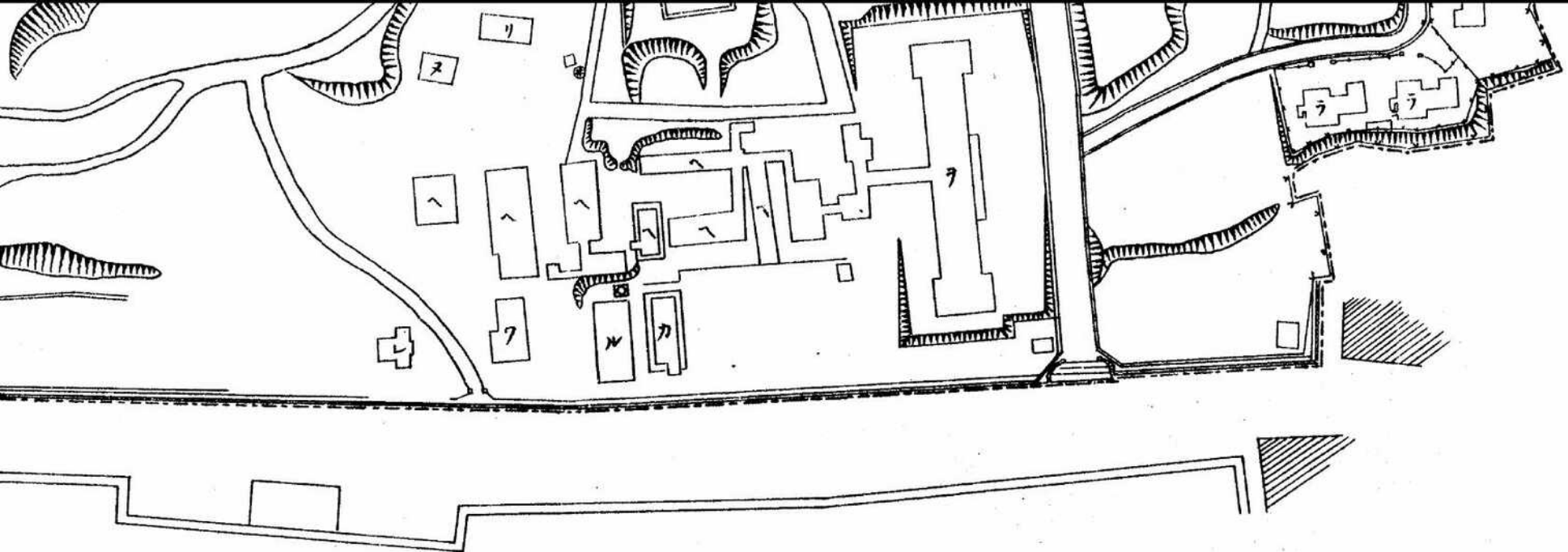


總督府醫院平面圖

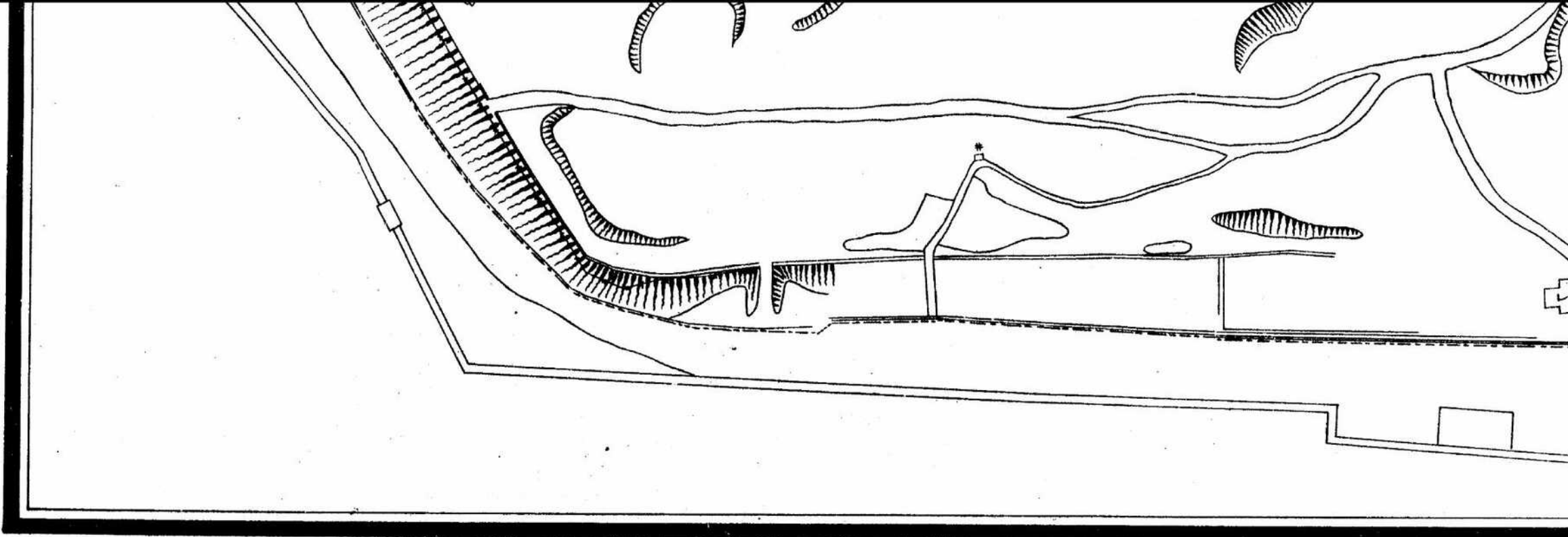
縮尺千二百分之一







裏面白紙



普濟醫院 新築 平面圖

總入千二百分ム一



八十一坪建物六百三十九坪ヲ有ス建物ハ宏壯ナル朝鮮式家屋ニシテ病室ハ優ニ六十三人ノ患者ヲ收容スルニ足ル敷地廣クシテ樹木ニ富ミ好箇ノ病院ナリ

三 忠清北道慈惠醫院

現在ノ院舎ハ元郡守官舎ニ充用シタル朝鮮式家屋ニ修理改造ヲ加ヘ更ニ必要ナル増築ヲ施シタルモノナリト雖規模狭小敷地二百七十五坪建物五十六坪五合ニシテ病室ハ僅ニ二十坪ニ過キサレ故ニ患者收容及診療上支障多キヲ以テ別ニ邑内高燥ノ地二千餘坪ヲ相シ目下本館新築中ニ屬ス本館ハ患者控室、診察室、手術室、藥室、試驗室、事務室、宿直室及倉庫等ニ分テリ竣工ノ上ハ現在ノ院舎ハ全部病室ニ改造スヘキ計畫ナリ

四 忠清南道慈惠醫院

位置ハ公州邑内ニ在リ建物ハ不用ニ雖シタル廳舎ニ修理増築ヲ加ヘタルモノニシテ敷地四百九十二坪、建物百九坪ヲ有シ病室ハ三十八人ノ患者ヲ收容スルニ足ルト雖入院セシムヘキ患者多數ニシテ常ニ病室ノ狹隘ヲ告グルノミナラス手術室、診察室、試驗室、藥室等不完全ナルヲ以テ診療上不便ヲ感シ目下本館ノ新築中ニ屬シ落成ノ上ハ現在ノ建物全部ヲ病室ニ充用スヘキ計畫ナリ

五 全羅北道慈惠醫院

現在ノ院舎ハ舊郡守官舎ヲ基礎トシ之ト接續セル民屋ヲ買收シ應急ノ修理改造ヲ施シタルモノニシテ敷地千百三十二坪、建物七十八坪ヲ有シ病室ハ僅ニ十二人ノ患者ヲ收容スルニ過キス目下診療室、手術室、藥室、事務室、試驗室、倉庫、炊事場及消毒室等新築中ニ屬シ落成ノ上ハ現在ノ建物ハ之ヲ改修シテ病室ニ充用スヘキ計畫ナリ

六 全羅南道慈惠醫院

院舎ハ荒廢ニ歸シタル元觀察道附屬書記廳ニ應急ノ修理改造ヲ加ヘ別ニ附屬舎ヲ増築シタルモノナリ
敷地六百二十五坪、建物百五十八坪ニシテ患者收容力ハ二十人ナリトス

七 慶尙北道慈惠醫院

元同仁醫院敷地建物ヲ買收シタルモノニシテ敷地千八百七十一坪、建物三百一十一坪ナリ、建物ノ内二百二
十七坪餘ハ木造平家建ニシテ診察室、手術室、藥室、試驗室、事務室、患者控室及内地人病室等之ニ屬シ、八十三
坪餘ハ温突家屋ニシテ専ラ朝鮮人病室ニ充ツ、温突家屋ハ昨年十一月不用ニ歸セシ、舊觀察道附屬舎ヲ移
轉改造セシモノナリ、病室ハ内地人朝鮮人ヲ通シ、五十四人ヲ收容スルヲ得ヘシ、院舎ハ慈惠醫院中較見ル
ニ足ルヘキモノナリト雖、患者數ニ比シ、病室尙狹隘ナルノミナラス、傳染病室ヲ缺キ、患者收容上支障アル
ヲ以テ目下之カ増築ニ關シ計畫中ナリ

八 慶尙南道慈惠醫院

院舎ハ荒廢ニ歸シタル官有建物ニ改修ヲ施シ別ニ應急的増築ヲ爲シタルモノニシテ敷地七百四十四坪、
建物百四十九坪ニシテ患者十二人ヲ收容シ得ルノミ

九 黄海道慈惠醫院

院舎ノ敷地ハ千二百二十五坪、建物ハ二百七十二坪ニシテ患者收容力ハ二十人ナリ、在來官有建物及民屋ヲ
買收シ之ニ修理改築ヲ施シタルモノナレトモ病院トシテ不完全タルヲ免カレヌ

十 江原道慈惠醫院

現在ノ院舎ハ敷地二百五十六坪、建物四十四坪餘ニシテ在來官有建物ニ修理改造ヲ施シタルモノナリ、規
模狹隘ニシテ病室ノ如キハ僅ニ五人ヲ收容シ得ルニ過キヌ、依テ更ニ敷地約六百坪ヲ擴張シ、診察室、手術
室、事務室、藥室、試驗室、患者控室及隔離病室等新築中ニ屬スルヲ以テ竣工ノ上ハ建物百四十三坪ニ増加シ

二十五人ノ患者ヲ收容スルヲ得ヘシ

十一 平安南道慈惠醫院

醫院ハ平壤舊市街ノ中央ニ位シ、敷地二千九十六坪、建物四百二十一坪ヲ有シ、病室ハ六十人ヲ收容スルニ
足ル、元同仁醫院敷地建物ヲ買收シ之ニ修理増築ヲ施シタルモノナリ

十二 平安北道慈惠醫院

義州邑内高燥ノ地ニ位シ、院舎ハ元關帝廟附屬建物ニ修理増築ヲ施シタルモノニシテ敷地千七百二十五
坪、建物百二坪ニシテ病室ノ收容力ハ十九人ナリ

十三 咸鏡南道慈惠醫院

元陸軍衛戍病院分院ニ充用シタル朝鮮式家屋ヲ修理シ増築ヲ加ヘタルモノニシテ敷地七百二十坪、建物
百三十二坪ヲ有シ、病室ハ十九人ノ患者ヲ收容スルニ過キヌ

十四 咸鏡北道慈惠醫院

敷地ハ二千二百六十坪ナリ、建物ハ朝鮮式家屋ヲ改造修補シタルモノニシテ二百五十四坪ヲ有ス、曩ニ陸
軍衛戍病院分院ニ充用シタルコトアリシモノナリ、病室ハ三十五人ヲ入ルニ足ル

第二節 經費

朝鮮總督府醫院ハ大韓醫院時代ヨリ一般會計法ニ依リ經理シ來リタルモ、慈惠醫院ハ明治四十二年十月
ヨリ明治四十三年九月迄ハ特別會計ニ依リ、其ノ經常費年額ニ對スル政府補充金ハ全院ヲ通シ十九萬五
千圓ニシテ、其ノ他ハ醫院收入ヲ以テ經營シタルモノナリト雖、昨年併合ニ際シ、院務ヲ擴張スルノ必要アリ
リシヲ以テ特別會計ヲ廢シ、一般會計ニ依ルコトニ改メ、タリ各醫院開院以來ノ經常並臨時歳出豫算左ノ
如シ

朝鮮總督府醫院經常部歲出豫算

朝鮮總督府醫院	明治四十年中	明治四十一年中	明治四十二年	明治四十三年一月ヨリ	明治四十四年度
朝鮮總督府醫院	六七三三	一六一五九	二〇八三二	三二九九四	二五二五九
俸給	六二九八	六八三八五	六七三四〇	九七三三〇	七〇七六〇
勸任給	三五六七	一〇八八二	一〇八三二	二六九四七	一七六四〇
列任給	二六二二	四三九五三	三三八六五	四四八四三	三三三〇〇
退官賜金		一三四五一	一三五二七	二五四四〇	一九九二〇
賞與			一八九〇		
雜費	七二六六	一七四八一	一九九九二	二六二二五	一九六七七
備品費	九四四	八〇〇〇	四〇八四	二七五三	四八二八
圖書及印刷費	四三〇	一四七	三〇三	三三	一一九
筆紙墨文具	一七〇	八四七	九二八	一四七七	六九
消耗品	五四五四	八二二	一四三三	一九七三	一三二八九
通信運搬費	一六八	三三	四四六	一九二四	七四三
旅費		二七〇〇	三二四	二〇一六	一五五二
內國旅費		四〇〇	六五	六七	一五五二
外國旅費		二三〇〇	三〇五九	一三三九	一五五二
召喚及歸國旅費					
修理費	二八三			三〇〇〇	
修理費	二八三			三〇〇〇	
雜給及雜費	八四三六	三五九〇	三六六三四	四三〇〇	二九五〇〇
雇員給料	四八五一	二二四二	六八一	三九四九	三六〇〇
備人料	二四五〇	七二四五	六五四六	九二三七	六五五二

朝鮮總督府醫院臨時部歲出豫算

朝鮮總督府醫院臨時部	明治四十年中	明治四十一年中	明治四十二年	明治四十三年一月ヨリ	明治四十四年度
給與		三六三七	一〇〇〇	八四七五	三〇〇〇
被服費		四七八	一五〇八	二五六一	三六九
會宅料	四三	九八七三	三〇〇〇	一七〇五〇	九一三
雜費	七三	一二八一	一五六七	一四九三	二五三〇
死傷手当					
醫務費	六三四〇	二五三三六	七九三三	二二八四七	二三四八九
藥品費	五六二八	一四〇五六		二二八四七	二三四八九
患者費	七三	三三六七		二二八四七	二三四八九
種痘費		七〇七〇			
検査試驗費		九三三			
外國人諸給	三三〇六四	三三二〇			
外國人諸給	三三〇六四	三三二〇			
外國人諸給	三三〇六四	三三二〇			
醫育費	五八八五	三八二〇		二四九八六	一七三九二

慈惠醫院歲出經常部豫算

慈惠醫院	明治四十年中	明治四十一年中	明治四十二年	明治四十三年一月ヨリ	明治四十四年度
新築費其他諸費	三五七五七七	五七八元	二二八三	八六四六四	一六三三五〇

慈惠醫院	明治四十二年	明治四十三年三月マデ	明治四十四年度
俸給	二八二六三	二七二七三六	三五三三八二
給料	七七五	七〇一一	八六七八〇

奏任	四八〇〇	四八四九	五九〇〇	列任	二九二五	二四五〇	三〇七〇	廳費	一八七五	一五九九	一五八〇	備品費	三七五	二七〇	二五九	筆紙文具費	一〇五〇	四七四九	三二七	消耗品費	三〇〇	四六一五	四七六〇	通信運搬費	二五〇	一三九九	二二七九	圖書印刷費	二五〇	三八二五	二二七九	修理費	三三五	三八二五	二二七九	各所修理費	五八〇	二八三三	一〇九四八	旅費	三〇五五	三五四四	一〇九四八	外國旅費	二七二	一九八二	一〇九四八	內國旅費	四〇三	三八六七	五三〇九	雜給費	六〇〇	一四一四五	一九六八〇	給與給	一六八八	三八八〇	七八〇〇	被服費	四三三	二二二	九一七四	雜費	七二	六三五	一四〇〇	會宅料	一五〇〇	一四七五	一五二〇	會務料	一五〇〇	一四七五	一五二〇	醫務費	六八五	一〇二四	一六七二	備品費	三七五	五〇四〇	一〇九三七	消耗品費	一四五	二五八七	三三〇〇
----	------	------	------	----	------	------	------	----	------	------	------	-----	-----	-----	-----	-------	------	------	-----	------	-----	------	------	-------	-----	------	------	-------	-----	------	------	-----	-----	------	------	-------	-----	------	-------	----	------	------	-------	------	-----	------	-------	------	-----	------	------	-----	-----	-------	-------	-----	------	------	------	-----	-----	-----	------	----	----	-----	------	-----	------	------	------	-----	------	------	------	-----	-----	------	------	-----	-----	------	-------	------	-----	------	------

藥劑費	五〇〇〇	四四七〇	七四七〇	病衣費	二〇〇	一四〇	一五〇	理髮費	二〇〇	一四〇	一五〇	患者服費	二〇〇	一四〇	一五〇	醫師料	二〇〇	一四〇	一五〇	衛生費	二〇〇	一四〇	一五〇	圖書費	二〇〇	一四〇	一五〇	雜品費	二〇〇	一四〇	一五〇	備品費	二〇〇	一四〇	一五〇	筆紙文具費	二〇〇	一四〇	一五〇
-----	------	------	------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-------	-----	-----	-----

慈惠醫院歲出臨時部豫算

慈惠醫院臨時設備費	明治四十一年中	明治四十二年	明治四十三年一月マデ	明治四十四年度
二二〇〇〇	二二〇〇〇	一三六五四	一三六五四	二八〇〇〇

各醫院歳入豫算及其ノ實收入左ノ如シ
醫院經常部歳入豫算

朝鮮總督府醫院	明治四十年中	明治四十一年中	明治四十二年	明治四十三年一月マデ	明治四十四年度
九四五〇	五二〇五四	六七〇八五	二二二五〇	一三六三三六	九三九五二
慈惠醫院	九四五〇	五二〇五四	六九三三五	一五七六九	二三〇一八七

第五章 醫院ニ於ケル醫育事業

第四條 醫院長ハ特別ノ事情アリト認ムル者又ハ醫育上必要アリト認ムル者ニ對シ藥價及料金を減額シ又ハ徵收セサルコトヲ得

慈惠醫院收價規程(標準)

一 收價患者ヨリ徵收スル藥價其ノ他ノ料金を左

記ニ據ルヘシ	
内服藥	一日分 小大人 十二錢乃至十五錢
頓服藥	一劑 小大人 八錢乃至十三錢
外用藥	同 十錢乃至十五錢
投藥瓶代ハ別ニ實費ヲ徵收ス	
手數料	二十五錢乃至一圓
大手術料	五圓乃至三十圓
中手術料	一圓五十錢乃至五圓
小手術料	二十錢乃至一圓五十錢
處置料	五錢乃至三十錢

第五章 醫院ニ於ケル醫育事業

第一節 醫師ノ養成

朝鮮ニ於ケル醫育機關トシテ明治三十二年(光武三年)三月官立京城醫學校官制ヲ發布シ且其ノ細則ヲ定メ校長一人教官二人書記一人ヲ置キ京城中部寬仁坊勸洞地ニ醫學校ヲ創設セリ當時ハ學部ノ所管タリシカ後明治四十年(光武十一年)三月大韓醫院官制ノ發布ニ依リ大韓醫院ニ屬シ官立醫學校ヲ改メテ同院教育部トシ專任教官七人學監一人囑託教師米國人一人ヲ置キタリ明治四十二年(光武二十三年)一月再ヒ大韓

五四

皮下注射料	血清注射	十錢乃至二十錢
繃帶交換	テ際ク	五錢乃至一圓
往診料	一圓	五十錢乃至五圓
車馬賃宿泊料ハ別ニ實費ヲ徵收ス		
入院料	一日	藥價(器具水處置料消毒料ヲ包含ス)
特等		三圓
一等		二圓
二等		一圓
三等		七錢
血清等注射		一圓乃至十五圓
種痘料		二圓
助産料		十錢
院長ハ特別ノ事情アリト認ムル者ニ限リ前項料金を半額ナド下リサル範圍内ニ於テ之ヲ輕減スルコトヲ得		二圓乃至五圓

醫院官制ヲ改正シ醫育部ト稱シ專任教授六人副教授三人學生監一人其ノ他ニ囑託教師米國人一人ヲ置キタリ明治四十二年(隆熙三年)二月更ニ大韓醫院官制ヲ改正シ同院附屬醫學校ト稱スルニ至レリ

明治四十三年一月大韓醫院附屬醫學校規則ヲ發布シ同校ニ醫學科藥學科產婆科及看護科ヲ置キ修業年限ハ醫學科四箇年藥學科三箇年產婆科看護科共ニ二箇年トシ各科生徒ノ員數ヲ定メ而シテ學費ハ總テ官給トシ食費被服及雜費ヲ給與シ卒業後ノ義務年限ヲ定メ別ニ學費自辨ヲ以テ入學ヲ志願スル者ニ對シ員外生ノ規程ヲ設ケタリ

明治四十三年九月三十日朝鮮總督府醫院官制發布ニ依リ大韓醫院附屬醫學校ハ朝鮮總督府醫院附屬醫學講習所ト改マリ明治四十四年二月朝鮮總督府令第十九號ヲ以テ朝鮮總督府醫院附屬醫學講習所規則及同府令第二十號ヲ以テ朝鮮總督府醫院附屬醫學講習所生徒學費給與規則ヲ發令シ從前ノ教授科目中藥學科ヲ廢シ生徒ハ官費本位ナリシヲ私費本位ニ改メ學費ヲ給與スヘキ者ニ對スル制限ヲ設ケタリ右諸規則ハ左ノ如シ

朝鮮總督府令第十九號明治四十四年二月二十日

朝鮮總督府醫院附屬醫學講習所規則

第一條 朝鮮總督府醫院附屬醫學講習所ニ醫學科助産科及看護婦科ヲ置ク

第二條 修業年限ハ醫學科四年助産婦科二年看護婦科一年トス

第三條 生徒ノ定員ハ醫學科各學年七十五人助産婦科各學年二十人看護婦科各學年二十人トス

第四條 醫學科助産婦科各學年及看護婦科各學期ノ學

科ハ別表ノ如シ

第五條 醫學科及助産婦科學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

學年ヲ分テ左ノ二學期トス

前學期 四月一日ヨリ十月二十日迄

後學期 十月二十一日ヨリ三月三十一日迄

看護科修業年限ハ之ヲ三學期ニ分テ各學期ノ期間

ハ前項學期ノ期間ニ準ス

第六條 教授日數ハ一學年約四十二週トス

第五章 醫院ニ於ケル醫育事業

第五章 醫院ニ於ケル醫事事業

但シ看護婦科ニ在リテハ全學期ヲ通シ約六十三週トス
各科ノ教授時數ハ每週約三十時間トス
各學科ノ教授時數ハ醫院長之ヲ定ム
第七條 休業日ハ左ノ如シ

- 孝明天皇祭
- 紀元節
- 春季皇靈祭
- 秋季皇靈祭
- 神嘗祭
- 天長節
- 新嘗祭
- 日曜日

春季休業 四月一日ヨリ同月七日迄
夏期休業 八月一日ヨリ同月三十一日迄
冬期休業 十二月二十九日ヨリ翌年二月四日迄
特別ノ事由ニ依リ必要ト認ムルトキハ醫院長ハ朝
鮮總督ノ認可ヲ受ケ臨時休業ヲ爲スコトヲ得

第八條 授業料ハ當分ノ内之ヲ徵收セス
第九條 學費ハ醫科ニ在リテハ生徒定員ノ三分ノ一、
助産婦科及看護婦科ニ在リテハ生徒定員半數ヲ限
リ之ヲ給與スルコトアルヘシ
學費給與ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第二章 入學退學懲戒
第十條 醫科生徒ハ朝鮮人タル男子助産婦科生徒ハ
朝鮮人タル女子トシ醫科助産婦科第一學年又ハ看

護婦科第一學期ニ入學ヲ許可スヘキ者ハ左ノ各號
ニ該當シ入學試験ニ合格シタルモノナルコトヲ要
ス

- 一 年齢十七歳以上二十五歳以下ノ者
 - 二 身體健全ニシテ品行方正ナル者
- 高等學校第一學年ヲ修了シタル者ハ醫科ニ普通學
校第四學年ヲ修了シタル者ハ助産婦科ニ普通學校
第三學年ヲ修了シタル者ハ看護婦科ニ試験ヲ行ハ
スシテ入學ヲ許可スルコトアルヘシ
第十一條 前條ノ入學試験ハ醫院長之ヲ行フ其ノ科
目及程度左ノ如シ

醫科 漢文 四書講讀 作文 算術 四則分
數
國語 講讀 算術 小學 繙譯 會話
醫院長ハ必要アリト認ムルトキハ試験科目ニ理科
ヲ加フルコトヲ得

助産婦科 國語 講讀 普通學校學徒用 會話
看護婦科 國語 講讀 普通學校學徒用 會話
第十二條 生徒ノ定員ニ缺員ナシタルトキハ醫院
長ハ補缺ノ爲特ニ入學試験ヲ行ヒ其ノ學力ニ應ジ
相當學年學期ニ入學ヲ許可スルコトヲ得
第十三條 入學志願者ハ生徒募集ノ際第一號書式入
學願書ニ履歷書ヲ添ヘ醫院長ニ之ヲ差出スヘシ
第十四條 入學ヲ許可セリレタル者ハ第二號書式在
學證書ヲ醫院長ニ差出スヘシ

保證人ハ成年以上ノ男子ニシテ獨立ノ生計ヲ營ム
者二人トシ内一人ハ京城居住者タルコトヲ要ス
第十五條 特別ノ事情ニ依リ退學セムトスル者ハ其
ノ事由ヲ具シ保證人連署ヲ以テ醫院長ニ願出許可
ヲ受クヘシ

第十六條 醫院長ハ教育ニ必要ト認ムルトキハ生徒
ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得
懲戒ハ戒飭及停學トス
第十七條 醫院長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル生徒ニ
對シ退學ヲ命スルコトヲ得

- 一 性行不真ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者
- 二 疾病又ハ學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認
メタル者
- 三 正當ノ事由ナクシテ引續キ一月以上缺席シタ
ル者

第三章 試験卒業
第十八條 試験ヲ分テテ學期試験、學年試験及卒業試
験トス
醫科及助産婦科ノ學期試験ハ各學期末、學年試験ハ
各學年末、卒業試験ハ最終學年末ニ於テ之ヲ行フ但

シ後學期試験ハ之ヲ學年試験ト併セ行ヒ最終學年
試験ハ之ヲ卒業試験ト併セ行ヒ又ハ後學期試験若
ハ最終學年試験ハ之ヲ省畧スルコトヲ得
看護婦科ノ學期試験ハ各學期末ニ之ヲ行ヒ卒業試
験ハ最終學期末ニ於テ學期試験ト併セ行フ
第十九條 試験ノ成績ハ一學科百點ヲ滿點トシ各學
科四十點以上總平均六十點以上ヲ合格トス
第二十條 疾病其ノ他已ムテ得サル事情ニ依リ試験
期日ニ出席スルコト不能ハサル者ハ其ノ事由ヲ具シ
保證人連署ヲ以テ醫院長ノ許可ヲ受クヘシ
醫院長ハ前項ノ場合ニ於テ追試験ヲ行フコトヲ得
第二十一條 醫院長ハ各科卒業者ニ第三號書式ノ卒
業證書ヲ授與ス
第二十二條 醫科ヲ卒業シタル者ハ醫學進士ノ稱號
ヲ用フルコトヲ得

附則
本令ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行ノ際在學スル生徒ニハ第九條ニ拘ハラズ學
費ヲ給與ス

第五章 醫院ニ於ケル醫事事業

學年	第一學年		第二學年		第三學年		第四學年	
	前學期	後學期	前學期	後學期	前學期	後學期	前學期	後學期
身修	身修	身修	身修	身修	身修	身修	身修	身修

學	科	第一學年		第二學年		學	科
		前學期	後學期	前學期	後學期		
國語	物理學	物理學	物理學	物理學	物理學	國語	內科各論
		物理學	物理學	物理學	物理學		
國語	化學	化學	化學	化學	化學	國語	內科各論
		化學	化學	化學	化學		
國語	解剖學	解剖學	解剖學	解剖學	解剖學	國語	內科各論
		解剖學	解剖學	解剖學	解剖學		
國語	組織學	組織學	組織學	組織學	組織學	國語	內科各論
		組織學	組織學	組織學	組織學		
國語	藥學	藥學	藥學	藥學	藥學	國語	內科各論
		藥學	藥學	藥學	藥學		
國語	外科總論	外科總論	外科總論	外科總論	外科總論	國語	內科各論
		外科總論	外科總論	外科總論	外科總論		
國語	產婆學	產婆學	產婆學	產婆學	產婆學	國語	內科各論
		產婆學	產婆學	產婆學	產婆學		
國語	育兒法	育兒法	育兒法	育兒法	育兒法	國語	內科各論
		育兒法	育兒法	育兒法	育兒法		

必要ノ場合ハ左ノ學科ヲ加フルコトヲ得

法醫學 醫用動植物學 衛生制度

助産婦科學科表

學	科	第一學年		第二學年	
		前學期	後學期	前學期	後學期
國語	解剖學大意	解剖學大意	解剖學大意	解剖學大意	解剖學大意
		解剖學大意	解剖學大意	解剖學大意	解剖學大意
國語	生理學大意	生理學大意	生理學大意	生理學大意	生理學大意
		生理學大意	生理學大意	生理學大意	生理學大意
國語	產婆學	產婆學	產婆學	產婆學	產婆學
		產婆學	產婆學	產婆學	產婆學
國語	育兒法	育兒法	育兒法	育兒法	育兒法
		育兒法	育兒法	育兒法	育兒法

看護婦科學科表

學	科	第一學期		第二學期		第三學期	
		國語	身修	國語	身修	國語	身修
國語	消毒法及實習	消毒法及實習	消毒法及實習	消毒法及實習	消毒法及實習	消毒法及實習	消毒法及實習
		消毒法及實習	消毒法及實習	消毒法及實習	消毒法及實習	消毒法及實習	消毒法及實習
國語	產婆學及實習	產婆學及實習	產婆學及實習	產婆學及實習	產婆學及實習	產婆學及實習	產婆學及實習
		產婆學及實習	產婆學及實習	產婆學及實習	產婆學及實習	產婆學及實習	產婆學及實習
國語	產婆學及實習	產婆學及實習	產婆學及實習	產婆學及實習	產婆學及實習	產婆學及實習	產婆學及實習
		產婆學及實習	產婆學及實習	產婆學及實習	產婆學及實習	產婆學及實習	產婆學及實習

科	解剖學生理學大意		消毒法		衛生學大意	
	數	實	數	實	數	實
國語	解剖學大意	解剖學大意	消毒法	消毒法	衛生學大意	衛生學大意
	解剖學大意	解剖學大意	消毒法	消毒法	衛生學大意	衛生學大意
國語	生理學大意	生理學大意	手術介補法	手術介補法	急救	急救
	生理學大意	生理學大意	手術介補法	手術介補法	急救	急救
國語	產婆學	產婆學	救急	救急	急救	急救
	產婆學	產婆學	救急	救急	急救	急救
國語	育兒法	育兒法	急救	急救	急救	急救
	育兒法	育兒法	急救	急救	急救	急救

朝鮮總督府令第二十號(明治四十四年二月二十日)

朝鮮總督府醫院附屬醫學講習所生徒學費給與規則

第一條 朝鮮總督府醫院附屬醫學講習所生徒ニ給與スヘキ學費ハ食費、被服費及雜費ノ三種トシ其ノ金額ハ醫科ニ在リテハ月額金七圓以内助産婦科及看護婦科ニ在リテハ月額金五圓以内トシ其ノ支給區

(誓約書式略之)

本令ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則

分及給與金額ハ朝鮮總督府醫院長之ヲ定ム
前項ノ學費ハ醫院長ノ見込ニ依リ現品ヲ以テ之ヲ給與スルコトヲ得
第二條 給費生ハ別紙第一號書式ニ依リ保證人二人ノ連署ヲ以テ誓約書ヲ提出スヘシ
保證人ニ關シテハ朝鮮總督府醫院附屬醫學講習所規則第十四條第二項ノ規定ヲ準用ス
第三條 給費生ニシテ朝鮮總督府醫院附屬醫學講習所規則第十五條ニ依リ退學シタルトキ又ハ同第十條第一號若ハ第三號ニ依リ退學ノ處分ヲ受ケタルトキハ在學中給與シタル學費ノ全部又ハ一部ヲ償還セシメ同第十七條第二號ニ依リ退學ノ處分ヲ受ケタルトキハ現ニ所持スル給與品ヲ返納セシム

慶尙北道大邱及平安南道平壤ニ於ケル同仁醫院ニハ舊時何レモ附屬醫學校ヲ附設シ醫師ヲ教養セシヲ以テ舊韓國政府ハ醫育獎勵ノ爲メ補助費トシテ各每月金六百圓ツ、ヲ交付シ來リシカ明治四十三年九月右兩院ノ敷地、建物、諸器械等全部ヲ慈惠醫院ニ買收スルニ當リ醫育事業モ亦之ヲ繼襲シタルヲ以テ開院以來一時醫學生及看護婦養成ニ從事シタリシモ兩院トモ講堂其ノ他必要ノ設備ヲ缺キ教科用圖書、模製標本類等亦完全ナラヌ加フルニ患者日ニ倍增加スルヲ以テ醫員ハ日夜其ノ診療ニ忙殺セラレ勢生徒ノ教養ニ對シ十分ノ力ヲ致ス能ハス故ニ若シ之ヲ繼續セムトセハ職員ノ増員、講堂ノ建設其ノ他ノ設備

ニ多額ノ費用ヲ要スヘキヲ以テ寧ロ生徒ヲ總督府醫院ニ轉學セシメ以テ醫育ノ統一ヲ圖ルヲ適當ナリトシ本年四月學年開始ノ時期ヲ機トシ同所ニ轉學セシメタル者七人外ニ教養ヲ依託シタル者二十二ナリ

官立醫學學校創設以來ノ醫學科卒業生ハ明治三十五年光武六年七月第一回十九人、明治三十六年光武七年七月第二回十三人、明治三十九年光武十年七月第三回四人、明治四十年光武十一年七月第四回十三人、明治四十三年(隆熙四年)五月第五回五人、明治四十四年三月第六回二十七人ニシテ總計八十一人ナリ

第一回ヨリ第五回ニ至ル醫學科卒業生ニ就キ卒業後ニ於ケル就業ノ區別ヲ調査シタルニ左ノ如シ

職別	卒業年月					計	摘	要
	第一回 明治三十五年 七月	第二回 明治三十六年 七月	第三回 明治三十九年 七月	第四回 明治四十年 七月	第五回 明治四十三年 五月			
開業	九	六	四	三	二	二七	多クハ京城	
官吏	一	一	一	一	一	五	主トシテ朝鮮軍醫、總督府醫院及慈惠醫院助手	
教員	一	一	一	一	一	五	私立學校	
内地留學	一	一	一	一	一	五	歸來自下總督府醫院助手	
死亡	一	一	一	一	一	五	在職中	
不明	九	三	四	三	五	五四		
總計	二九	一三	一四	一三	一五	八一		

第六回卒業生ニ就テハ左ノ如シ

總督府醫院專攻見習助手トシテ臨床醫學ヲ研究中ノ者 十人
 (内官費ニテ内地ニ留學セシムヘキ者二人)
 慈惠醫院助手ヲ命セラレタル者 三人

開業シタル者

十三人

自費ニテ内地ニ留學セル者

一人

醫學科在學生學年別左ノ如シ(明治四十四年六月末日調査)

學年	給費	自費	依託給費	總計	摘	要
第一學年	二六	一六	一六	五八	依託給費ハ慶尚北道慈惠醫院ヨリ	
第二學年	四二	一六	一六	七四	依託給費ハ平安南道慈惠醫院ヨリ	
第三學年	四二	一六	一六	七四	依託給費ハ平安南道慈惠醫院ヨリ	
第四學年	二四	一六	一六	五六	依託給費ハ平安南道慈惠醫院ヨリ	
總計	一三六	六四	六四	二六四	慶尚北道慈惠醫院ヨリ四 依託給費ハ平安南道慈惠醫院ヨリ	

本年三月醫學科第一學年生徒ヲ募集シタルニ之ニ對スル入學志願者四百人ニシテ内入學ヲ許可シタル者四十三人ナリ

醫學科現在生徒原籍道別左ノ如シ

道名	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	總計
京畿道	一〇	二	一	一	一四
忠清北道	四	一	一	一	七
忠清南道	二	一	一	一	五
全羅北道	二	一	一	一	五
全羅南道	一	一	一	一	四
慶尚北道	四	一	一	一	七
慶尚南道	二	一	一	一	五
黃海道	七	一	一	一	一〇
總計	二〇	一〇	六	六	四二

江	平	平	成	成	合
原	安	安	鏡	鏡	
道	南	北	南	北	
					計
二	三	五	一	一	四
〇	〇	〇	〇	〇	五〇
一	六	三	一	一	三〇
一	五	一	一	一	六
三	四	二	五	二	二五
三	三	二	五	二	二五

醫師養成ノ程度

教授ニ關スル事項ハ主トシテ内地醫學專門學校ノ學制、臺灣總督府醫學校ノ狀況ヲ參考シ、特ニ次ノ三件ニ注意セリ

- 一 國語ニ重キヲ置クコト
- 二 普通學ノ教養ニ力ヲ注クコト
- 三 患者診療ヲ實地ニ見習ハシムルコト

之ヲ要スルニ完全ニ國語ヲ解スルニ非サレハ到底醫學ノ如キ綿密ナル學問ヲ理解シ難ク又從來朝鮮ニハ普通教育ノ機關未タ全カラサルヲ以テ學生ハ概シテ普通學ノ素養ニ乏シク從テ到底高等ノ學理ヲ解得スル能ハス由テ理論醫學ノ教授ト共ニ普通學ノ智識ヲ涵養シ進シテハ應用醫學ニ於テ患者診療ノ實況ヲ見習ハシムルコト亦必要ノ條件タリサレハ第一、二學年ニ於テハ主トシテ理論醫學ヲ授ケ第三、四學年ニ於テハ主トシテ應用醫學ヲ授ケ最後ニ患者ノ疾病ヲ診斷處置シ得ルノ能力ヲ備ヘシメントス蓋シ之ヲ現下ノ民度ニ鑑ルニ高遠ナル醫學ノ研究者ヲ養成スルヲ要セス寧ロ普通實際的ノ治療醫ヲ要求スルノ時代ナルヲ以テ卒業後ハ直ニ出テ、獨立開業シ得ヘキ程度ノモノヲ出サムコトヲ期スルニ在リ

第二節 助産婦及看護婦ノ養成

朝鮮總督府醫院附屬醫學講習所ニ於テ養成中ノ助産婦科生徒ハ現在五人、看護婦科ハ同六人アリ何レモ本年三月新ニ募集ニ應ジテ入學セシモノニシテ助産婦科ハ最初九人アリシモ四人ハ入學後日ナラスニテ退學セリ

朝鮮總督府醫院ニ於テ元大韓醫院ヨリ繼續シタル朝鮮人看護婦見習生九人アリシカ國語ヲ解セサルヲ以テ主トシテ其ノ教養ニ努メ傍ラ看護學ヲ教授シ本年三月ヲ以テ之ヲ卒業セシメタリ内現ニ朝鮮總督府醫院ニ於テ看護ノ實務ニ就ケル者三人アリ

又同院ニ於テ内地人看護婦見習生九人アリシカ昨年十月以降本年三月マテ看護學教授ノ傍課外トシテ朝鮮語ヲ授ケタリシニ内五人ハ成績良好ニシテ稍日常ノ會話ニ通シ就中二名ハ著シク上達シ目下朝鮮人患者ノ看護ニ必要缺クヘカラサル者トナレリ故ニ向後又看護婦中ノ志願者ニハ勤務時間外ニ於テ朝鮮語ノ教授ヲナサムトス

助産婦及看護婦養成ノ程度

(助産婦)
大體醫師養成ト其ノ方針ヲ一ニシ第一國語ノ養成第二常識ノ發達ニ努メ助産婦トシテ正規並異常分娩ヲ區別スルノ能力ヲ授ケ正規分娩ニ於ケル處置產褥ニ對スル注意等ヲ教授シ且實地ニ就キテ之ヲ指示シ併セテ消毒ノ必要ナルコトヲ理解セシムルニ努メ居レリ

(看護婦)

大體ハ前者ニ準シテ看護法、治療介補法等ヲ練習セシメ患者ノ看護者醫療ノ補助者トシテ遺憾ナカラシメムコトヲ期セリ

助産婦並看護婦ノ養成ハ將來有望ノ事業ナリト雖希望者極メテ少ナク生徒定員四十人ニ對シ現在生徒

僅々十一名ニ過キサルカ如キ甚遺憾トスル所ナリ而シテ其ノ教養ノ實績ニ徴スルニ朝鮮ノ女子ハ從來全然普通教育ノ素養ナキヲ以テ之ヲ醫師ノ養成ニ比スレハ寧ロ助産婦並看護婦養成ノ困難ナルヲ感ス且頗ル責任ヲ輕スルノ傾向アルヲ以テ助産又ハ看護ノ實習ヲ爲サシムル際ニ於テモ鎖末ナル事ト雖之ニ信託スルヲ得ス即チ今日ニ於テハ未タ全ク實用ニ適セスシテ單ニ内地人看護婦ノ補助員タルニ過キサルナリ

現在生徒十一名ハ將來看護婦トシテ立タムコトヲ望ム者一モ之ナク何レモ助産婦タラムコトヲ希望スル者ノミナリ然レトモ消毒及患者ノ介護等ノコトハ看護婦ノ實務ニ於テ之ヲ習得セシムルノ教養上便利ナルヲ認メ一方看護婦ノ見習ヲ爲サシメツ、アリ

慈惠醫院ニ於ケル看護婦ノ養成

慈惠醫院ニ朝鮮人看護婦ヲ置クコトハ彼我ノ情意ヲ疏通シ患者ニ慰安ヲ與フルニ於テ必要ナリト認メ志望者ハ經費ノ範圍内ニ於テ多少ノ給料ヲ與ヘ内地人看護婦ノ下ニ備役シ以テ其ノ業務ヲ實習セシメツ、アリ然レトモ希望者甚少ナク偶之レアルモ年齢素養等ノ資格ヲ缺キ且國語ヲ解スル者稀ナルヲ以テ適當ノ者ヲ得ルコト殆ト困難ナリ故ニ目下其ノ數極メテ僅少ニシテ各道ヲ通シ僅ニ二十人ニ過キス助産婦ハ將來看護婦ヲ卒業シタル者ヨリ養成スルヲ捷徑ナリト認メ未タ著手スルニ至ラス

附 錄

種痘及痘苗製造

痘瘡流行及種痘施行ノ狀況ハ第一章ニ記スルカ如シ故ニ種痘ノ普及ハ衛生行政上最重要ナル事務ニ屬ス而シテ種痘ノ施行ニ就テハ開國五百四年明治二十八年種痘規則ノ制定アリト雖殆ト遵行セラレタルコトナク殊ニ其ノ施術ニ就テハ殆ト醫師ノ與カラサル所ニシテ之カ爲特ニ種痘認許員ナルモノヲ置キタリ即チ醫師ノ缺乏ヲ補フ爲ニ設ケタル特殊ノ機關ナリトス其ノ數左表ノ通ニシテ其ノ業務ハ種痘依頼者ヨリ接種料ヲ受ケ施術スルヲ以テ一種ノ營業者ト見做スヘキモノナレトモ強制種痘ノ施行ニ方リ警察官署ニ種痘技術員トシテ雇上ケ使用スル場合多シ即チ實際ニ於テハ民籍法施行後日尙淺ク隨テ種痘名稱ヲ整備シ一定ノ年限ヲ期シテ定期種痘ヲ施行シ得ヘキ時機ニ達セス故ニ從來ノ慣例ニ依リ施行スル春秋二期ノ種痘ハ定期種痘ナルカ如クニシテ殆ト強制的臨時種痘ナリ然レトモ一般衛生思想ノ程度ハ自ラ進ンテ種痘ヲ受ケムトスル者殆ト稀有ニシテ一面ニハ各地ニ於テ痘瘡患者發生ノ跡ヲ絶タサル今日ニ在リテハ洵ニ已ムヲ得サルノミナラス豫防上實際ニ適應セル措設ナリトス

種痘認許員表 (明治四十四年六月三十日調)

道 名	男	女			計
		内地人	朝鮮人	人	
京 畿 道	二〇〇	二	三	五	二〇五
忠 清 北 道	三	一	一	二	六
忠 清 南 道	八	一	一	二	一三
全 羅 北 道	三	一	一	二	八
計	二一四	六	七	一三	二三〇

全羅南道	四二	四二
慶尚北道	二二	二二
慶尚南道	六四	六四
江原道	二六	二六
平安南道	七三	七三
平安北道	五九	五九
咸鏡南道	五七	五七
咸鏡北道	五三	五三
計	1,000	1,000

備考 男ハ總テ朝鮮人ナリ

種痘普及上男子ニ對スル施行ニ就テハ敢テ困難ヲ感セザリシモ婦人ハ男子種痘認許員ノ施術ヲ避ケ施行上遺憾少ナカラザリシヲ以テ特ニ朝鮮婦人ニ種痘技術ヲ練習セシメ専ラ婦人及小兒ノ種痘ニ當ラシメタル以來其ノ成績頗ル良好ニシテ今日ニ於テハ多ク種痘嫌忌ノ聲ヲ聞カサルニ至レリ

種痘ノ成績ヲ確實ナラシメ併セテ種痘認許員ノ普及ヲ圖ル爲各道ニ於テ慈惠醫院醫員又ハ囑託警察醫ヲ以テ講師ニ充テ技術講習會ヲ開キ又ハ將來種痘認許員タラムトスル者ノ養成ヲ爲シツ、アリ

種痘ノ製造ニ就テハ官業トシテ之ヲ經營シ明治三十三年光武四年漢城ニ種痘司ヲ置キ各道ニ種痘所ヲ設ケ以テ中央及地方種痘製造ノ事業ニ著手シタリシモ遂ニ其ノ效果ヲ完フスルニ至ラズ次テ明治四十年光武十一年大韓醫院試驗部ニ於テ初メテ牛痘苗ノ製造ヲ開始シ更ニ明治四十二年(隆熙三年)二月同院試驗部廢止ト共ニ該事業ハ總テ内部衛生局ノ主管ニ歸シ同局試驗課ニ特ニ痘苗科ヲ置キ爾來設備漸ク整ヒ梅野式體繼續法ニ依リ完全ナル痘苗ヲ製造スルニ至レリ

痘苗ノ賣下ニ就テハ痘苗賣下規則ヲ設ケ之ヲ施行セリ而シテ總督府醫院及慈惠醫院ニ於テ施行スル種痘ニ使用スルモノ又ハ警察官署ニ於テ施行スル種痘ニ要スルモノハ無料ヲ以テ之ヲ配布セリ

痘苗賣下規則左ノ如シ

朝鮮總督府令第六十八號(明治四十三年十二月三十日)

朝鮮總督府痘苗賣下規則

第一條 痘苗ハ朝鮮總督府ニ於テ賣下ク

第二條 痘苗一具(五人分)ノ定價ハ金五錢トス但運送料ヲ要セス

朝鮮總督府醫院慈惠醫院及警察官署ニ於テ施行スル種痘ニ要スルモノハ代價ヲ徴セス

藥劑(現ニ藥品醫藥種商ノ請求ニ依リ賣下ケルモノ)ハ定價ノ二割ヲ減ス

第三條 藥劑師藥種商ハ定價以上ノ價格ヲ以テ痘苗

第六條 本則ハ明治四十四年一月一日ヨリ施行ス

明治四十一年以降本年六月迄痘苗製造成績左表ノ如シ

年次	價額	頭數	痘苗製出量數
明治四十一年	三三三	二二七六	明治四十三年
同四十二年	二七三	一三七九	同四十四年
			至六月
			計

明治四十一年以降本年六月迄痘苗配布道別並月別年別左表ノ如シ

痘苗配布道月別表 (明治四十三年自一月至十二月)

道名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
京畿道	五〇	四〇〇	八九九	三八五〇	五九二〇	一五二〇			九五〇〇	二九五四九	五〇〇		六〇二八四
道	五六四	五二六	四三三	三三四八	九〇八	一〇〇			五〇〇	二二六六	四一五		六五〇
													一三七〇九

道名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	計
忠清北道	六〇〇	一〇〇〇	一六九〇	四九〇〇	四〇〇	八三〇	二二〇〇
忠清南道	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	九三七五	二四七五〇
全羅北道	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇〇
全羅南道	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇〇
慶尙北道	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	一四九五四	四〇七九
慶尙南道	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	二四一四一	七四四〇
黃海道	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	一九二四七	七〇〇〇
江原道	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	二二〇〇〇	七〇〇〇
平安南道	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	五八三三	二〇〇〇
平安北道	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	五八四〇	二一八〇
計	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇

道名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	計
咸鏡南道	六五〇	八九〇	三八〇〇	一〇〇〇	二〇〇	一七九〇四	二六四〇〇
咸鏡北道	一〇〇	八九〇	六〇〇〇	二〇〇	二〇〇	九〇五〇	一〇〇〇〇
同島							
計	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇

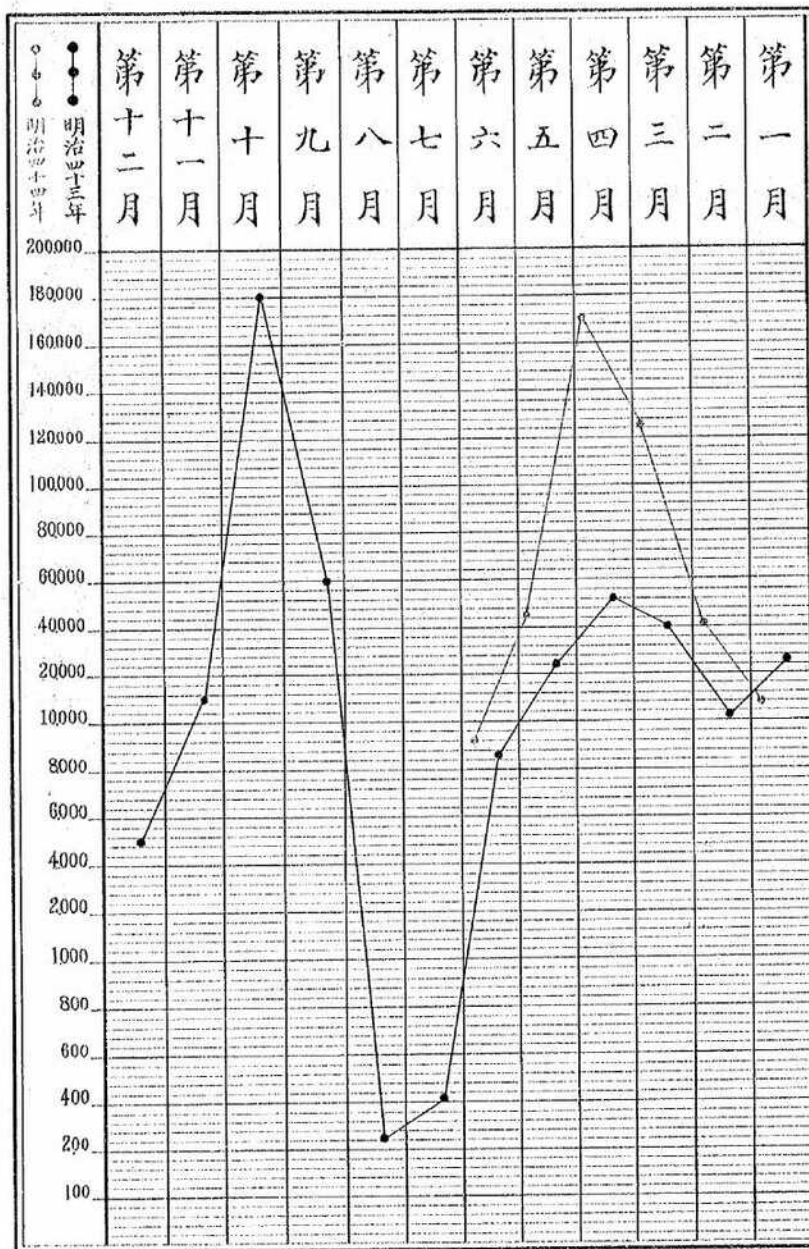
痘苗配布道月別表 (明治四十四年自一月至六月) 黒ハ無料配布ヲ示シ △印ハ資料下ヲ示ス

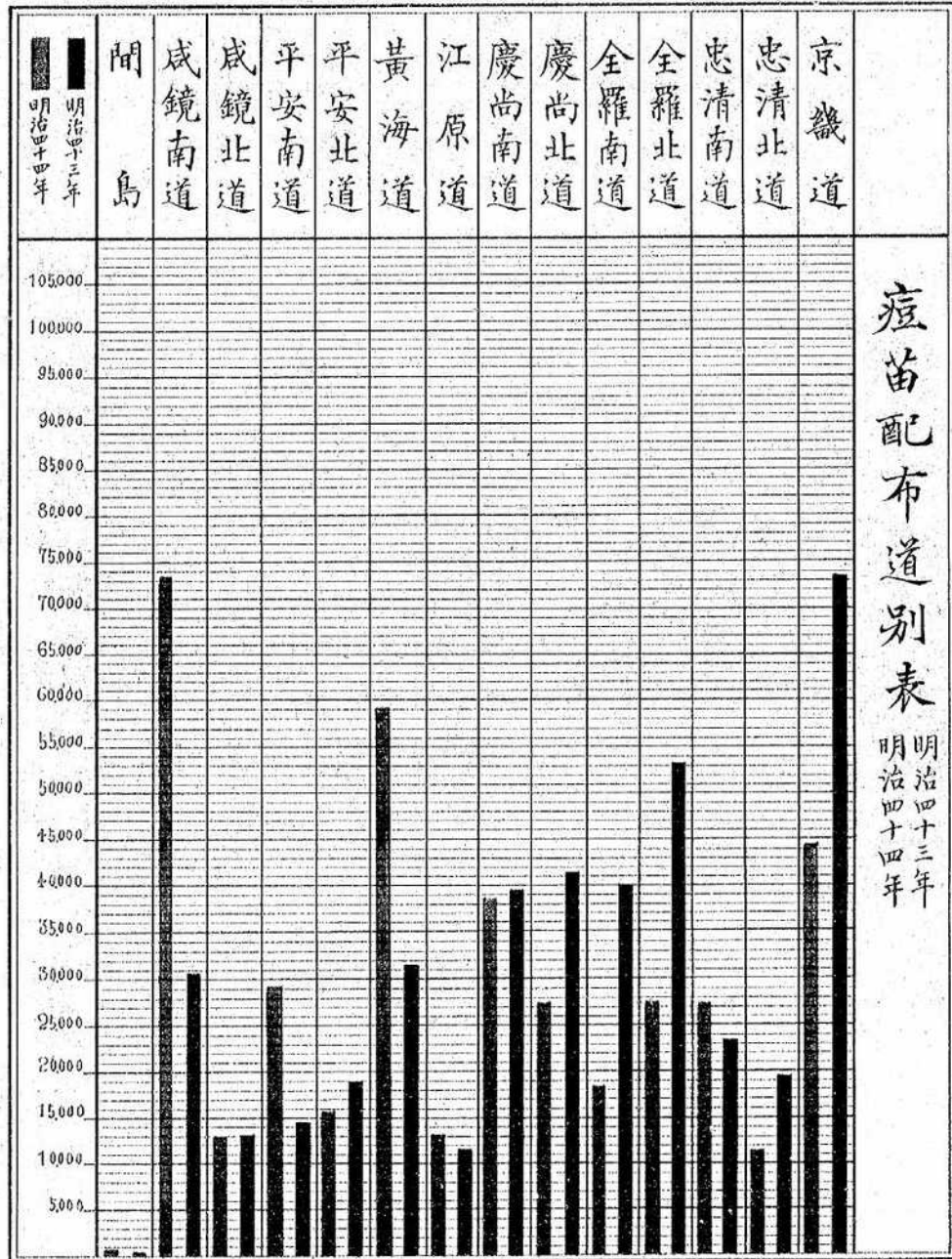
道名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	計
京畿道	三六〇	二〇〇〇	六九五〇	四三三〇	二四三八八	一四七四	三三〇七
忠清北道	五〇〇	八五〇〇	八五四四	一四八四	三五〇〇	八五〇	二二五三八
忠清南道	三〇〇	五二〇〇	八九五〇	七九〇〇	三八二〇	一〇〇〇	二七三三〇
全羅北道	一〇〇〇	四七〇〇	一〇七四〇	一〇七四〇	一五二〇		二七九七〇
全羅南道	一〇〇	八〇〇	一〇五〇〇	五三三〇	二〇六〇		一八八九〇
計	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇

計	四島	威鏡北道	威鏡南道	平安北道	平安南道	江原道	黃海道	慶尙南道	慶尙北道
△ 一四四〇〇	三五〇	二〇〇	六六五〇				三三〇〇	二五〇〇	
△ 三六				△			△		
△ 二二五五		二〇〇	九七〇〇	二〇〇	九三三〇	一四六〇	二七〇〇〇	九三〇〇	一五〇
△ 四六八二	五〇	三七〇〇	四〇	五四〇〇	三〇	六八九〇	一〇三〇〇	二〇八九八	一三六三三
△ 三六七〇九五	一五〇	五八七〇	一〇七〇〇	七五〇〇	七八〇〇	八三〇〇	一九二〇〇	五五四〇〇	一三三一一
△ 八七〇	二〇〇	二九八〇	一〇〇〇〇	一七二〇	三〇〇〇	四二〇〇	二二七五五	二〇〇	五二〇
△ 二五〇	一五〇	八〇	二七〇〇	六五〇	一〇〇	八六〇	九〇〇	三六〇	
△ 二二〇九六	九〇〇	一三三〇〇	七三三三〇	一五九九〇	二九六三〇	二二四二〇	五九二〇七	三八七九八	二七六〇四

痘苗配布月別表

明治四十三年
明治四十四年





痘苗配布道年別表

自明治四十一年
至明治四十四年六月

道名	明治四十一年	明治四十二年	明治四十三年	明治四十四年自一月至六月	計
京畿道	三三八四七	二八〇一〇	七三九八八	四四三〇八	一七九二九五
忠清南道	四二九〇	三五四〇	一九五二三	二三五二八	三八七七二
忠清北道	八八九八	八四九〇	三三九〇八	二七二三〇	六八五三六
全羅南道	一一三〇〇	八三三〇	五三六四〇	二七九七〇	一〇一、二一〇
全羅北道	五七七七	八三三五	四〇〇三〇	一八八九〇	七三、〇三三
慶尙南道	三三三〇	一九三九五	三九二三三	二七八六一	八九七一九
慶尙北道	一四二五三	一三六六〇	四二八九七	五八七九八	一、二八五〇七
黃海道	六三三七	一〇〇四〇	三二八三二	五九三九五	一〇七、五九三
江原道	三三〇〇	八七〇〇	一、六六〇	二、六六〇	四、五〇〇
平安南道	一〇八七〇	五八二〇	一四八七三	二九六六〇	六二、二八三
平安北道	五六三六	五七四五	一九〇四〇	一六〇〇	四六、四三一
咸鏡南道	四二八九	四二五〇	三二〇五〇	七三、七七〇	一、二三、二五九
咸鏡北道	二三四〇	四七三〇	一三、〇五	一、〇〇〇	三三、二〇五
嶺南道	—	—	六五〇	九〇	一、五五〇
嶺北道	—	—	四、四〇七	四、一九四〇	一〇、七六六、九四
計	一二七、六六	一三七、九一五	四一四、〇七三	四一、一九四〇	一、〇七六、六九四